

東御市スポーツ推進計画

スポーツにあふれた、活力と魅力あるまちづくり



平成 31 年（2019 年）3 月

東 御 市

はじめに

「スポーツにあふれた、 活力と魅力あるまちづくり」をめざして



スポーツは、世界共通の人類の文化であり、心身の健康、体力の保持増進及び精神の涵養まで多岐にわたる効用を持ちます。また、地域社会の再生や地域経済の活性化にもその役割が期待されています。

本市では、これまで教育政策として「一市民1スポーツ」を掲げたスポーツの振興を東御市体育協会が中心となり行ってまいりましたが、さらに東御市の魅力を活かしたスポーツ振興施策を全市的な視点で総合的かつ計画的に進めていくため、平成30年度（2018年度）企画振興部に文化・スポーツ振興室を設置しました。

国内においては、3年連続で世界的なスポーツイベントが開催される「ゴールデン・スポーツ・イヤーズ」を目前に控え、多様な観点から、スポーツ政策を強力に推進しています。また、長野県においても、2027年の第82回国民体育大会（冬季大会及び本大会）と第27回全国障害者スポーツ大会の開催を見据え、県が目指す健康長寿世界一に向けた健康増進や、観光、経済活動への波及効果が期待されています。

本市としても、地方創生に向けた取組みとして、標高1,750mの湯の丸高原に高地トレーニング施設の整備を進め、スポーツ合宿の受入れなどのスポーツツーリズムを推進し、交流人口拡大による地域の活性化にも取り組んでまいります。

また、スポーツは、子ども・青少年の心身の健全育成、体力向上及び市民の活力に満ちた生活を実現するために必要不可欠なものであるとともに、地域の一体感と活力を醸成するという力を持っています。

そこで、本市は基本理念を「スポーツにあふれた、活力と魅力あるまちづくり」とした「東御市スポーツ推進計画」は、市民の皆様の多様なスポーツニーズに応えていくため、乳幼児から高齢者、さらには競技志向者に向けた幅広い内容の計画としています。

また、この計画は、心身の健康増進からスポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり、人・地域間の交流促進、地域経済の活性化まで、スポーツが持つ多様な力を推進力にして多岐にわたる市民の皆様の思いを実現させようというものです。

結びに、本計画の策定にあたり、熱心にご審議いただくとともに、貴重なご意見やご提言を賜りました「東御市スポーツ推進審議会委員」の皆様をはじめ、関係団体の皆様、市民の皆様に心からお礼を申し上げますとともに、今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年（2019年）3月

東御市長 花岡 利夫

目次

第1章 スポーツ推進計画策定にあたって

1 計画策定の背景	1
2 計画策定の趣旨と目的	5
3 計画の位置付け	5
4 計画の期間	6
5 計画における「スポーツ」の範囲	6

第2章 計画の基本的な考え方

1 計画の基本理念	7
2 10年後の目指す姿	7
3 計画の基本目標	7
4 計画の体系	9

第3章 スポーツ推進のための具体的施策

1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成	11
2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実	15
3 スポーツによる地域経済の活性化	19
4 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上	21

第4章 計画の推進にあたって

1 計画の推進と進捗管理	23
2 施策の推進体制と役割	24

資料編

資料1 本市スポーツ推進計画策定の経過	29
資料2 本市スポーツ推進計画策定体制	30
資料3 東御市スポーツ推進審議会委員名簿	31
資料4 東御市スポーツ推進計画策定庁内検討会議委員名簿	32
資料5 諮問・答申	33
資料6 体育協会加盟団体一覧	35
資料7 スポーツ少年団 団員・指導者数の推移	36
資料8 スポーツ教室参加者数の推移	37
資料9 スポーツ施設一覧	38
資料10 スポーツ施設利用状況の推移	39
資料11 東御市の運動・スポーツに関するアンケート調査結果	40
資料12 東御市スポーツ振興意見交換会報告書	72
資料13 パブリックコメントの結果について	87
資料14 東御市スポーツ推進審議会条例	93

第1章 スポーツ推進計画策定にあたって

1 計画策定の背景

(1) 社会状況の変化と課題

近年の利便性の向上、情報化、労働形態の変化は、私たちに便利で快適な生活をもたらす反面、運動不足やストレスの増加により、人々の心身の健康に負の影響をもたらすことが指摘されています。また、急速な少子高齢化の進展により、日本の社会情勢は著しく変化しています。

例えば、少子化に伴い、日常的に子ども同士で遊ぶ機会が減少し、休日、放課後等に外遊びをしない子どもが増加しました。また、学校の運動部活動では、部員数の減少に伴う休・廃部が増え、子どもたちのスポーツの機会及び場が減少しています。

高齢化については、平均寿命が延びる一方で、要支援・要介護認定者数や介護サービス利用者も増加しており、今後は、健康寿命の延伸に向けた取組みが求められています。

さらに、社会の活力を維持、増進するためには、性別、年齢、国籍、障がいの有無によらず、誰もが活躍できる共生社会の実現が求められています。

わが国では、これまで昭和36年（1961年）に制定された「スポーツ振興法」に基づき、国民の心身の健全な発達と明るく豊かな国民生活を形成するために、スポーツの振興を行ってきました。しかし、社会の状況が大きく変わる中、スポーツに求められる役割・期待も変化してきています。



(2) 国の動向

平成 31 年（2019 年）ラグビーワールドカップ、平成 32 年（2020 年）東京オリンピック・パラリンピック競技大会、平成 33 年（2021 年）関西ワールドマスターズゲームズと 3 年連続で世界的なスポーツイベントが開催される「ゴールデン・スポーツ・イヤーズ」を目前に控え、国では、多様な観点から、スポーツ政策を強力に推進しています。

平成 23 年（2011 年）には、スポーツ振興法を半世紀ぶりに全面改訂し、新たに「スポーツ基本法」が成立、翌年の平成 24 年（2012 年）には、「スポーツ基本計画」が策定されました。そこでは、「スポーツ権」の確立、スポーツの多面的な役割、スポーツの内在的な価値がうたわれた他、障がい者スポーツが明文化されました。

また、平成 27 年（2015 年）にはスポーツ立国の実現を使命としたスポーツ庁が創設され、翌年の平成 28 年（2016 年）には、スポーツ庁と経済産業省が共同で「スポーツ未来開拓会議」を立ち上げ、スポーツ市場規模を 2025 年までに 15 兆円（現状の約 3 倍）に拡大するための戦略が策定されました。スポーツは、国レベルの成長産業としても大きく期待されています。

平成 29 年（2017 年）には、直近の現状と課題を踏まえて、「第 2 期スポーツ基本計画」が策定され、①スポーツで「人生」が変わる、②スポーツで「社会」を変える、③スポーツで「世界」とつながる、④スポーツで「未来」を創る、という 4 つの観点から、人々がスポーツの力で人生を楽しく健康で生き生きとしたものとし、活力ある社会と絆の強い世界を創るという「一億総スポーツ社会」の実現を目指しています。

昭和 36 年（1961 年）に制定された「スポーツ振興法」から半世紀を経て、我が国のスポーツは、まさに今、新しい時代の入口に立っています。



(3) 県の動向

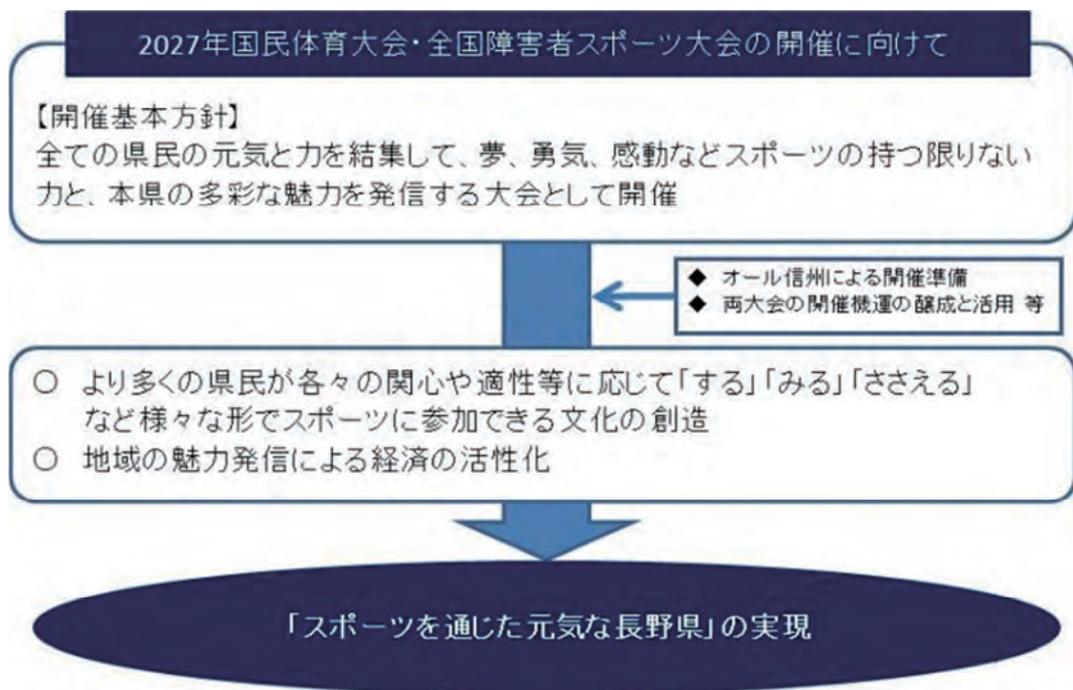
長野県では、平成 25 年（2013 年）に「長野県スポーツ推進計画」を策定し、県民一人ひとりがその自発性のもとに、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、各々の関心や適性に応じて日常的にスポーツに親しみ、又はスポーツを支える活動に参画できる環境を整えるべく、様々な施策に取り組んできました。

長野県では、子どもの体力・運動能力や県民のスポーツ実施率は上昇傾向にある一方で、運動をする子としない子の二極化や、ライフスタイル・価値観の多様化を背景とした若年世代のスポーツ活動参加の低迷の他、少子化の進展による運動部活動のあり方も新たな課題と捉えています。

2027 年には第 82 回国民体育大会（冬季大会及び本大会）と第 27 回全国障害者スポーツ大会が長野県で開催される見込みです。49 年ぶりとなる両大会の開催は、全ての県民がスポーツに親しむ契機となるのみならず、次代を担う子どもたちに夢や希望を与えるとともに、県が目指す健康長寿世界一に向けた健康増進や、県の魅力を全国へ発信することによる観光や経済活動への波及効果も期待できるものです。

こうした中、新たに県は、10 年後の目指す姿と今後 5 年間に取組むべき施策を明らかにした「第 2 次スポーツ推進計画」を平成 30 年（2018 年）に策定しました。この計画は国の第 2 期スポーツ基本計画を踏まえ、長野県の今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策を定めたものです。

図表 長野県における国民体育大会・全国障害者スポーツ大会開催に向けて



※ 第 82 回国民体育大会・第 27 回全国障害者スポーツ大会…平成 29 年（2017 年）7 月開催の公益財団法人日本体育協会（現日本スポーツ協会）理事会において、長野県での開催が内々定となっています。

(4) 東御市の動向

スポーツを取り巻く状況は大きく変わり、スポーツの価値や社会的役割の重要性が高まる中、市民のスポーツ活動の現状を把握し、新たな課題に対応するため、平成 31 年度（2019 年度）から 5 年計画となる「東御市スポーツ推進計画」を策定します。

本市では、スポーツ振興を教育政策として行ってきましたが、平成 30 年度（2018 年度）からは市長部局へ事務移管し、今後、本市の魅力を活かしたスポーツ振興施策を全市的な視点で総合的かつ計画的に進めていきます。

本市では、これまで「みんなの健康×スポーツ実行委員会」を中心とした障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツの普及・振興が図られ、平成 27 年（2015 年）にはユニバーサルスポーツクラブの設立がされました。また、市民の健康増進、運動・スポーツの習慣化に向けた全市的な取組みとして、平成 26 年（2014 年）からはチャレンジデーに参加をしております。

その他、モルドバ共和国の「ホストタウン」として、スポーツを通じた国際交流の推進や湯の丸高原における高地トレーニング環境を活かしたスポーツツーリズムの取組みが始まっており、今後、心身の健全育成や体力向上の他、地域における一体感の醸成、地域の活性化など、スポーツの持つ多様な力を活かしたスポーツ振興、さらにはスポーツによるまちづくりを推進していきます。

図表 本市の主な動向

H25	みんなの健康×スポーツ実行委員会発足
H26	高地トレーニング施設誘致が重点施策となる チャレンジデー初参加
H27	ユニバーサルスポーツクラブ設立
H29	スポーツに関する事務の市長部局への移管検討 モルドバ共和国のホストタウンとしての登録認定 第 20 回高所トレーニング国際シンポジウム 2017 in tomi 開催 湯の丸高原スポーツ交流施設（全天候型 400mトラック、湯の丸高原荘等）竣工
H30	スポーツに関する事務が市長部局へ移管し、「文化・スポーツ振興室」新設 湯の丸高原スポーツ交流施設（屋内運動施設）起工 湯の丸高原スポーツ交流施設合宿受入 モルドバ共和国オリンピック委員会と事前合宿、市民交流事業等に関する「覚書」締結 東御市スポーツ推進審議会設置 「東御市と佐久長聖中学・高等学校とのスポーツ振興に関する協定書」締結 東御市スポーツ推進計画策定

2 計画策定の趣旨と目的

近年、市民のライフスタイルの多様化により、スポーツに対するニーズも多様化するとともに、期待も高まりをみせています。こういった中、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、誰もがライフステージに応じてスポーツに親しみ、楽しみ、又は支える活動に参画できることは、幸福な生活を営むうえで重要な意義を持っています。

スポーツは、子ども・青少年の心身の健全育成や体力向上の他、他者を尊重し協働する姿勢、公正さと規律を尊ぶ態度や自制心を培う人格形成にも資するものです。その上、健康で活力に満ちた社会の実現には欠くことのできないものであり、人と人、地域と地域の交流を活発化や地域の一体感と活力の醸成、地域への愛着を生み出すものです。

さらに、トップアスリートが競技に挑む姿は、多くの人々に夢や感動、誇りや喜びをもたらし、地域に元気を生み出すとともに、地域における選手育成、スポーツ競技力の向上にも大きな影響を与えます。その他、スポーツの振興は産業の広がり、雇用の創出等による地域経済の発展にも寄与するものです。

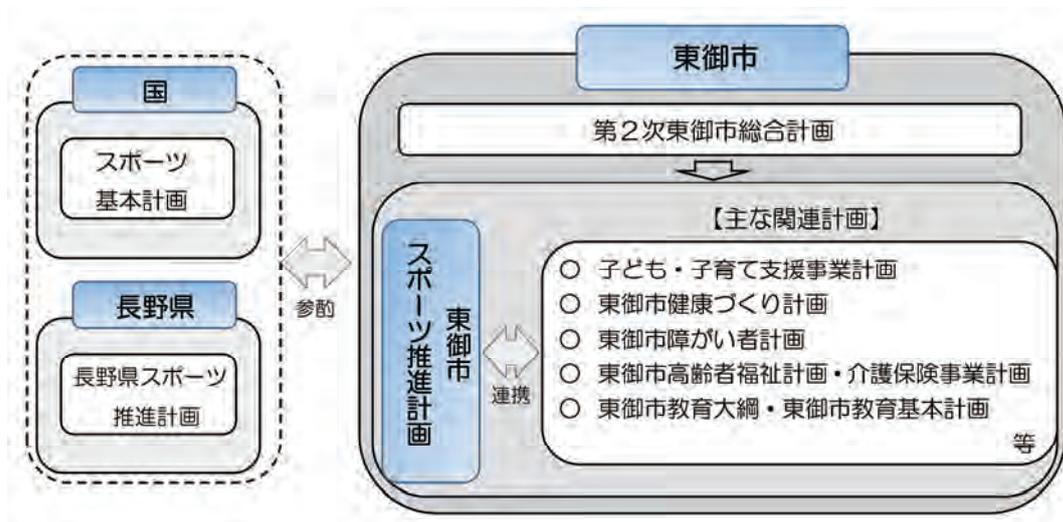
以上のようなスポーツが持つ限りない力を最大限に活かして地域の活性化を図るため、本市の10年後の目指す姿を描き、今後5年間に取組むべきスポーツ振興施策を示した「東御市スポーツ推進計画」を策定します。

3 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条の『地方スポーツ推進計画』と位置づけ、国の『スポーツ基本計画』や長野県の『スポーツ推進計画』を尊重しつつ、『第2次東御市総合計画・後期基本計画』を上位計画とし、『子ども・子育て支援事業計画』、『東御市健康づくり計画』、『東御市障がい者計画』等との整合を図り、本市におけるスポーツ推進の基本的な方向性を示すものです。

なお、本市が目指すスポーツ施策の方向性について、庁内の関連部署の連携を密に検討を行い、市民や関係団体等が共通認識を持ち、本計画の基本理念の実現に向け、総合的かつ計画的に取り組んでいくために必要な行動計画を下位計画として定めていくこととします。

図表 本計画の位置付け



4 計画の期間

10年後の「目指す姿」を見据えた前半5年間の計画とし、本計画の期間を平成31年度（2019年度）から平成35年度（2023年度）までの5年間とします。

なお、本計画は施策の進捗状況や社会情勢の変化等に柔軟に対応するため、必要に応じて適宜見直しを行うこととします。

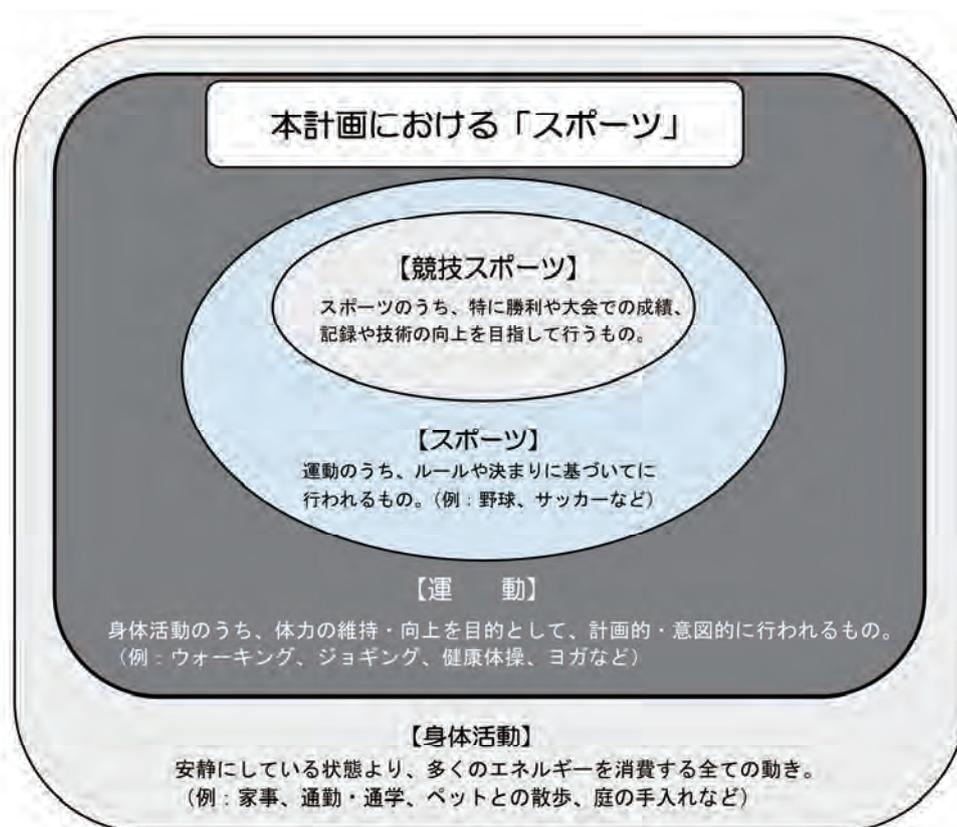
5 計画における「スポーツ」の範囲

本計画における「スポーツ」は、スポーツをより多くの市民が身近に感じられるよう、スポーツの概念を広く捉えています。

勝敗や記録を競い、それを目的とした「競技スポーツ」に加えて、クラブや友人同士で行う野球やサッカー、余暇活動として行われるトレッキング、ウィンタースポーツ等の「スポーツ」、子どもの運動遊びや、ジョギング、ウォーキング、ヨガ等の健康づくりのための「運動」も包含しています。

なお、本計画の「スポーツ」の範囲外ではありますが、「身体活動」も健康づくりや介護予防の観点から非常に重要なものです。

図表 本計画における「スポーツ」の範囲



第2章 計画の基本的な考え方

1 計画の基本理念

スポーツは、子ども・青少年の心身の健全育成、体力の向上及び人々の健康で活力に満ちた生活の実現には欠くことのできないものです。また、スポーツにより人と人、地域と地域の交流が活発になり、地域の一体感と活力を醸成する等、多様な可能性を持っています。

さらに、2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、2027年には長野県で「国民体育大会・全国障害者スポーツ大会」が開催されることから、市民のスポーツに対する興味・関心は、今後益々高まっていくと考えられます。

このような中、スポーツの持つ限りない力を活かしたスポーツ振興を図ることによって、市民の日常にスポーツがあり、人間関係と地域経済が豊かな、健康で笑顔が輝くまちを実現します。

～ 基本理念 ～

スポーツにあふれた、活力と魅力あるまちづくり

2 10年後の目指す姿

日常にスポーツがあり、人間関係と地域経済が豊かな、健康で笑顔輝くまち・とうみ

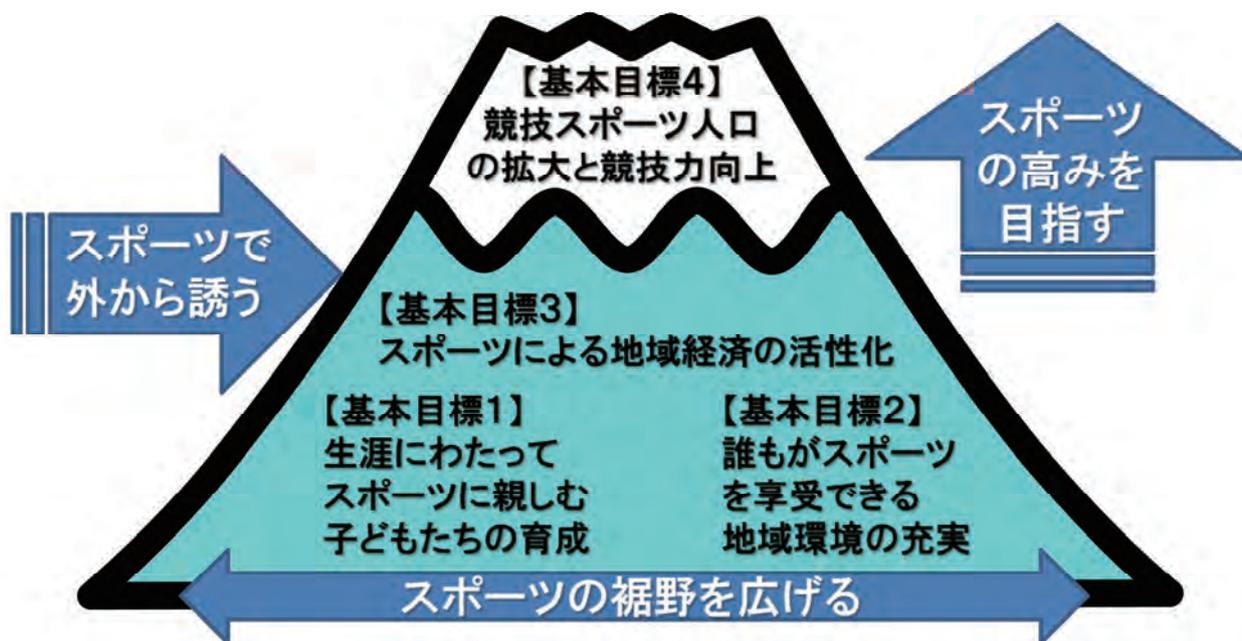
3 計画の基本目標

計画の基本理念を実現するために、「スポーツの裾野を広げる」、「スポーツで外から誘う」、「スポーツの高みを目指す」という3つの視点を持ち、本市におけるスポーツの山を大きくするため、今後のスポーツ推進の主要な目標を掲げて具体的な施策に取り組めます。

図表 基本目標

視 点	基 本 目 標
スポーツの裾野を広げる	1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成
	2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実
スポーツで外から誘う	3 スポーツによる地域経済の活性化
スポーツの高みを目指す	4 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上

図表 3つの視点と4つの基本目標で本市のスポーツの山を高く、大きく



<p>基本目標1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成</p> <p>子どもたちが生涯を通じてスポーツに親しむきっかけとなるよう、外遊び、学校体育やスポーツ活動への支援を行いスポーツ機会の充実と体力向上を図ります。</p>
<p>基本目標2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実</p> <p>さまざまなライフステージに応じたスポーツ活動ができるよう、スポーツ機会の創出、活動の支援、それらを支える人づくりによって生涯にわたる地域スポーツの振興を図ります。</p>
<p>基本目標3 スポーツによる地域経済の活性化</p> <p>恵まれたスポーツ環境等を積極的に活用し、交流人口の増加を図るとともに、地域経済の活性化を図ります。</p>
<p>基本目標4 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上</p> <p>より高みを目指す人々を支え、導く体制等を整えるとともに、アスリートとの交流機会の創出を図ります。</p>

4 計画の体系

基本理念

スポーツにあふれた、活力と魅力あるまちづくり

基本目標1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成【裾野を広げる】

1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり

- 個別施策
- ①発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨
 - ②幼児期に子どもたちが主体的に遊べる機会の充実
 - ③運動遊び・自然体験活動等による保育・幼児教育の充実

1-2 小学生期のスポーツへの円滑な接続

- 個別施策
- ①学校体育及び教科外・放課後活動充実のための専門的支援
 - ②低学年からの外遊びと、高学年でのスポーツ(少年団等)活動の活性化
 - ③様々なスポーツ種目の体験や、一流選手等との触れ合いができる機会の提供

1-3 中学生期のスポーツニーズへの対応

- 個別施策
- ①保幼小での積み上げと連動した保健体育の充実
 - ②望ましい運動部活動のための支援体制づくり
 - ③中学でのスポーツ離れを防ぐための「ゆる部活・ゆるスポーツ」等の導入

1-4 子どもたちの育ちを支え、応援するための環境づくり

- 個別施策
- ①子どもたちの心身の発達段階を熟知した指導者の養成
 - ②子どもたちのためのスポーツ活動に対する保護者理解の促進

基本目標2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実【裾野を広げる】

2-1 スポーツ参加のきっかけとなる機会(イベント)の充実

- 個別施策
- ①市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取組み
 - ②行政他分野の各事業におけるスポーツの積極的な導入

2-2 青壮年期のスポーツ活動の促進

- 個別施策
- ①働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進
 - ②働き盛り世代のスポーツ習慣化への支援
 - ③積極的な情報発信

2-3 スポーツ施設等(ハード)の整備と活用

- 個別施策
- ①スポーツ施設の適正管理
 - ②小中学校の学校体育施設の開放

2-4 地域スポーツ活動組織・人材等(ソフト)の充実

- 個別施策
- ①スポーツ推進委員活動の強化
 - ②体育協会活動充実への支援
 - ③総合型地域スポーツクラブや人材バンク(仮称)の創設

2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり

- 個別施策
- ①身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実
 - ②障がいの有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催
 - ③市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い

基本目標3

スポーツによる地域経済の活性化【外から誘う】

3-1 スポーツツーリズムの推進

個別施策

- ①地域スポーツコミッションの設立
- ②湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入
- ③東御市ならではのスポーツの魅力発信
- ④ホスタウン事業の推進

3-2 スポーツを活かした地域の活性化

個別施策

- ①産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積
- ②専門機関等とのサポート連携協定の推進
- ③スポーツを活かした起業を支援する環境整備
- ④スポーツ医科学研究(運動・栄養等)と連携したビジネスの創出

基本目標4

競技スポーツ人口の拡大と競技力向上【高みを目指す】

4-1 スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続

個別施策

- ①トップレベルの競技スポーツの魅力に触れる機会の提供
- ②少年団・運動部活動等のレベルアップ支援

4-2 高みを目指す人々への支援

個別施策

- ①強化選手や一流指導者等への奨励・表彰制度の充実
- ②競技レベルに応じた練習環境に移行するための支援
- ③高地トレーニング環境整備と連動したトップアスリートや指導者等の招聘
- ④東御市、湯の丸高原へスポーツ合宿に訪れた選手やチームへの応援



第3章 スポーツ推進のための具体的施策

1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成 【裾野を広げる】

乳幼児期からの地域特有の自然環境を活用した「外遊び」を中心とし、運動遊びから得る「楽しさ」を通じて幼児期に育むべき志向・能力の向上を目指します。また、学齢期までの継続的なスポーツの機会を通じて、子どもたちがスポーツの意義・価値を実感でき、生涯スポーツへのきっかけとなるように学校体育やスポーツ活動への支援を行うことでスポーツ機会の充実と体力向上を図ります。

<現状と課題>

(1) 学校体育

①本市の児童・生徒の体力レベルは全国平均、全県平均と比べて共に低く、市教委による体力向上委員会等の取組みを通して、継続的な専門的支援が望まれます。特に運動嫌いの子どもたちが体を動かすことに親しむための取組みが必要です。

(2) スポーツ教室、スポーツ少年団

①「子どもたちの外遊びの推進」が、スポーツ振興のために最も力を入れるべきことと求められています（東御市の運動・スポーツに関するアンケート調査結果より。資料11参照）。
②スポーツ少年団においては、少子化に伴い市内各単位団が縮小化しています。子どもたちの多様なニーズに対応するため、スポーツ関係団体と連携して、学校外で興味のあるスポーツに取り組むことができる機会の充実を図ることが求められます。

(3) 運動部活動

①少子化による部員不足、教員の長時間労働、一部の行き過ぎた指導、保護者の過大な介入等、運動部活動に関わる諸問題が散見されます。
②市内中学校間の部活数等の隔たりを解消し、中学生期における運動部活動が充実した有意義なものとなるよう、市、教育委員会、学校、地域、企業等の連携のもとで将来を見据えた具体的な体制整備を進めることが急務です。

1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり

① 発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨

乳幼児期の運動と発達は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎となります。母子保健や子育て支援事業等と連携を図りながら、発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びを推奨します。

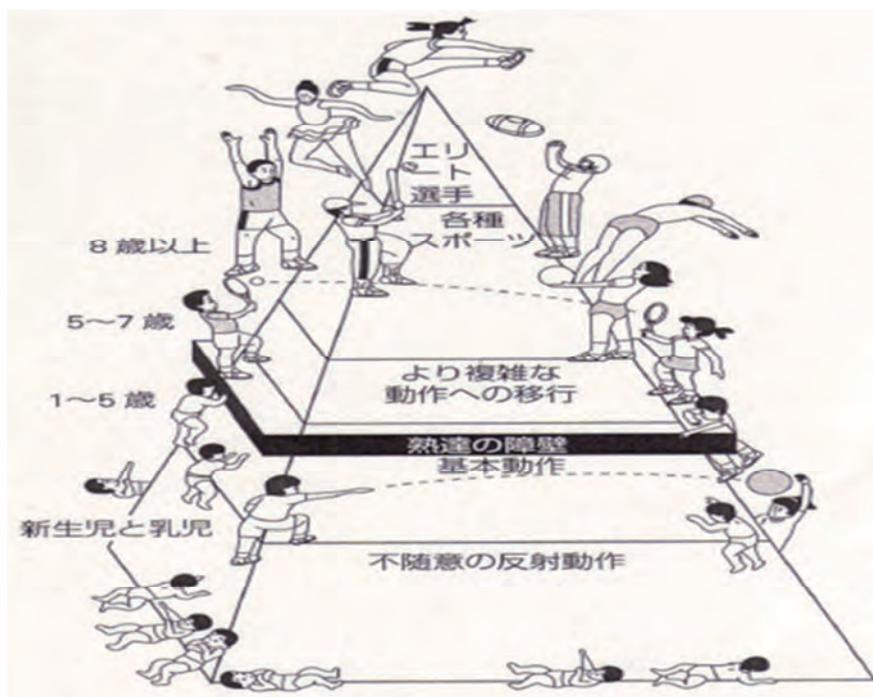
② 幼児期に子どもたちが主体的に遊べる機会の充実

子どもの遊びは、様々な運動体験に加えて自己肯定感を育み、心身の健やかな成長を促します。スポーツにつながる土台として、地域で子どもたちが主体的に遊べる機会を作ります。

③ 運動遊び・自然体験活動等による保育・幼児教育の充実

子どもの生活時間の大部分を占める保育・幼児教育の現場において、園における運動遊びの習慣化や信州型自然保育の取組みの充実を支援します。

図表 スポーツの基礎となる発達段階を示すピラミッド



(出典：子どもに「体力」をとりにどそう (宮下 充正 著))

1-2 小学生期のスポーツへの円滑な接続

① 学校体育及び教科外・放課後活動充実のための専門的支援

運動の特性や魅力を実感できるとともに、体力・運動能力の向上にも資する授業実践や教科外・放課後活動充実のために、「体力・運動能力、運動習慣等調査」の実施も含め、公益財団法人身体教育医学研究所（以下「しんたい」という。）による研修や教材提供等を通じた専門的支援を継続的に行います。

また、障がいのある児童が参加できる体育授業のあり方、特別支援学級におけるスポーツのあり方等を検討・推進します。

② 低学年からの外遊びと、高学年でのスポーツ（少年団等）活動の活性化

多数の子どもたちが児童クラブ、児童館で過ごす放課後の時間帯において、スポーツ関係者が連携を図り、外遊びやスポーツに触れる機会を定着させるための取組みを行います。スポーツ少年団活動の充実に向けては、計画的な指導者育成を図ります。

また、持続可能な活動を目指して、各種団体が連携した「新たな地域スポーツ体制」について検証します。

③ 様々なスポーツ種目の体験や、一流選手等との触れ合いができる機会の提供

スポーツの魅力を感じたり、一流選手に憧れを持つチャンスを持てるよう、様々なスポーツ種目の体験機会や、一流選手等と触れ合う機会を提供します。

1-3 中学生期のスポーツニーズへの対応

① 保幼小での積み上げと連動した保健体育の充実

中学校では、保健体育の授業が専科の教員により行われます。本市における一貫教育を基盤に、保幼小での取組みを活かしたり、積み上げを促す助言を行う等の連携を図ります。

また、障がいのある生徒が参加できる体育授業のあり方、特別支援学級におけるスポーツのあり方等を検討・推進します。

② 望ましい運動部活動のための支援体制づくり

スポーツ庁が示す「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」、県が示す「長野県中学期のスポーツ活動指針」、本市教育委員会が策定する「運動部活動の方針」等に則り、体力・技術の向上のみならず、生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底します。

部活動顧問（外部指導者、部活動指導員含む）の資質向上のため、アスリート育成経験や専門知識を持った指導者による研修等への参加機会を確保します。日本スポーツ協会、長野県体育協会、長野県体育センター等が開催する講習会・競技指導等の研修会への参加及び指導者資格の取得を支援します。また、中学校の運動部活動指導の充実と教員及び保護者の負担軽減を図るため、教員及び生徒のニーズを把握した上で部活動運動指導員の任用を検討します。

さらに、スチューデント・ファースト（学習者本位）の精神に基づく活動となることを大前提に、各学校・各運動部活動の実情を把握し、部員減少による少人数チームの活動の場を保障する等、地域の実情にあった運動部活動の環境づくり・体制づくりを推進します。

③ 中学でのスポーツ離れを防ぐための「ゆる部活・ゆるスポーツ」等の導入

放課後の生徒の自立的なスポーツ活動に定期的に地域の指導者を派遣する取組みとして、「ゆるスポ活動支援事業」の活用を検討する等、生徒のニーズに合った活動機会の創出を図ります。



1-4 子どもたちの育ちを支え、応援するための環境づくり

① 子どもたちの心身の発達段階を熟知した指導者の養成

スポーツ指導者は、子どもたちに多大な影響を与える極めて重要な存在です。子どもの心身の発達を十分に理解した指導者を養成するとともに、養成された指導者が力を発揮できるよう、環境整備や支援を行います。

② 子どもたちのためのスポーツ活動に対する保護者理解の促進

子どもたちのスポーツ活動の充実のためには、支援する家族・保護者理解の促進が不可欠です。指導者だけでなく保護者も学び、選手・指導者の一番の理解者・応援者となる環境を作ります。

図 指導者と保護者のためのチェックリスト

(公益財団法人日本スポーツ協会 アクティブ・チャイルド・プログラム (ACP) 資料より)



チェックリスト ①

子どもの数値評価

スポーツ少年団活動や日常生活において、子どもたちの様子に変化は見られましたか。5段階評価(1. そう思う 2. やや思う 3. 変わらない 4. あまりそう思わない 5. 思わない)で答えてください。

	回答人数
① よく外で遊ぶようになった	<input type="checkbox"/>
② 遊びの種類が増えた	<input type="checkbox"/>
③ 遊びに集中して取り組むようになった	<input type="checkbox"/>
④ 遊んでいる時の表情が変わった	<input type="checkbox"/>
⑤ 積極的に遊びに参加する子が増えた	<input type="checkbox"/>
⑥ 工夫して遊ぶようになった	<input type="checkbox"/>
⑦ 集団で遊ぶようになった	<input type="checkbox"/>
⑧ ルールを守って遊ぶことができるようになった	<input type="checkbox"/>
⑨ 走る、投げるなどの様々な動きがスムーズになった	<input type="checkbox"/>
⑩ ケガや転ぶことが減った	<input type="checkbox"/>

「子どもの成長をより正確に測るための向上に関する研究」 特別健康センター (2008-2009) 作成

チェックリスト ②

指導者のための指導のふりかえりチェックリスト

下記の質問項目に関して5段階評価(1. そう思う 2. やや思う 3. どちらとも思えない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない)で答えてください。

	回答人数
① 子どもたちは楽しそうに参加していますか?	<input type="checkbox"/>
② 毎日、多様な動きを身に付けるための運動プログラムを導入していますか?	<input type="checkbox"/>
③ 保護者に指導の重要性を伝える努力をしていますか?	<input type="checkbox"/>
④ 子どもたちの動きの成長を観察していますか?	<input type="checkbox"/>
⑤ 安全な指導に配慮していますか?	<input type="checkbox"/>
⑥ 子どもたちに対する言葉遣いには配慮していますか?	<input type="checkbox"/>
⑦ 子どもたちの動きの成長や取り組みに対する態度を認め、ほめることを心がけていますか?	<input type="checkbox"/>
⑧ 指導者自身が子どもたちとともに楽しんで参加していますか?	<input type="checkbox"/>
⑨ 上級生の役員たちは、幼児や小学校低学年の子どもたちの参加・指導に協力的ですか?	<input type="checkbox"/>
⑩ 子どもたちの健全な発達にとって、スポーツ少年団はその役割を担っていますか?	<input type="checkbox"/>

チェックリスト ③

保護者のためのチェックリスト

下記の質問項目に関して5段階評価(1. そう思う 2. やや思う 3. どちらとも思えない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない)で答えてください。

	回答人数
① お子さんは楽しそうに参加していますか?	<input type="checkbox"/>
② 毎日、どのような活動をしたのか、お子さんに話かけていますか?	<input type="checkbox"/>
③ スポーツ少年団の運営や指導に協力的に参加していますか?	<input type="checkbox"/>
④ お子さんの動きの成長を観察していますか?	<input type="checkbox"/>
⑤ スポーツ少年団で学んだことを、家庭でも練習したり、親子で取り組んでいますか?	<input type="checkbox"/>
⑥ スポーツ少年団の指導に対して不満や改善要求があれば、指導者に連絡していますか?	<input type="checkbox"/>
⑦ お子さんの動きの成長や取り組みに対する態度を認め、ほめることを心がけていますか?	<input type="checkbox"/>
⑧ 幼児期は、多様な動きの発達が大切であることを理解し、スポーツ少年団の取り組みを見守っていますか?	<input type="checkbox"/>
⑨ お子さんが楽しく、興味をもって参加できるよう、励ましたり、認めたりして支援していますか?	<input type="checkbox"/>
⑩ お子さんの健全な発達にとって、スポーツ少年団はその役割を担っていますか?	<input type="checkbox"/>



2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実 【裾野を広げる】

年齢、性別、障がいの有無等を問わず、誰もが自分のライフステージに応じたスポーツ活動に取り組めることは、生涯を通して幸福で豊かな生活を営むための基盤です。

よって、働き盛り・子育て世代のスポーツ活動の習慣化、健康長寿社会、ユニバーサル社会の実現のために、スポーツ活動を支える人づくりや、環境整備等によってさまざまなライフステージに応じたスポーツ活動を推進し、生涯にわたる地域スポーツの振興を図ります。

<現状と課題>

(1) 市民のスポーツ実施

①本市の「週1回以上運動・スポーツを実施する人の率」は、60%程度であり、国、県、県内同規模自治体と比較しても高い水準にあります。しかし、30代、40代を中心とした働き盛り・子育て世代においては、実施率が低い傾向にあります。

(2) スポーツイベント

①市が開催するスポーツ大会が10大会あり、いずれも参加者は市内在住、在勤に限定しています。現在、参加者が減少していることから、魅力ある大会等の企画・運営が求められます。

②障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツへの参加者は、少数にとどまっています。

(3) スポーツ行政

①ライフステージに応じたスポーツ活動の推進に向けては、市役所において乳幼児期から高齢期までの各段階を所管する各部課等が庁内横断的に連携することが不可欠です。

②スポーツ推進委員の後継者の育成が課題となっています。市民のライフスタイルやニーズが多様化する中、自主的・積極的な活動、市民と市との繋ぎ役としての役割が期待されます。

(4) スポーツ施設

①市内体育施設の中には建設後40年を経過した施設が複数あります。市の公共施設等総合管理計画との整合を図りながら、長寿命化計画を策定する必要があります。

②体育施設・学校体育施設の予約方法の簡素化、空き状況の見える化等が課題です。施設の利便性を高めるための工夫が求められています。

(5) スポーツ組織

①スポーツに対するニーズの多様化に伴い、それらのニーズに柔軟に対応し、スポーツの普及促進を担う若手指導者の育成が課題となっています。

②スポーツ少年団の団員数が減少し、取組みに支障が出ている一方で、市内に同種目の単位団が複数あることから、現状に応じた推進体制の最適化が課題となっています。

③スポーツ関係団体等が定期的に情報共有、意見交換を重ね、今後のスポーツ振興のあり方を検証することが求められています。

2-1 スポーツ参加のきっかけとなる機会（イベント）の充実

①市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取り組み

市民が気軽に参加でき、日頃の練習の成果を発揮する機会となる市民参加型スポーツイベントの充実を図ります。また、各種競技団体が主体となり既存のスポーツ大会のあり方を検証し、質の充実と参加者の増加に向けて、参加者ニーズを踏まえた魅力的な大会を企画・開催します。

「チャレンジデー」を本市の市民総参加型スポーツイベントと位置付け、毎年度継続実施します。

※「チャレンジデー」とは…日本では、公益財団法人笹川スポーツ財団がコーディネーターを務めて毎年5月の最終水曜日に開催されている住民総参加型のスポーツイベントであり、世界中で実施されています。年齢・性別を問わず、日常的なスポーツ習慣化や住民の健康増進、地域の活性化に向けたきっかけづくりを目的に開催されています。

②行政他分野の各事業におけるスポーツの積極的な導入

企画振興部、健康福祉部、教育委員会等と連携を図り、子育て支援事業、健康づくり・介護予防事業、障がい者福祉事業、生涯学習講座等へスポーツを積極的に導入します。

2-2 青壮年期のスポーツ活動の促進

①働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進

企業が行う従業員を対象とした健康事業と連携し、スタッフ派遣や用具貸出しを行い、日常的にスポーツに取り組めるよう、スポーツの必要性や効果的な運動を紹介する等、働き盛り世代がスポーツ活動に親しみ楽しめる環境づくりを支援します。

②働き盛り世代のスポーツ習慣化への支援

企業、公民館等と連携し、スポーツが苦手な人のきっかけづくりを行い、習慣化を支援します。例えば、ニュースポーツやユニバーサルスポーツの体験会等を開催します。

③積極的な情報発信

市報、ホームページ、SNS等を活用するとともに、体育施設を含む公共施設、商店、企業、本市観光情報ステーションにスポーツ情報コーナーを設ける等、情報発信の充実を図ります。

2-3 スポーツ施設等（ハード）の整備と活用

①スポーツ施設の適正管理

市民が安心してスポーツに取り組むことができるよう、市と指定管理者が連携して「東御市公共施設等総合管理計画」との整合を図ったうえで「スポーツ施設長寿命化計画（仮称）」を策定し、計画的な運営・管理に努めます。また、利便性を高めるため、施設予約の簡素化、施設の使用状況の見える化を検証・推進します。

②小中学校の学校体育施設の開放

小中学校の学校体育施設を開放し、市民に身近なスポーツの場を提供するとともに「東御市立小学校長寿命化基本計画」との整合を図り、利用者のニーズに応じた施設の補修等に努めます。

2-4 地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実

①スポーツ推進委員活動の強化

各種研修会へスポーツ推進委員を派遣し、専門的な知識や技術の習得を支援します。また、スポーツ推進委員が地域スポーツ振興の推進役、行政と市民のつなぎ役として、委員内の組織体制を強化し、独自の企画・運営によるイベントや推進への取組みができるよう支援をします。

②体育協会活動充実への支援

特定非営利活動法人東御市体育協会（以下「体育協会」という。）と連携して、市民の主体的なスポーツ活動を促進します。また、体育協会へは、目的を明確にした事業委託と適正な財政的支援を行うことで、加盟団体の普及活動や指導者の育成、競技力の向上等の取組みを促進します。

③総合型地域スポーツクラブや人材バンク（仮称）の創設

市民のライフスタイルに応じて多様なスポーツを実現するため、多世代・多種目・多志向に応える「総合型地域スポーツクラブ」の創設を支援します。特に「こどもの外遊び」、「ユニバーサルスポーツ」、「健康づくり」、「働き盛り世代のスポーツ活動の習慣化」を柱とします。

また、市民スポーツの普及・推進においては、様々な種目・レベルに応じた指導者が必要であることから、体育協会、各競技団体、スポーツ関係団体、企業、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等との連携により多種多様な指導者及びボランティアの募集、掘起しを行い、登録をする「スポーツ指導等人材バンク（仮称）」を創設して、スポーツ団体の育成や競技指導のみならずスポーツ教室、大会・イベントの開催から企画・運営を担っていただける新たな地域のスポーツ体制を支える基盤を強化します。

※ 総合型地域スポーツクラブとは…子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）という特徴を持ち、地域が自主的・主体的に運営するスポーツクラブです。

2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり

①身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実

高齢者、障がい者にとってスポーツが日々の楽しみとなり、生活に潤いを与えられる地域を目指します。

体育協会、スポーツ推進委員、しんたい、総合地域スポーツクラブ等と連携し、高齢者向けプログラムを提供する等、高齢期におけるスポーツを積極的に推進します。また、身近で活動を支援するボランティアを育成します。

また、障がい者のスポーツ活動への参加に向けて、適切な配慮と指導が実施できるよう「みんなの健康×スポーツ実行委員会」、「スポーツ推進委員」を中心として、幅広い層の方々が共に活動する機会の提供に努め、そのための研修機会の充実に取組みます。

ユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動を推進する中で、身近なスポーツとしてボッチャの常設コートを増やすことから各地区の分館スポーツ大会や総合体育大会等の競技種目として普及・促進、定着を図ります。また、「ボッチャのまち・東御」としてブランド化を図ります。

②障がいの有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催

障がいのある方もない方も共にスポーツを「する」機会を提供することで、参加者の皆が達成感、一体感を得ることができ、誰もが身近に運動・スポーツに親しめるユニバーサルな地域の実現に向けて取り組みます。

③市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い

パラスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで、「障がいの有無に関係なく参加者が達成感、一体感を得ることができる」機会として、パラアスリートの招聘や障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツに触れる機会を設けます。

併せて、小・中学生期から障がい者とスポーツ（障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ）を通して触れ合う機会を設けることで、障がいについての理解、ユニバーサルな地域社会づくりへの理解を進めるとともに、将来の指導者、ボランティア活動への接続を図ります。

また、障がい者に配慮した施設のバリアフリー化に努めることはもとより、心のバリアフリー化、情報のバリアフリー化にも努めます。



東御市チームでユニバーサルリレーへの参加



小学生による車いすバスケット体験



ボッチャ交流大会

3 スポーツによる地域経済の活性化 【外から誘う】

本市の強みである湯の丸高原高地トレーニング施設を起爆剤として、官民が一体となり、スポーツ合宿の誘致、観光と連動したスポーツツーリズムを推進することで、知名度の向上や交流人口の拡大による地域経済の活性化を図ります。

<現状と課題>

(1) スポーツ合宿・イベントの受入れ体制

平成30年度（2018年度）から湯の丸高原スポーツ交流施設において、実業団、大学の陸上中長距離を中心とした高地トレーニング合宿の受入れを開始しましたが、関係する団体等の一元的な連携体制が整っていません。今後、市内外の専門機関をはじめとした関係団体との連携を一層強化し、知恵を出し合い本気で地域経済の活性化につなげていくための体制づくりが課題です。

(2) 更なる魅力創出と集客力の向上

地域の魅力を最大限に活かし、スポーツによる継続的な地域経済の活性化を図るため、湯の丸高原の合宿を機軸としたスポーツツーリズムの推進と積極的なプロモーションによる、市内全域への集客効果の波及、スポーツによる新たなビジネスの創出等が求められます。

3-1 スポーツツーリズムの推進

①地域スポーツコミッションの設立

スポーツ団体、企業（スポーツ産業、観光産業）、市等が一体となり、スポーツを観光資源とした新たなイベントの開催、スポーツ合宿誘致等のスポーツツーリズムに取り組むため、そのマネジメント機能を果たす「地域スポーツコミッション」を設立し、スポーツ振興はもとよりスポーツを核とした地域経済の活性化に取り組めます。

※ 地域スポーツコミッション（仮称）

（一社）信州とうみ観光協会、民間宿泊業者、企業、しんたい、旅行業者、体育協会、東御市水泳協会、東御市陸上競技協会、総合型地域スポーツクラブ（設置予定）、市等の連携により運営を予定しています。

②湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入

高地トレーニングの適地である標高1,750mに位置する湯の丸高原スポーツ交流施設へのスポーツ合宿誘致を積極的に行います。特に、陸上中長距離、水泳の施設を活かして実業団・大学等のトップレベルのチーム・選手を中心に合宿の誘致を積極的に進めます。

また、地域スポーツコミッションが、スポーツイベントの開催等魅力的なスポーツツーリズムを主導し、交流人口の拡大、知名度向上、集客増加等、地域経済活性化の好循環を創出します。

③東御市ならではのスポーツの魅力発信

山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ本市特有の魅力を発信するとともに、受け入れ環境を整え誘客を促進し地域の活性化を図ります。

④ホストタウン事業の推進

モルドバ共和国のホストタウンとして、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会出場選手の事前合宿をサポートし、「する」「みる」「ささえる」スポーツの実践を図るとともに、スポーツと国際交流の融合から本市の魅力を広く発信します。

3-2 スポーツを活かした地域の活性化

①産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積

湯の丸高原の高地トレーニングのポテンシャルを最大限に活かすため、専門機関と連携して、高地トレーニングの効果、スポーツツーリズムによる経済波及効果等の検証、分析を行います。

②専門機関等とのサポート連携協定の推進

企業、専門機関等との連携を組織的に推進するため、連携協定の締結を検討します。

例えば、企業、大学等は湯の丸高原を実習・研究施設として活用し、その際、市の関係団体等が活動に参画して人材の育成を図る等、win-winの関係を構築することで、継続的な協力関係を強化します。

③スポーツを活かした起業を支援する環境整備

スポーツを活かした起業を支援するための環境整備を検討します。例えば、商店街空き店舗を活用し、若者が集うインキュベーションスペースを設置すること等が考えられます。

※インキュベーションスペースとは…起業や創業をするために活動する入居者を支援する施設で、地方自治体や公的機関が運営していることが多く、安価な家賃で入居できることが多いものです。

④スポーツ医科学研究（運動・栄養等）と連携したビジネスの創出

起業支援においては、スポーツ医科学・スポーツビジネス研究の専門機関、企業等と連携を図ります。例えば、運動・栄養分野の研究機関と連携した商品開発、スポーツビジネスの研究機関と連携した市場調査・販路開拓等が考えられます。



1泊2日でランニングセミナーを開催



ホストタウン相手国モルドバ共和国と
市民交流事業に関する覚書を締結

4 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上 【高みを目指す】

地元の選手が大きな舞台で活躍する姿は、観るものに感動と勇気を与えるばかりでなく、地域に元気とスポーツへの興味を生み出します。

将来、国内トップレベルとなる選手を本市から輩出するため、指導者の育成、学校部活動の体制整備を進め、競技スポーツ人口の拡大と競技力の向上に向けて取組みます。

<現状と課題>

(1) スポーツ環境

- ①スポーツ少年団、スポーツ教室をはじめとし、少子化や市内で同種目のスポーツ団体が各地区に存在していることで団体そのものが小規模化しており、存続が困難となっています。
- ②中学期の学校運動部活動では、部員不足、教員の長時間労働等の問題から、興味のあるスポーツを身近でできないことが課題となっています。
- ③障がい児者の競技力向上を図るための環境整備が必要となっています。
- ④スポーツ関係団体、地域、学校、企業、教育委員会、市等が連携を図り、子どもたちのニーズを把握し、運営・指導スタッフの育成・確保、指導者レベルの向上、施設の提供等、充実した活動ができる体制を地域が一体となって整備することが急務となっています。

4-1 スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続

① トップレベルの競技スポーツの魅力に触れる機会の提供

障がいの有無にかかわらず、子どもたちがトップレベルの競技スポーツへの夢や憧れを抱き、競技に挑む意欲を喚起するため、体育協会、各種競技団体、企業等と連携しながらトップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室等を開催し、スポーツの魅力を積極的に発信するとともに市内におけるスポーツ環境の質的な充実を図り検討を行います。

また、本市への合宿誘致を通じて、トップレベルの選手・指導者を身近に見る機会から本市の選手、指導者のレベルアップを図ります。

② 少年団・運動部活動等のレベルアップ支援

体育協会、各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の連携により、継続的な競技者育成に向けて、スポーツ教室及びスポーツ少年団の今後のある方を含む質的な充実に向けた取組みをします。

中学運動部活動顧問（外部指導者、部活動指導員含む）の資質向上のため、アスリート育成経験や専門知識を持った指導者による研修等への参加機会を確保します。また、日本スポーツ協会、長野県体育協会、長野県体育センター等が開催する講習会・競技指導等の研修会への参加及び指導者資格の取得を支援します。

4-2 高みを目指す人々への支援

①強化選手や一流指導者等への奨励・表彰制度の充実

全国大会に出場した個人・団体に対して奨励金の支給を継続するとともに、指導者等への表彰制度設立を検討します。

また、国内外で活躍する市民又は市出身選手を広く周知することで、スポーツ活動のより一層の発展を支援します。

②競技レベルに応じた練習環境に移行するための支援

競技志向の高まりによるニーズに対応できる新しい地域スポーツ体制の創造は、競技スポーツ人口の拡大、競技力向上を図るうえで必要不可欠です。

特に、中学校運動部活動については、生徒のニーズに合った活動機会を提供するために、活動を地域に移行することも考えられることから、制度移行時に迅速な対応が可能となるよう体育協会、学校、地域、企業、教育委員会、市等が一体となり学校の枠を超え「誰もが」「希望する部活動」に参加できる「新たな地域スポーツ体制」の検証を進めます。

③高地トレーニング環境整備と連動したトップアスリートや指導者等の招聘

湯の丸高原を国内屈指の高地トレーニングエリアとして整備し、積極的なプロモーションをすることで国内トップレベルの競技者・指導者を湯の丸高原に招聘し、交流機会の充実を図ります。

一流アスリートの技術力及び指導力を肌で感じることによって、市内における競技力・指導力の向上を促します。

④東御市、湯の丸高原へスポーツ合宿に訪れた選手やチームへの応援

合宿・イベント等で本市、湯の丸高原を訪れた選手、チームとの交流を通じ、地域で選手・チームを支える体制の構築を図ります。

「みる」「ささえる」スポーツの充実に加え、地域の誇りや結束を醸成する機会とします。



第4章 計画の推進にあたって

1 計画の推進と進捗管理

(1) 計画の推進と進捗管理・評価

本計画は、本市をはじめとして、市民・企業・スポーツ関係団体等さまざまな主体が協働することにより推進します。

進捗管理は、定期的に現地におけるモニタリング・市民向けアンケート調査等を実施し、事業の進捗管理や達成度の点検、成果の検証を行うとともに、必要に応じて計画や目標を見直す等、進捗状況に応じて、計画の改善を図ります。

また、市長の附属機関である本市スポーツ推進審議会に毎年度、進捗状況を報告し、適切な評価を行います。なお、本計画の進捗状況は、ホームページ等で随時公表し、市民や関係団体等の意見を施策へ反映する環境を整備します。

(2) 計画における数値目標

項 目	平成 29 年度実績	平成 35 年度目標
① 小中学生の過去 1 年間の運動・スポーツの非実施者の割合 ※健康状態等によりスポーツを実施することが困難な人に配慮した割合とする。	小学生 11.13% 中学生 7.51%	0%
② 小中学生の体力合計点(小中男女合計平均) ※体力合計点は、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における、体力テスト各種目の合計得点小5、中2の男女別の得点を平均する。	本市平均 50.15 点 長野県平均 50.89 点	52 点
③ 成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	60.4%	65%
④ 本市チャレンジデーへの参加率	61.5%	63%
⑤ 60 歳以上の週 1 回以上のスポーツ実施率	68.6%	70%
⑥ 障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ参加機会の充実	中間で進捗を把握し、適切な目標を設定します。	
⑦ 運動・スポーツ等身体を動かすことが好きな市民の割合	73.7%	80%
⑧ ボッチャの普及 ※「ボッチャ」の常設コート数	2 箇所	6 箇所
⑨ 湯の丸高原スポーツ交流施設利用者の市内宿泊数	0 泊	10,000 泊
⑩ 全国大会に出場する個人・団体の数	26 人・団体	40 人・団体

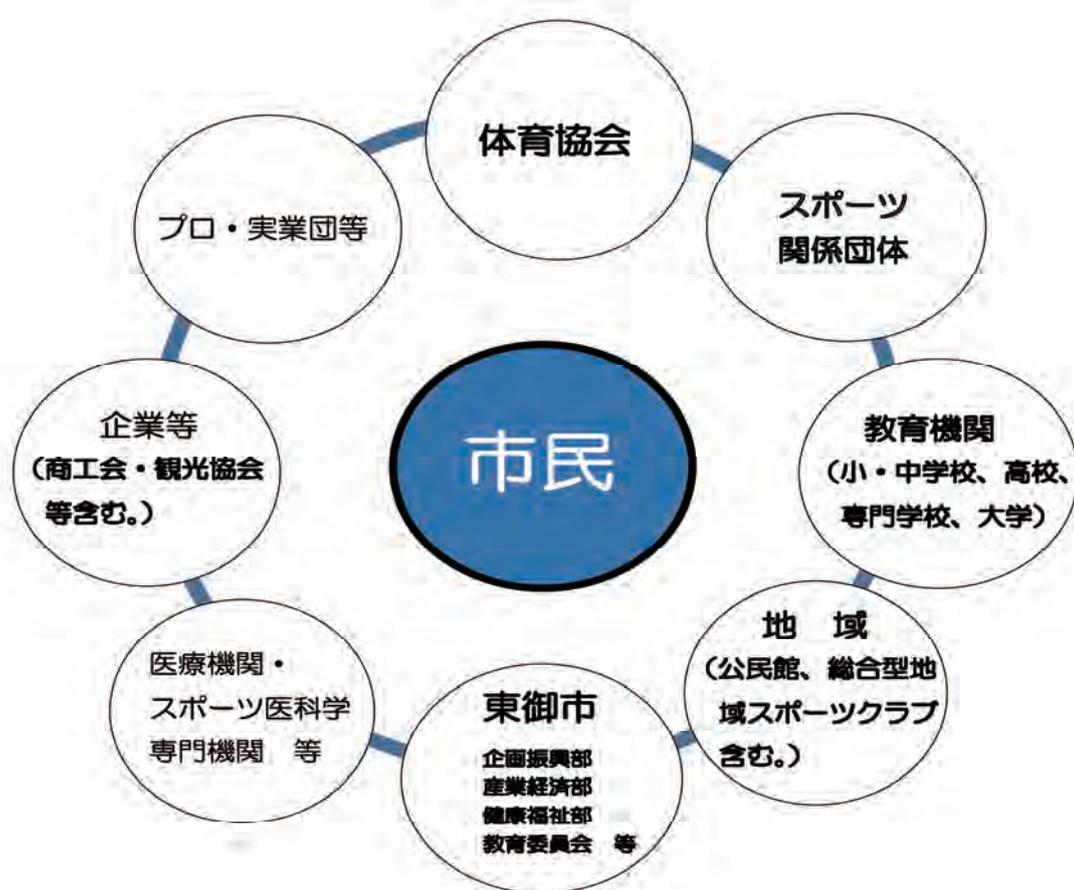
2 施策の推進体制と役割

(1) 推進体制について

基本理念の実現に向けて、本計画を着実に推進するためには、市民のスポーツ参画人口の拡大、共生社会の実現、健康増進、郷土への愛着の醸成や地域経済の活性化等につながるスポーツに関する施策を総合的、体系的かつ戦略的に推進することが求められています。

また、本市を取り巻くスポーツ環境の変化や多様化するニーズに的確に応えるためには、行政の取組みだけでなく地域住民との協働が欠かせません。地域の中で、市民の皆さまをはじめ、地域、学校、スポーツ関係団体、民間企業、体育協会及び市が、それぞれの役割や責任を踏まえ、相互に尊重した関係のもと連携・協働をして、計画の実現を目指します。

図表 計画の実現に向けた連携・協働体制



(2) 計画の実現を担う皆さんへの期待

① 市民

スポーツ活動に積極的に取組まれることを期待します。なお、スポーツを「する」だけでなく、ボランティア等の「ささえる」活動や、スポーツを通じた交流活動への積極的な参加もお願いします。

② 体育協会

自主事業としてのスポーツ大会・スポーツ教室の開催により、競技力の向上、交流人口の拡大、スポーツの習慣化等につながるような事業推進を期待します。

また、指導者の育成・強化、指導者の派遣、スポーツ情報の提供等市民がスポーツに親しめる環境の整備を期待します。

③ スポーツ関係団体（スポーツ推進委員、スポーツ少年団含む）

市・事業者等と連携し、市民のスポーツに親しむ機会の創出、競技力の向上やスポーツの持つ魅力の発信が求められます。

また、多様なニーズに対応するための知識や技術の習得に努めていただくとともに、団体間の連携を図り、地域スポーツ振興の推進役、行政と市民のつなぎ役としてスポーツへの興味が薄い人へ動機付けや、スポーツの楽しみ方の啓発等を期待します。

④ 教育機関（小・中学校、高校、専門学校）

小・中学校においては、児童・生徒の体力向上や運動機会を確保するため、学校体育、運動部活動の充実を図るとともに、運動意欲を喚起し生涯スポーツへのきっかけ作りを期待します。また、学校体育施設の開放を促進し、市民がより身近にスポーツ活動に親しめる場の提供が求められます。

高校、専門学校においては、スポーツ教室、スポーツ大会等への積極的なボランティア参加をお願いし、地域に関わることを自らの経験、学びの機会として捉え、専門性を活かしたスポーツ振興への貢献を期待しています。

⑤ 区・公民館・育成会・PTA・地域づくりの会等

地域のスポーツやレクリエーション環境の充実を図り、人々の地域活動への参加意欲を高めるため、公民館や学校PTAを中心としたスポーツ行事への積極的な参加をお願いします。

⑥ 医療機関・スポーツ医科学専門機関等

専門分野での競技者の支援やスポーツ医科学の理論に基づいた知識の伝達・普及に向けた協力・支援を期待します。

なお、しんたいは、保健・福祉・医療・教育・スポーツをはじめ多分野での横断的な調査研究・教育啓発・人材育成等の活動に取り組んでおり、地域密着のシンクタンクとして、各種事業や関係団体、外部専門機関等をつなぐ要の役割として期待しています。

⑦ 企業等

従業員の健康保持増進に向けた定期的なスポーツの実施及びスポーツの習慣化への取組みを期待します。

また、トップレベル選手の育成・支援、市民スポーツへの資金的な支援及び地域への指導者・トレーナーの派遣等、企業が保有する人材、情報、施設などの資源を地域のために活用して頂けることを期待します。

⑧ プロ・実業団等

湯の丸高原で合宿をするアスリートとの交流は、「みる」「ささえる」スポーツとして市民に活力・夢・感動を与える機会となります。市民との積極的な交流を期待します。

(3) 各分野における市役所関係部局間の連携

本計画の基本理念「スポーツにあふれた、活力と魅力あるまちづくり」の実現に向け、企画振興部文化・スポーツ振興室を中心として、本計画を具体的に進めるための行動計画を作成します。そのうえで、庁内関係部局の横断的な連携はもとより、関係団体等との連携、協働体制を一層強化した施策展開を図ります。

① 教育分野

教育委員会教育課、生涯学習課との連携を密にし、子どもたちの心身の健全な育成を図り、実践だけでなくスポーツに対する多様な関係のあり方も学習し、生涯スポーツの推進につなげます。

また、学校体育や既存の運動部活動だけでなく、新しい地域スポーツのあり方を検討する中で、地域、スポーツ関係団体とも連携し、子ども達がやりたいスポーツを楽しめる環境の構築に向け取り組んでいきます。また、トップレベルの選手とのふれあいや指導の機会を創出することで、スポーツの高みを目指す動機付けとスポーツに親しむ・楽しむ・好きになる環境を充実させます。

② 経済・観光分野

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催は、水泳・陸上長距離種目を中心とした日本強化チーム及びホストタウンであるモルドバ共和国の事前強化・調整合宿地として、地域づくり・移住定住支援室とも連携し、本市の魅力をアピールする絶好の機会です。

都心からのアクセスの良さ、湯の丸高原、標高差、晴天率の良さ、巨峰・胡桃をはじめとする特産物、ワイン、温泉等の強みを最大限に活かし、商工観光課、農林課との連携から宿泊業者、商工会、観光団体等との協働でスポーツツーリズムを展開し地域経済の活性化へつなげます。

なお、スポーツコミッションによるスポーツ合宿・イベントの誘致、実施及び支援を通じて多くの人を外から誘うことで、交流人口の拡大、シティープロモーション効果、ブランド化、更なる集客増加の好循環を生み出し地域経済の活性化へとつなげます。

③ 健康・福祉分野

乳幼児期の運動、保育・幼児教育の現場における運動遊びの習慣化や信州型自然保育の取り組みにおいて子育て支援課との連携を密にして就学までのスポーツの土台づくりを図ります。

青壮年期のスポーツ活動の推進にあたっては、健康保健課、生涯学習課（公民館含む）と一層連携を深め、働き盛り・子育て世代がスポーツに親しめる環境づくり、スポーツ活動へのきっかけづくりと習慣化を推進します。

高齢者、障がい者が身近にスポーツに親しめる機会の充実を図るため、福祉課との連携により、ウォーキングやヨガ、健康体操等、誰もが自分のペースで取組めるスポーツの機会を充実させ、習慣化を図ることで心身の健康づくりを推進します。

また、福祉課との連携においては、「みんなの健康×スポーツ実行委員会」との連携を中心に、障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツの充実に積極的に取り組み、スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくりを推進します。

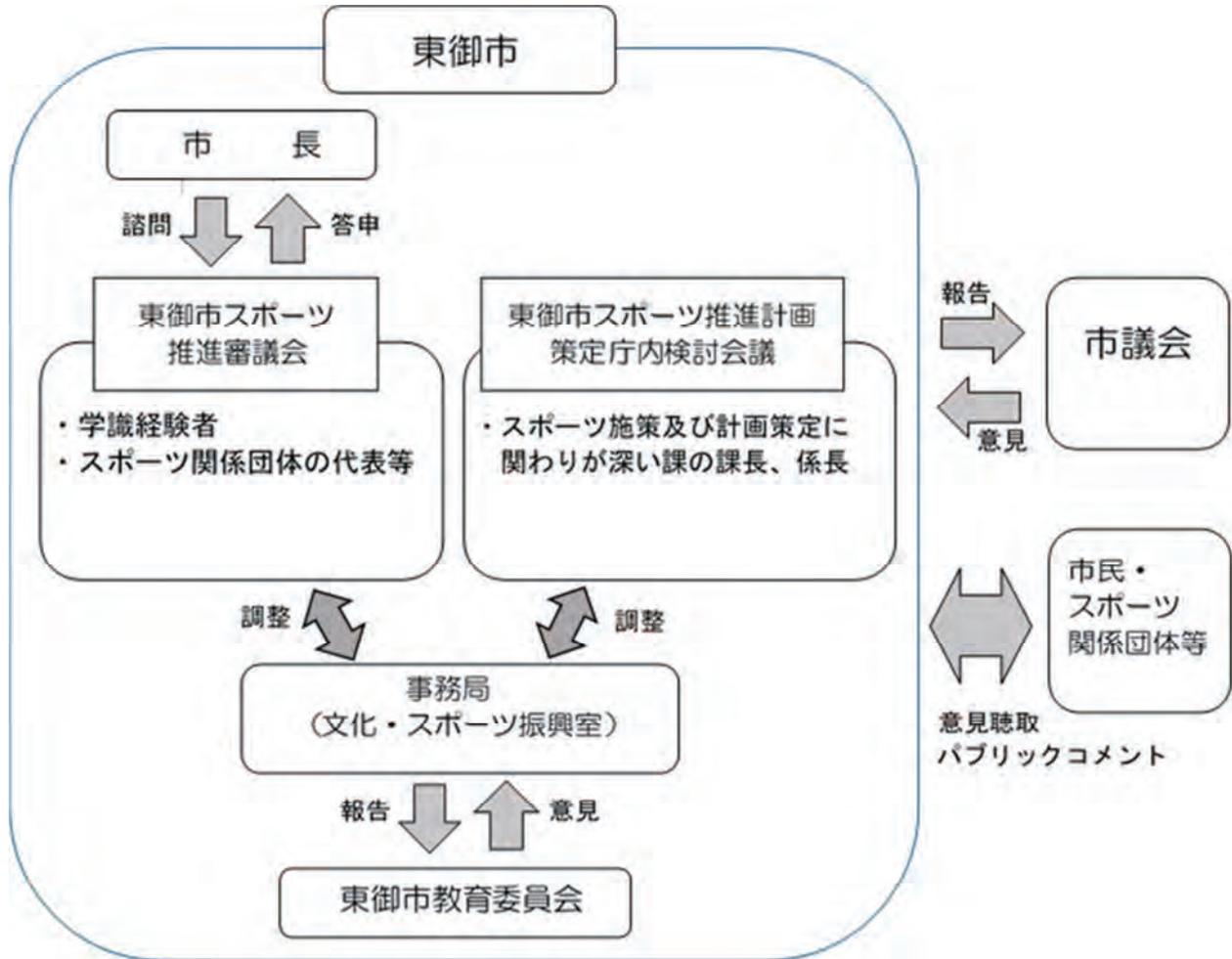
【 資 料 編 】

- 資料 1 本市スポーツ推進計画策定の経過
- 資料 2 本市スポーツ推進計画策定体制
- 資料 3 東御市スポーツ推進審議会委員名簿
- 資料 4 東御市スポーツ推進計画策定庁内検討会議委員名簿
- 資料 5 諮問・答申
- 資料 6 体育協会加盟団体一覧
- 資料 7 スポーツ少年団 団員・指導者数の推移
- 資料 8 スポーツ教室参加者数の推移
- 資料 9 スポーツ施設一覧
- 資料 10 スポーツ施設利用状況の推移
- 資料 11 東御市の運動・スポーツに関するアンケート調査結果
- 資料 12 東御市スポーツ振興意見交換会報告書
- 資料 13 パブリックコメントの結果について
- 資料 14 東御市スポーツ推進審議会条例

本市スポーツ推進計画策定の経過

時 期	項 目	概 要
2018 年 5 月 23 日(水)	第 1 回策定庁内検討会議	計画項目及び構成の検討
〃	第 1 回策定検討会	策定の目的及び計画構成の検討
8 月 1 日(水)	笹川スポーツ財団ヒアリング	体育協会役員との懇談
8 月 9 日(木)	第 1 回スポーツ推進審議会 市長から「スポーツ推進計画の策定」 を審議会に諮問	計画策定の趣旨説明 計画骨子の決定
9 月 27 日(木)	第 1 回スポーツ振興意見交換会	公財) 笹川スポーツ財団による市民と の意見交換会
10 月 4 日(木)	第 2 回スポーツ推進審議会	計画(素案)について審議
10 月 30 日(火)	第 2 回スポーツ振興意見交換会	公財) 笹川スポーツ財団による市民と の意見交換会
11 月 30 日(金)	第 3 回スポーツ推進審議会	計画(素案)について審議
2019 年 1 月 9 日(水) ～ 2 月 5 日(火)	スポーツ推進計画(原案)に関する パブリックコメント実施	提出者数 3 名 掲出意見数 27 件
3 月 1 日(金)	第 4 回スポーツ推進審議会 審議会から「東御市スポーツ推進計 画(案)」を市長へ答申	計画(案)決定 答申にあたっての付帯意見決定

本市スポーツ推進計画策定体制



東御市スポーツ推進審議会委員名簿

本市スポーツ推進審議会委員は、下表のとおりです。

	区 分	氏名	所 属	区 分
1	会長	横田 匡俊	日本体育大学 スポーツマネジメント学部 准教授	学識経験者
2	職務代理者	依田 恵子	東御市スポーツ推進委員	スポーツ団体 ・関係機関
3	委員	神津 志保美	元スピードスケート バンクーバーオリンピック代表	アスリート
4	委員	岡田 真平	公益財団法人身体教育医学研究所 所長	スポーツ団体 ・関係機関
5	委員	小野山 洋身	東御市区長会 副会長	
6	委員	唐澤 光章	東御市高齢者クラブ連合会 会長	
7	委員	木下 智宏	東信教育事務所 生涯学習課 指導主事	
8	委員	篠原 博文	東御市スポーツ少年団 本部長	
9	委員	関口 順子	小・中学校長会 滋野小学校 教頭	
10	委員	関 豊春	東御市障害者団体協議会 会長	
11	委員	中堀 雅夫	東御市体育協会 副会長	
12	委員	早川 一夫	(一社)信州とうみ観光協会 事務局長	
13	委員	廣田 美和子	社会教育委員 副議長	
14	委員	三溝 和子	市民	公募
15	委員	武田 順子	市民	
1	アドバイザー	柳沢 和雄	筑波大学 体育系 教授	学識経験者
2	オブザーバー	小淵 和也	(公財)笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 主任研究員	学識経験者

資料 4

東御市スポーツ推進計画策定庁内検討会議委員名簿

本市スポーツ推進計画策定庁内検討会議委員は、下表のとおりです。

区 分	役 職	氏 名
委 員	企画振興部長	岩下 正浩
	企画振興部企画振興課長	山田 正仁
	企画振興部企画振興課企画政策係長	井出 政之
	健康福祉部福祉課長	吉澤 健二
	健康福祉部福祉課福祉援護係長	荒井 秀夫
	健康福祉部福祉課高齢者係長	早川 みどり
	健康福祉部健康保健課長	小松 信子
	健康福祉部健康保健課健康増進係長	花岡 清一
	産業経済部商工観光課長	瀬下 澄仁
	産業経済部商工観光課観光係長	掛川 一郎
	教育委員会事務局教育部教育課長	柳澤 秀夫
	教育委員会事務局教育部教育課学校教育係長	小林 裕次
	教育委員会事務局教育部生涯学習課長	横関 政史
	教育委員会事務局教育部生涯学習課社会教育・公民館係長	正村 宣広
	企画振興部文化・スポーツ振興室長	勝山 修
	企画振興部文化・スポーツ振興室文化・スポーツ振興係長	中村 昌彦
アドバイザー	公益財団法人身体教育医学研究所長	岡田 真平

諮問・答申

30 文ス第 58 号

平成 30 年 8 月 9 日

東御市スポーツ推進審議会会長 様

東御市長 花岡 利夫

東御市スポーツ推進計画の策定について（諮問）

近年、ライフスタイルの変化や高齢社会の進展等、社会環境が変化する中で、スポーツの果たす役割、意義がますます重要になっています。

スポーツは体を動かすということだけでなく、精神的満足や楽しさ、喜びを与える他に、地域経済の活性化にも大きく寄与する多様性を持っており、明るく豊かで活力に満ちた地域づくりに欠くことのできないものです。

市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツに親しむことで、スポーツを通じた豊かな人間関係と郷土への愛着、心身の健康、地域経済の活性化を創造するため、本市におけるスポーツを取り巻く現状と課題を把握し、東御市特有の魅力を活かしたスポーツ振興施策を総合的かつ計画的に推進することは必要不可欠であると考えています。

こうした状況を踏まえ、東御市スポーツ推進計画の策定にあたり、貴審議会のご審議をいただきたくお願いいたします。

平成 31 年 3 月 1 日

東御市長 花岡 利夫 様

東御市スポーツ推進審議会
会長 横田 匡俊

東御市スポーツ推進計画（案）について（答申）

平成 30 年 8 月 9 日付け、30 文ス第 58 号で当審議会に諮問されました東御市スポーツ推進計画策定について、活発かつ慎重に審議を重ねた結果、別添のとおり「東御市スポーツ推進計画（案）」をとりまとめましたので答申いたします。

なお、今後、計画の推進にあたっては、下記の事項に留意し、基本理念の「スポーツにあふれた、活力と魅力あるまちづくり」の実現を目指し、取り組まれますよう要望します。

記

- 1 本計画は、東御市におけるスポーツ推進の「基本的な方向性」を示したものです。本計画に基づき、速やかに行動計画（アクションプラン）を策定し、基本理念の実現に向けた具体的な取組を開始してください。
- 2 スポーツは、まちづくりにおいて非常に有力なコンテンツである一方で、スポーツだけでできることには限りがあります。東御市の真の活性化に向けて、庁内関連部局との連携はもとより、関係団体、専門機関、企業等、外部の組織とも連携を図りながら、計画を推進してください。
- 3 行動計画（アクションプラン）においては年度における重点事業等を明確にし、検証や要因分析の結果として、計画の進捗がおもわしくない状況が明らかになった場合は、ためらわずに計画を修正する柔軟性が求められます。失敗を恐れず、未来の東御市のために、果敢にチャレンジすることを期待します。

以上

体育協会加盟団体一覧

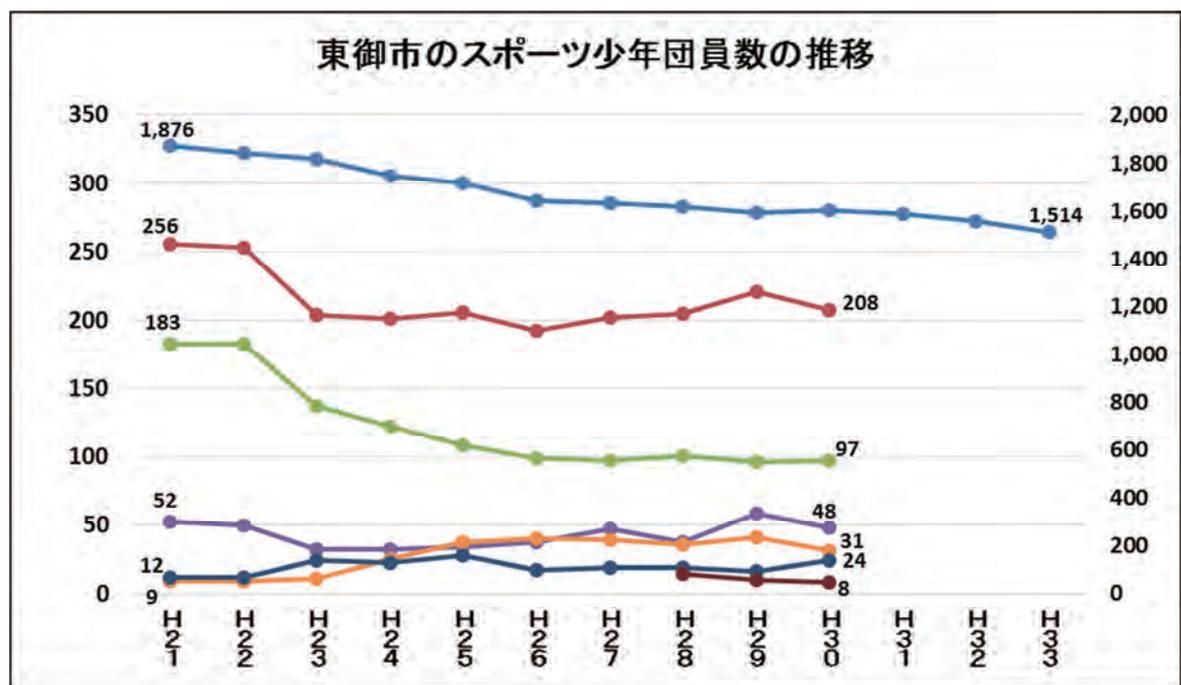
(平成 30 年度現在)

No.	団体名	人数	No.	団体名	人数
1	柔道協会	25 (1)	15	ヘルシーダンス協会	81 (8)
2	ソフトテニス協会	42	16	剣道協会	25
3	陸上競技協会	40	17	ビーチボール協会	134 (28)
4	湯の丸スキークラブ	66	18	山岳協会	34 (2)
5	マレットゴルフ協会	419	19	早起野球連盟	236 (11)
6	ふわっとテニス協会	20 (2)	20	ソフトバレーボール協会	95 (16)
7	バドミントン協会	38 (2)	21	グラウンドゴルフ協会	40
8	弓道協会	18 (1)	22	テニス協会	51
9	サッカー協会	115 (4)	23	ゴルフ協会	147 (18)
10	卓球協会	46 (2)	24	ゲートボール協会	189 (25)
11	バレーボール協会	195 (17)	25	太極拳協会	40 (6)
12	ソフトボール協会	575 (34)	26	とうみユニバーサル スポーツクラブ	184 (5)
13	空手協会	37 (2)	27	水泳協会	20
14	バスケットボール協会	79 (6)	※ () 内はチーム数を示しています。		

スポーツ少年団 団員・指導者数の推移

年度	H21		H22		H23		H24		H25	
市内小学校児童数	1,876		1,842		1,819		1,747		1,719	
種目	団員	指導者								
軟式野球(5団)	183	63	183	63	137	66	122	62	108	61
剣道(4団)	52	17	49	16	32	17	32	13	34	15
ドッジボール	9	2	9	2	11	1	25	3	37	4
バスケットボール	12	3	12	3	24	3	22	4	27	4
バレーボール										
スポーツ少年団合計	256	85	253	84	204	87	201	82	206	84

年度	H26		H27		H28		H29		H30	
市内小学校児童数	1,645		1,633		1,618		1,592		1,602	
種目	団員	指導者								
軟式野球(5団)	99	63	97	57	100	53	96	52	97	55
剣道(4団)	37	14	47	13	37	13	58	18	48	19
ドッジボール	40	5	39	4	35	3	41	4	31	4
バスケットボール	17	5	19	5	19	4	16	7	24	5
バレーボール					14	1	10	4	8	6
スポーツ少年団合計	193	87	202	79	205	74	221	85	208	89



スポーツ教室参加者数の推移

	教室名	H25	H26	H27	H28	H29
1	陸上	40	62	69	83	93
2	ソフトテニス(小学生)	64	72	88	82	82
3	ソフトテニス(中学・一般)	75	77	86	97	82
4	テニス(中級者)	14	12	11	12	10
5	テニス(初心者)	13	11	12	11	13
6	バドミントン	36	24	33	32	21
7	柔道(東部会場)	26	34	42	45	35
8	柔道(北御牧会場)					
9	剣道	11	17	19	11	18
10	空手道(東部会場)	20	22	25	27	20
11	空手道(北御牧会場)	9	15	13	11	12
12	弓道	13	21	18	9	21
13	ミニバスケットボール	48	60	57	81	88
14	サッカー	79	72	70	63	62
15	ミニ卓球(25年から夜の部)	47	52	40	42	57
16	ミニ卓球(25年から昼の部)	16	13	16	18	21
17	北御牧卓球	15	11	11	14	16
18	ミニバレーボール	78	78	79	83	78
19	ミニビーチボール	46	41	38	55	49
20	ソフトボール					
21	社交ダンス	19	19	19	18	18
22	はつらつスポーツ	11	12	11	13	8
23	ゴルフジュニア	13	13	17	11	7
24	ゴルフ一般	36	45	42	41	41
25	太極拳	11	11	12	12	
26	スキー・スノーボード教室	116	135	105	145	129
	合計	856	929	933	1,016	981

資料 9

スポーツ施設一覧

施設名	所在	規模	建設年次	経過年数
東御中央公園グラウンド (軟式野球/2面・サッカー/2面)	東御市鞍掛 188	17,000 m ²	1972	46
東御中央公園テニスコート	東御市常田 740-2	硬式4面・軟式4面	1999	19
東御中央公園屋外ゲートボールコート	東御市鞍掛 158-1	6面	1990	28
東御中央公園屋内ゲートボール場	東御市鞍掛 166-2	2面	1986	32
東御中央公園市民プール	東御市鞍掛 205	競泳プール 50m(9コース)	1976	42
東御中央公園第一体育館 (バレーコート/3面・バスケットコート/2面・ バドミントンコート/10面)	東御市鞍掛 177-2	アリーナ面積 2,200 m ²	2001	17
東御中央公園第二体育館 (バレーコート/2面・バスケットコート/2面・ バドミントンコート/6面)	東御市鞍掛 163-1	アリーナ面積 987 m ²	1976	42
東御中央公園弓道場	東御市鞍掛 167	遠的/3人立 近的/10人立	1996	22
東御中央公園マレットゴルフコース	東御市鞍掛 150	3コース・27ホール	1998	20
東御中央公園武道館	東御市鞍掛 167	剣道場 246.24 m ² 柔道場 246.24 m ²	1978	40
東御市北御牧グラウンド (軟式野球/1面・ソフトボール/2面)	東御市下之城 965	10,000 m ²	1978	40
東御市八重原グラウンド (軟式野球/1面・ソフトボール/2面)	東御市八重原 1807-1	9,900 m ²	1983	35
ゆうゆうアリーナ	東御市島川原 435-1	996 m ²	1991	27
東御市北御牧体育館	東御市下之城 978-1	面積 472 m ²	1975	43
東御市ふれあい体育館 (バレーコート/2面・バスケットコート/2面・ バドミントンコート/6面)	東御市下之城 962-3	アリーナ面積 1,310 m ²	1989	29
東御市海野マレットゴルフ場	東御市塩川 2268-1	3コース・27ホール	2006	12
全天候型 400mトラック	東御市新張 1272	400m	2017	1
林間 800mジョギングコース		800m	2017	1
トレイルランニングコース		2,500m		
湯の丸高原荘		1階/10名 2階/102名	1994	24
屋内運動施設(特設プール 50m8レーン)		3,035.04 m ²	建設中	—

スポーツ施設利用状況の推移

施設名		H25	H26	H27	H28	H29
第一体育館	件数	1,818	1,801	1,710	1,755	1,801
	利用者数	34,883	33,725	31,686	32,185	38,255
第二体育館	件数	1,339	1,344	1,270	1,374	1,447
	利用者数	27,297	25,857	23,364	25,088	33,567
中央グラウンド	件数	498	479	502	489	477
	利用者数	14,918	11,904	10,346	10,806	10,443
テニスコート	件数	3,260	3,465	3,683	3,888	4,018
	利用者数	23,793	27,307	31,300	27,709	23,816
武道館	件数	617	442	668	650	742
	利用者数	12,429	8,587	13,398	12,179	14,579
弓道場	件数	522	506	488	516	484
	利用者数	3,455	3,140	2,739	2,251	2,297
海野マレットゴルフ場	件数	247	248	249	244	248
	利用者数	14,848	16,492	17,826	16,734	17,061
市民プール	件数	57	67	56	64	65
	利用者数	18,420	13,701	11,443	11,723	10,540
ふれあい体育館	件数	940	1,022	1,002	963	1,107
	利用者数	13,399	14,986	15,043	14,914	14,145
北御牧体育館	件数	364	284	231	301	250
	利用者数	3,244	3,026	1,968	2,418	2,024
北御牧グラウンド	件数	531	335	371	389	334
	利用者数	7,316	4,255	6,247	6,899	6,011
八重原グラウンド	件数	106	65	74	104	104
	利用者数	1,779	1,668	1,640	1,675	1,328
ゲートボール場	件数	45	22	26	20	18
	利用者数	2,733	1,405	1,808	1,560	1,730
室内ゲートボール場	件数	147	115	156	170	167
	利用者数	3,436	2,598	3,726	3,233	3,201
合 計	件数	10,491	10,195	10,486	10,927	11,262
	利用者数	181,950	168,651	172,534	169,374	178,997

東御市スポーツ推進計画の策定に関する

**東御市の
運動・スポーツに関する
アンケート調査結果**

調査の目的

この調査は、平成30年度に行う「東御市スポーツ推進計画」の策定資料として、本市のスポーツに関する市民意識などを把握することを目的に、アンケートを実施しました。

調査の概要

- 調査対象者 : 東御市内在住の16歳以上の市民
- 抽出方法 : 住民基本台帳より、2,000人を無作為抽出
- 調査期日 : 平成30年5月実施
- 調査方法 : 郵送配布・郵送回収

	配布数	回収票数	回収率
回答結果	2,000	696	34.8%

調査結果の見方

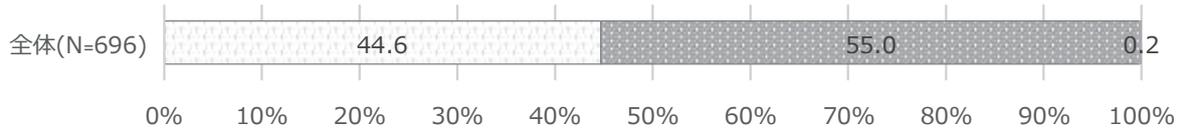
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から一つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から二つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N」は、集計対象総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

回答者のことについて

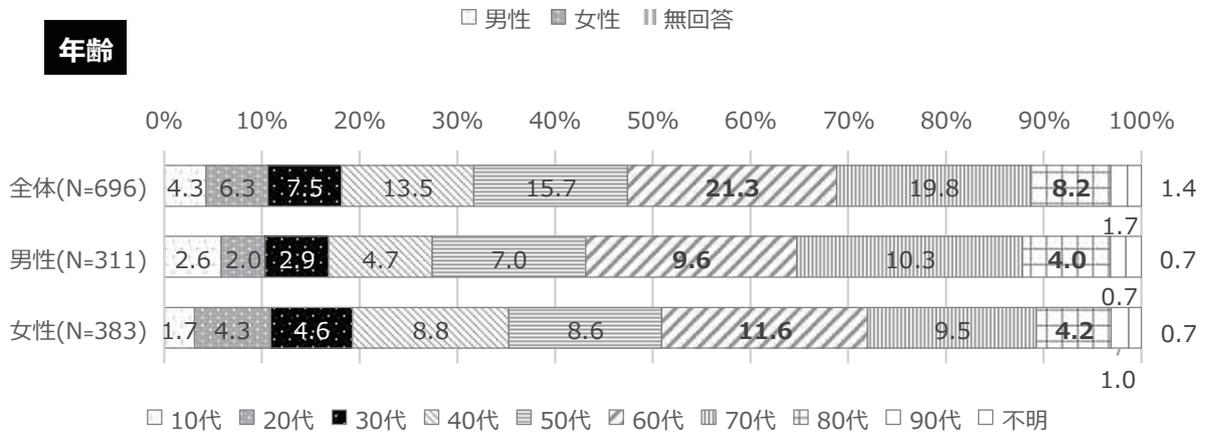
問1 性別と年齢を教えてください

回答者の年齢を見ると「60代」が21.3%、「70代」が19.8%と60代以上が半数を占めている。性別では女性の方が10～50代の割合が若干多い。

性別

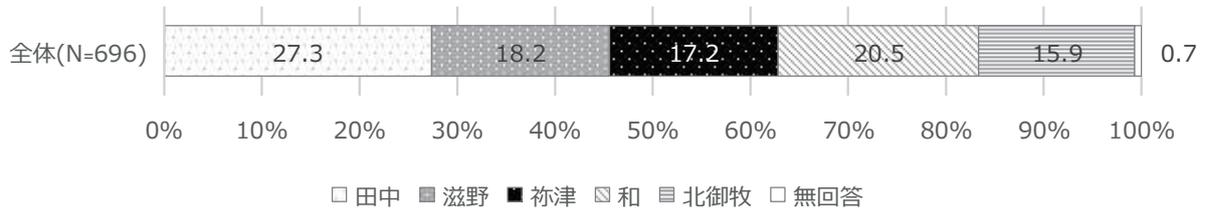


年齢



問2 お住まいの地区はどちらですか

回答者の地区は田中が27.3%と一番多く、北御牧が15.9%と一番少ない回答となった。

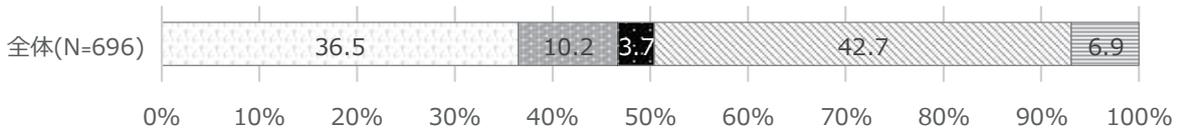


回答者のことについて

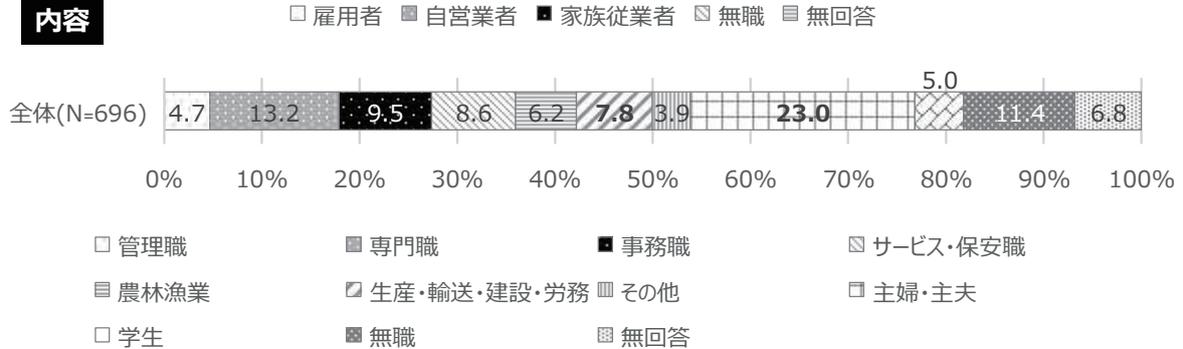
問3 ご職業と、その内容を教えてください

職業、内容を合わせてみると主婦・主夫など自宅にいる時間の長い方の回答者が多い事が分かる。

職業



内容

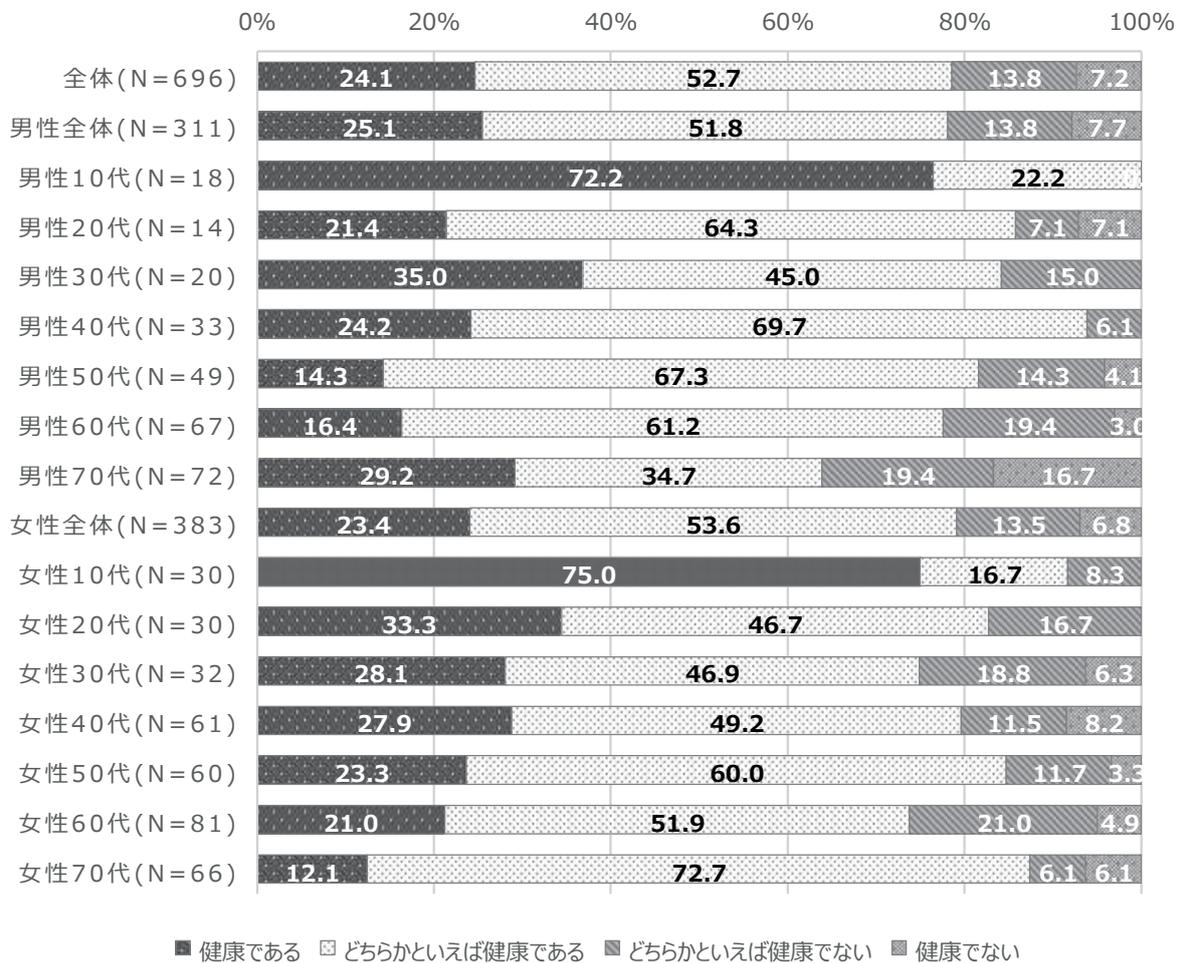


回答者のことについて

問4 最近、健康だと思いますか

健康に対する自己評価をたずねたところ、全体では「健康である」が24.1%、「どちらかといえば健康である」が52.7%と合わせて約8割が「健康だ」と感じている。

性・年代別にみると「健康である」と答えたのは男女共に10代が最も高く、次いで男性30代と女性の20代であった。一方、「健康でない」と答えた割合は、男性の70代が最も高く、次いで女性の40代であった。男女共、60代が「健康でない」「どちらかといえば健康でない」を合わせると約2～3割になり、「健康ではない」と感じている。

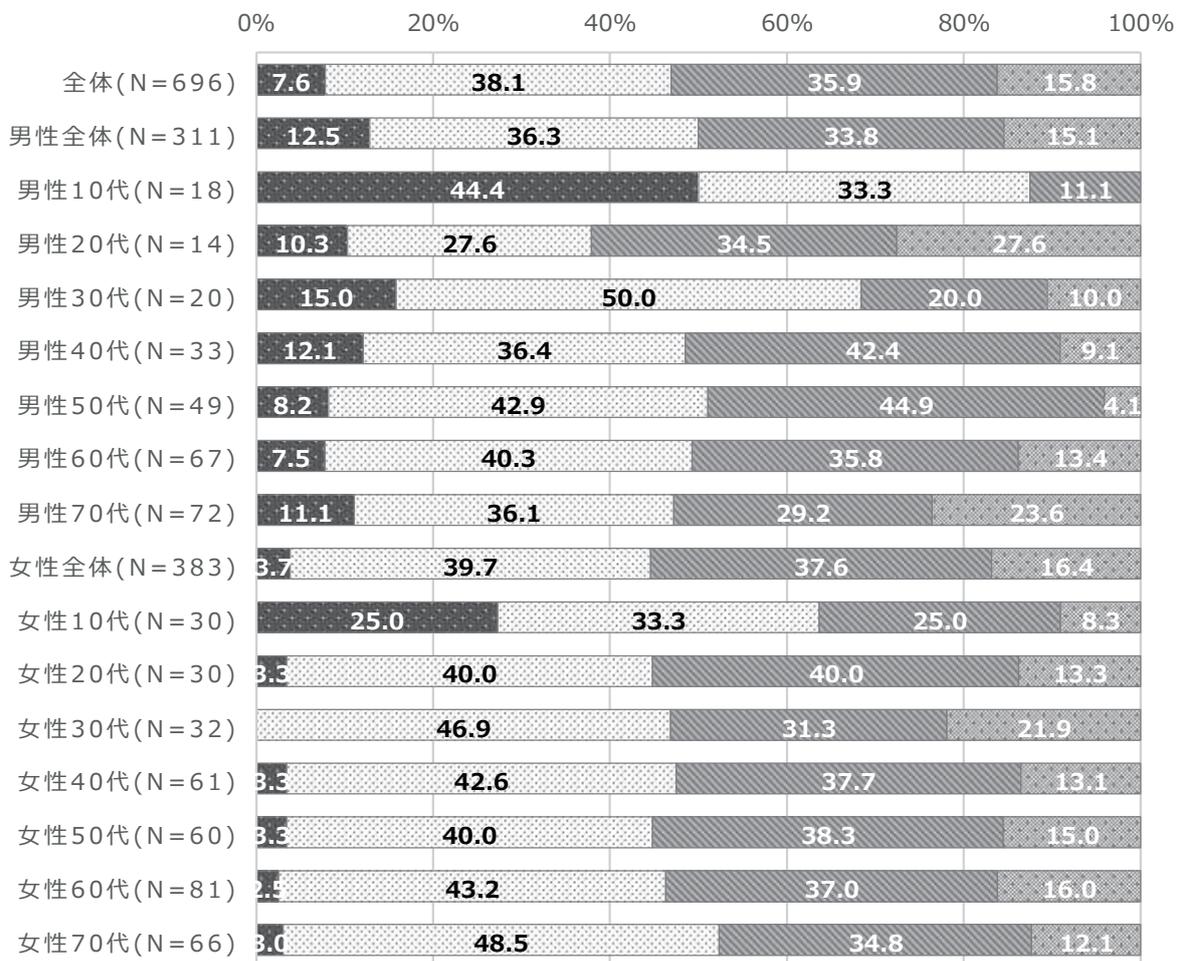


回答者のことについて

問5 ご自分の体力についてどのように感じていますか？

現在の自分の体力についてたずねたところ、全体では「体力に自信がある」、「どちらかといえば体力に自信がある」と合わせて45.7%であった。半数以上が「体力に不安がある」と感じている。

性・年代別にみると「体力に自信がある」と答えたのは男女共に10代が最も高く、次いで男性30代であった。一方、「体力に不安がある」と答えた割合は、男性の20代が最も高く、次いでは女性の20代と50代であった。男女共、比較的若い世代で体力に不安を感じているようだ。



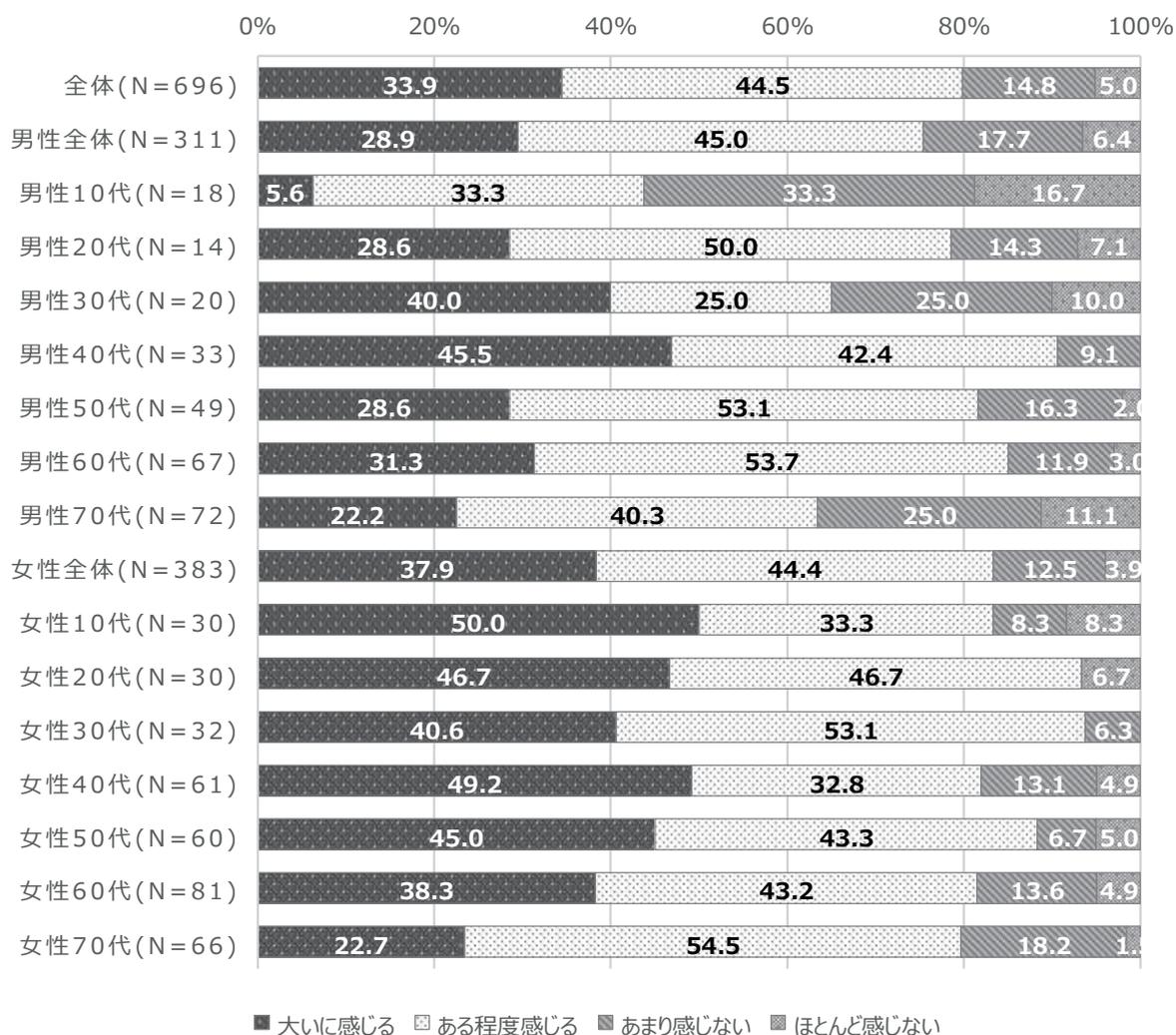
■ 体力に自信がある □ どちらかといえば体力に自信がある ▨ どちらかといえば体力に不安がある ■ 体力に不安がある

回答者のことについて

問6 普段、運動不足を感じますか

運動不足を感じるかに対しては、全体で約8割が「運動不足を感じる」と答えている。

性・年代別にみると、運動不足を最も感じているのは30代女性で9割以上が運動不足と答えている。次いで50代女性、40代男性であった。

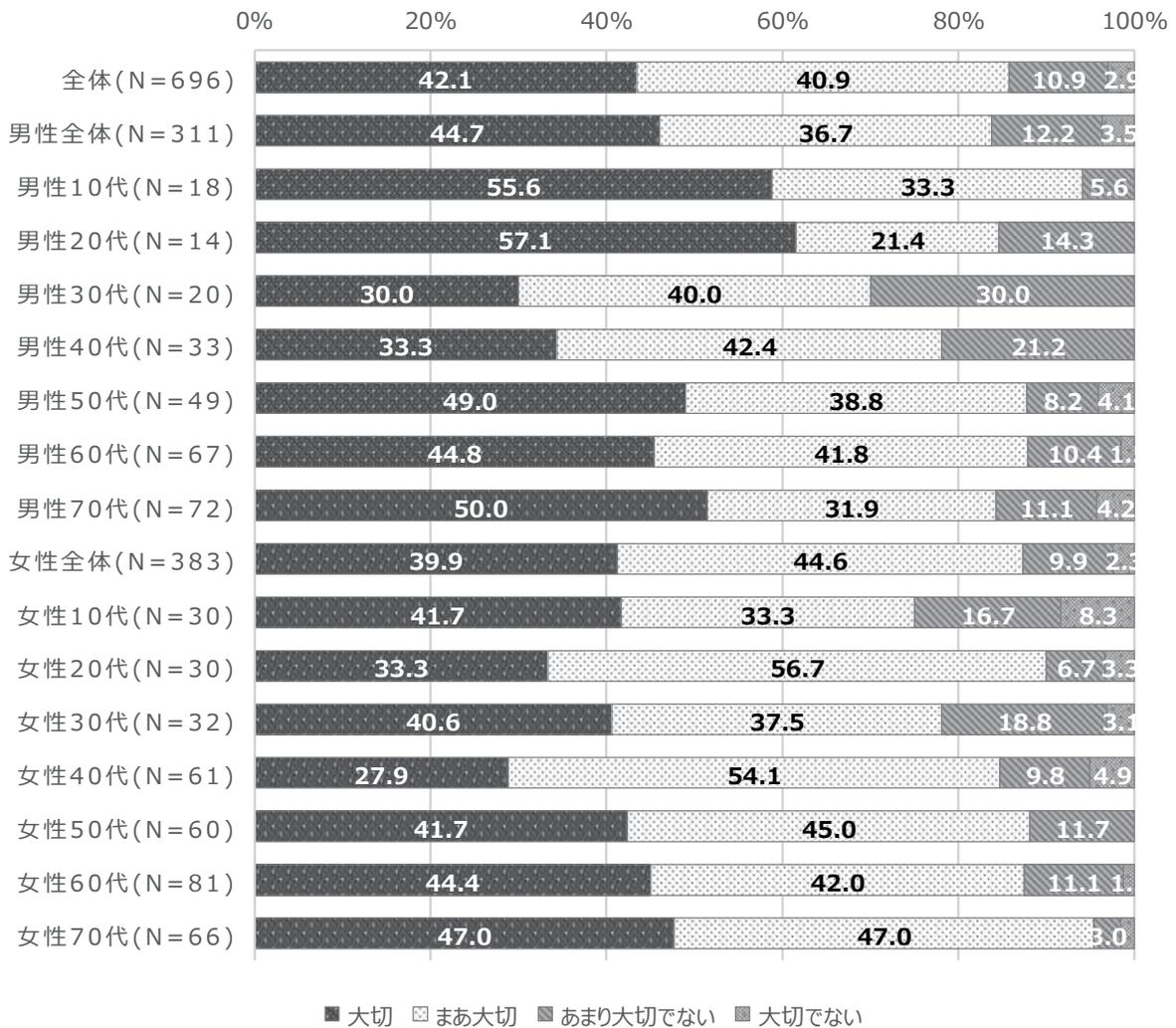


回答者のことについて

問7 あなたにとって運動・スポーツは大切なものですか

運動・スポーツは大切かについてたずねたところ、全体では「大切」が42.1%、「まあ大切」が40.9%と合わせて8割以上が運動・スポーツは大切と感じている。

性・年代別にみると「大切」と答えたのは男性20代が最も高く、次いで男性10代であった。「まあ大切」と合わせると女性20代の90%が大切と感じているようだった。また、男女共50代以上は運動の大切を感じている。

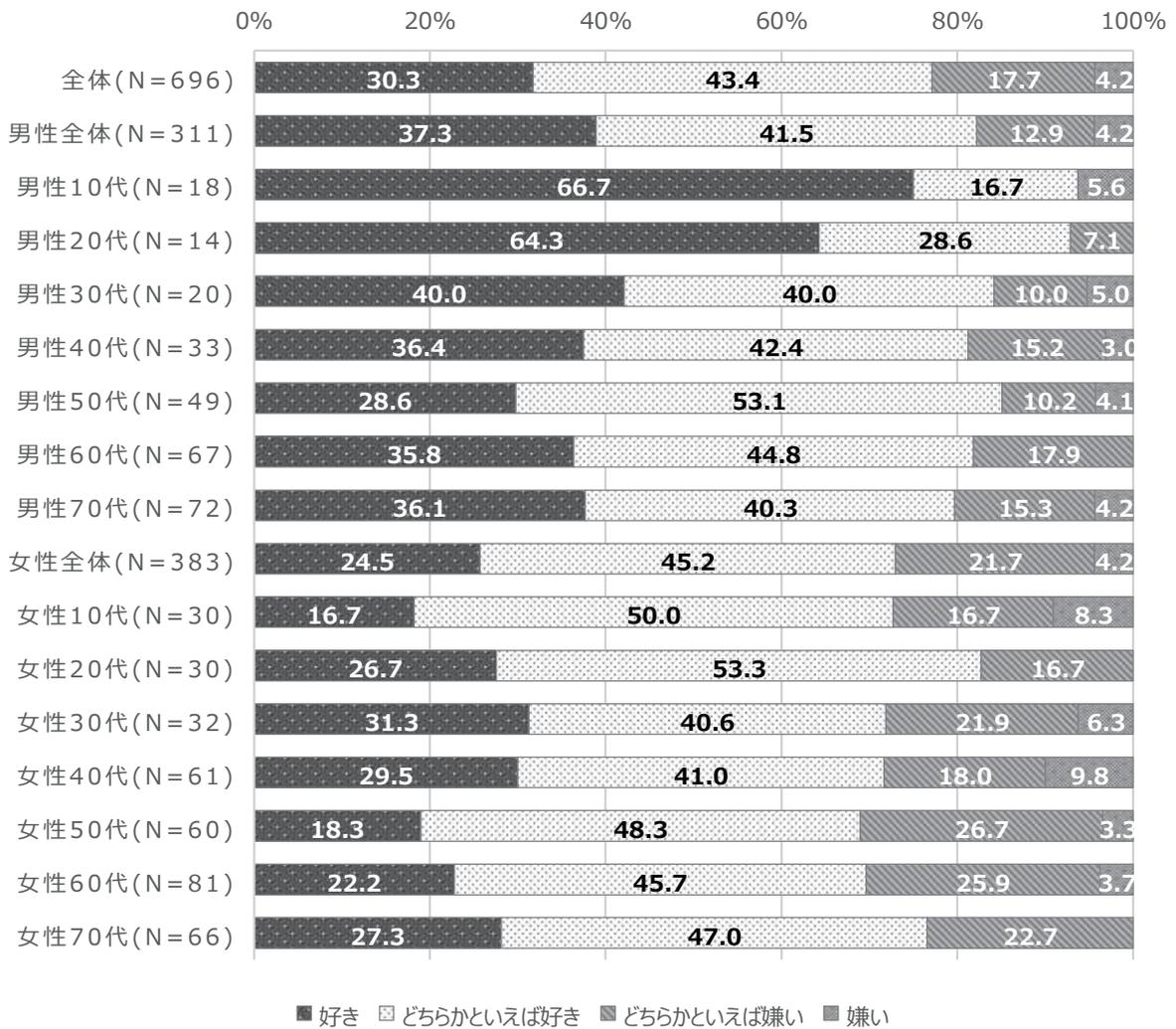


回答者のことについて

問8 運動やスポーツ活動など身体を動かすことが好きですか

身体を動かすことが好きかに対しては、全体で約7割が「好き」又は「どちらかといえば好き」と答えている。

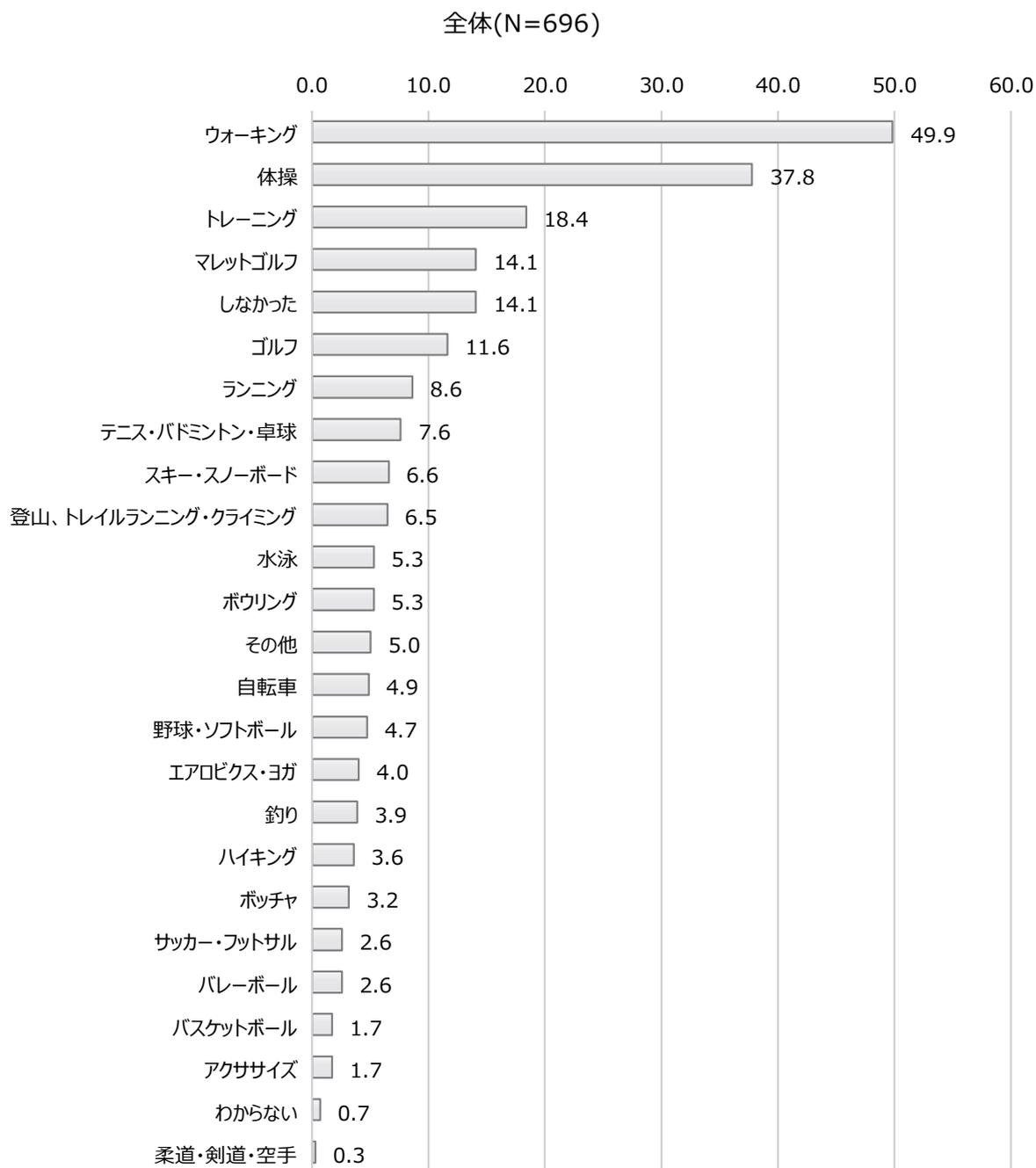
性・年代別にみると、男性の10代、20代は半数以上が「好き」と答えている。一方、「嫌い」又は「どちらかといえば嫌い」と答えているのは女性が多い。特に50代、60代は3割が嫌いと感じている。大切さと対比すると運動・スポーツは大切だが、あまり好きではないと感じている。



運動・スポーツの実施状況と今後の意向について

問9 あなたがこの1年間に実施した運動・スポーツがあれば全部あげてください（学校の授業として実施したものや、職業として実施したものは除きます）[複数回答可]

この1年間で実施したスポーツは「ウォーキング」が49.9%と一番多く、次いで「体操」37.8%、「トレーニング」18.4%となった。



◆その他回答

- ・合気道
- ・犬の散歩
- ・ウエイクボード
- ・ボルダリング
- ・SUP
- ・踊り
- ・カーリング
- ・バレエ
- ・ゲートボール
- ・太極拳
- ・ビーチバレーボール
- ・ソフトバレー
- ・ピラティス
- ・フラダンス
- ・ボルダリング
- ・ストレッチボール
- ・射撃
- ・ラクロス
- ・なわとび

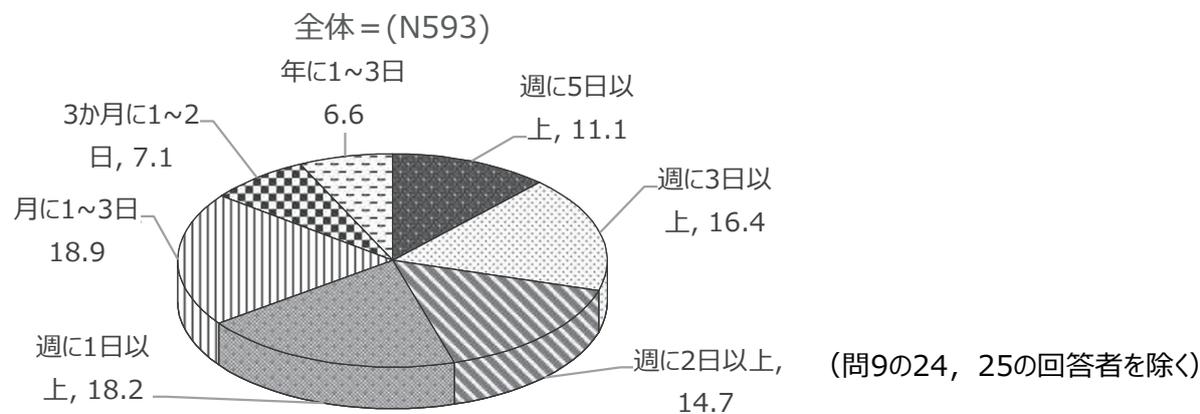
運動・スポーツの実施状況と今後の意向について

問10 この1年間に運動・スポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか

この1年間で運動・スポーツを実施した日数をたずねたところ、6割の方が週1回以上は実施している。一項目毎に見ると「月に1～3日」が18.9%と最も高く、次いで「週1日以上」の18.2%だった。

性別で比較すると「週5日以上」は男性11.3%、女性11.0%、「週3日以上」は男性15.0%、女性17.6%、「週2日以上」は男性15.0%、女性14.1%と、週2日以上の積極的な運動・スポーツ実施では男性41.2%、女性42.6%と若干、女性が上回った。これに対して「年に1～3日」は男性6.9%、女性6.3%、「3か月に1～2日」は男性8.8%、女性5.6%、「月に1～3日」は男性19.0%、女性18.8%と実施頻度の低さでは男性34.7%、女性30.7%と男性が上回る。つまり、非実施者は男性が多く、積極的な実施をしているのは女性が多い事から男性の運動・スポーツ実施率が低い事が分かる。

年代別にみると男性の30～40代、女性の20～40代の運動頻度が低く、男性70代、女性50代以上の運動頻度は高い。



男性全体				10代男性		20代男性		30代男性	
1 週に1日以上	19.0%	1 週に5日以上	21.1%	1 月に1～3日	21.4%	1 月に1～3日	33.3%	2 月に1～3日	19.0%
2 月に1～3日	19.0%	2 週に3日以上	21.1%	2 週に5日以上	14.3%	2 3か月に1～2日	22.2%	3 週に1日以上	15.0%
3 週に3日以上	15.0%	3 週に1日以上	15.8%	3 週に3日以上	14.3%	3 年に1～3日	16.7%	4 週に2日以上	15.0%
4 週に2日以上	15.0%	4 月に1～3日	10.5%	4 週に2日以上	14.3%	4 週に1日以上	11.1%	5 週に5日以上	11.3%
5 週に5日以上	11.3%	5 年に1～3日	10.5%	5 週に1日以上	14.3%	5 週に5日以上	5.6%	6 3か月に1～2日	8.8%
6 3か月に1～2日	8.8%	6 週に2日以上	5.3%	6 3か月に1～2日	7.1%	6 週に3日以上	5.6%	7 年に1～3日	6.9%
7 年に1～3日	6.9%	7 わからない	5.3%	7 年に1～3日	7.1%	7 わからない	5.6%	8 わからない	2.6%
8 わからない	2.6%	8 3か月に1～2日	0.0%	8 わからない	7.1%	8 週に2日以上	0.0%		

女性全体				10代女性		20代女性		30代女性	
1 月に1～3日	18.8%	1 週に3日以上	33.3%	1 週に1日以上	32.0%	1 月に1～3日	32.3%	2 週に3日以上	17.6%
2 週に3日以上	17.6%	2 わからない	22.2%	2 月に1～3日	20.0%	2 週に1日以上	22.6%	3 週に1日以上	17.6%
3 週に1日以上	17.6%	3 週に5日以上	11.1%	3 週に3日以上	12.0%	3 3か月に1～2日	12.9%	4 週に2日以上	14.1%
4 週に2日以上	14.1%	4 週に2日以上	11.1%	4 3か月に1～2日	12.0%	4 週に3日以上	9.7%	5 週に5日以上	11.0%
5 週に5日以上	11.0%	5 月に1～3日	11.1%	5 年に1～3日	12.0%	5 年に1～3日	9.7%	6 年に1～3日	6.3%
6 年に1～3日	6.3%	6 年に1～3日	11.1%	6 週に5日以上	4.0%	6 わからない	6.5%	7 3か月に1～2日	5.6%
7 3か月に1～2日	5.6%	7 週に1日以上	0.0%	7 週に2日以上	4.0%	7 週に2日以上	3.2%	8 わからない	5.0%
8 わからない	5.0%	8 3か月に1～2日	0.0%	8 わからない	4.0%	8 週に5日以上	0.0%		

40代男性		50代男性		60代男性		70代男性	
1 月に1～3日	32.0%	1 週に1日以上	25.6%	1 月に1～3日	24.1%	1 週に3日以上	22.4%
2 週に1日以上	24.0%	2 週に3日以上	16.3%	2 週に1日以上	15.5%	2 週に1日以上	17.9%
3 週に2日以上	20.0%	3 週に2日以上	16.3%	3 週に3日以上	13.8%	3 週に5日以上	14.9%
4 週に5日以上	8.0%	4 月に1～3日	16.3%	4 週に2日以上	13.8%	4 週に2日以上	14.9%
5 週に3日以上	4.0%	5 3か月に1～2日	11.6%	5 週に5日以上	12.1%	5 月に1～3日	13.4%
6 3か月に1～2日	4.0%	6 年に1～3日	9.3%	6 3か月に1～2日	8.6%	6 3か月に1～2日	9.0%
7 年に1～3日	4.0%	7 週に5日以上	4.7%	7 年に1～3日	6.9%	7 年に1～3日	4.5%
8 わからない	4.0%	8 わからない	0.0%	8 わからない	0.0%	8 わからない	1.5%

40代女性		50代女性		60代女性		70代女性	
1 月に1～3日	29.8%	1 週に5日以上	18.2%	1 週に2日以上	22.9%	1 週に2日以上	26.3%
2 週に1日以上	25.5%	2 週に2日以上	18.2%	2 週に3日以上	20.0%	2 週に3日以上	21.1%
3 週に3日以上	17.0%	3 週に1日以上	18.2%	3 月に1～3日	20.0%	3 週に5日以上	15.8%
4 わからない	10.6%	4 週に3日以上	15.9%	4 週に1日以上	17.1%	4 月に1～3日	12.3%
5 年に1～3日	8.5%	5 月に1～3日	13.6%	5 週に5日以上	15.7%	5 週に1日以上	10.5%
6 3か月に1～2日	4.3%	6 3か月に1～2日	13.6%	6 年に1～3日	2.9%	6 年に1～3日	3.5%
7 週に5日以上	2.1%	7 年に1～3日	9.1%	7 3か月に1～2日	1.4%	7 わからない	3.5%
8 週に2日以上	2.1%	8 わからない	6.8%	8 わからない	0.0%	8 3か月に1～2日	1.8%

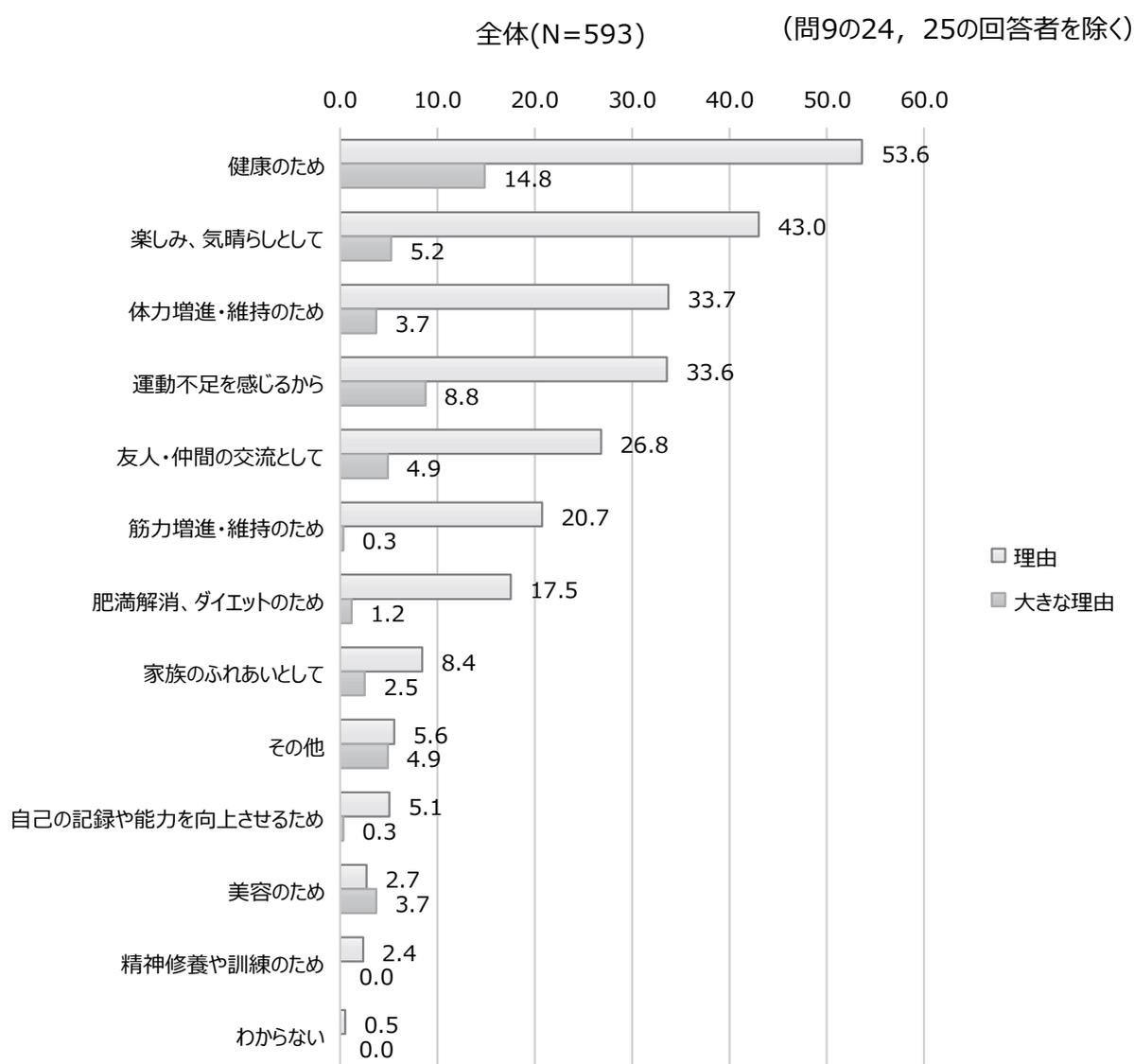
運動・スポーツの実施状況と今後の意向について

問11 この1年間に、あなたが運動やスポーツを実施したのはどのような理由からですか [複数回答可]

→このうちもっとも大きな理由はどれですか？ 1～11の番号で教えてください

この1年間で運動やスポーツを実施した理由は「健康のため」が53.6%と一番多く、次いで「楽しみ、気晴らしとして」43.0%となった。

その内のもっとも大きな理由としてはやはり「健康のため」が一番多く、14.8%だった。次いで「運動不足を感じるから」で8.8%だった。



◆その他回答

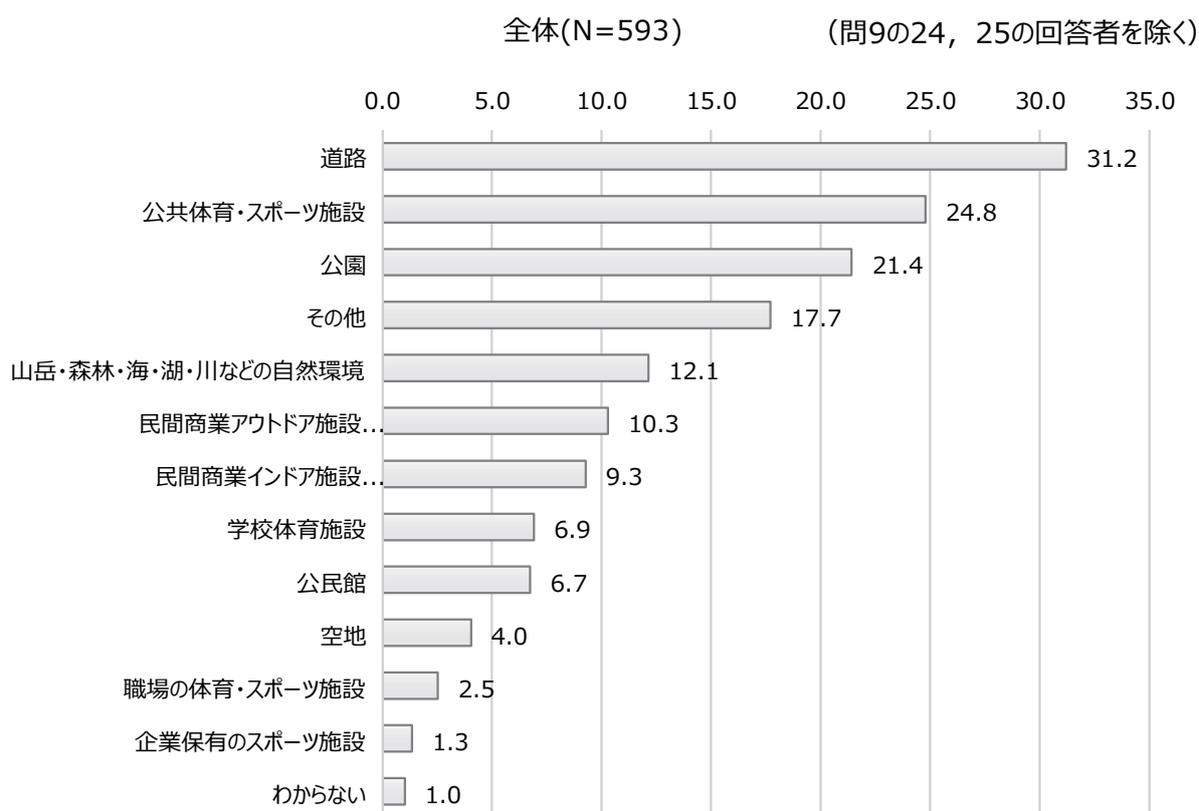
- ・生きがい
- ・医者にプールをすすめられているから
- ・犬の散歩
- ・介護予防
- ・会社の行事
- ・競技スポーツ
- ・公民館仕事
- ・子供と散歩
- ・仕事の 일환
- ・指導
- ・趣味のために必要
- ・好きだから
- ・スムーズな出産のため
- ・体育の授業
- ・通学・通勤
- ・デイサービス
- ・日課、イベント
- ・部活
- ・役員として参加した

運動・スポーツの実施状況と今後の意向について

問12 あなたは主にどこで運動やスポーツを行っていますか [複数回答可]

どこで運動・スポーツをしているかのは「道路」が31.2%と一番多く、「公共体育・スポーツ施設」の24.8%、「公園」の21.4%と続いた。

問9の実施した運動・スポーツで「ウォーキング」が多かった事と関連させると実施場所で「道路」が多い事は納得できる。

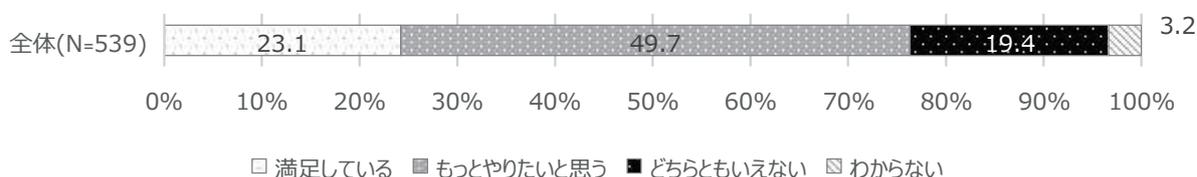


◆その他回答

- ・家より会議等の施設間など
- ・運動、スポーツらしいことをしていない
- ・園の運動場
- ・温泉プール
- ・会社
- ・公共施設等
- ・個人の先生宅
- ・ゴルフ場
- ・マレットゴルフ場
- ・市で運営している所
- ・宿泊施設(温泉地)
- ・職場
- ・通学路
- ・デイサービス
- ・入所している施設で
- ・畑
- ・リハビリステーション

問13 あなたは現在の運動・スポーツの実施頻度に満足していますか

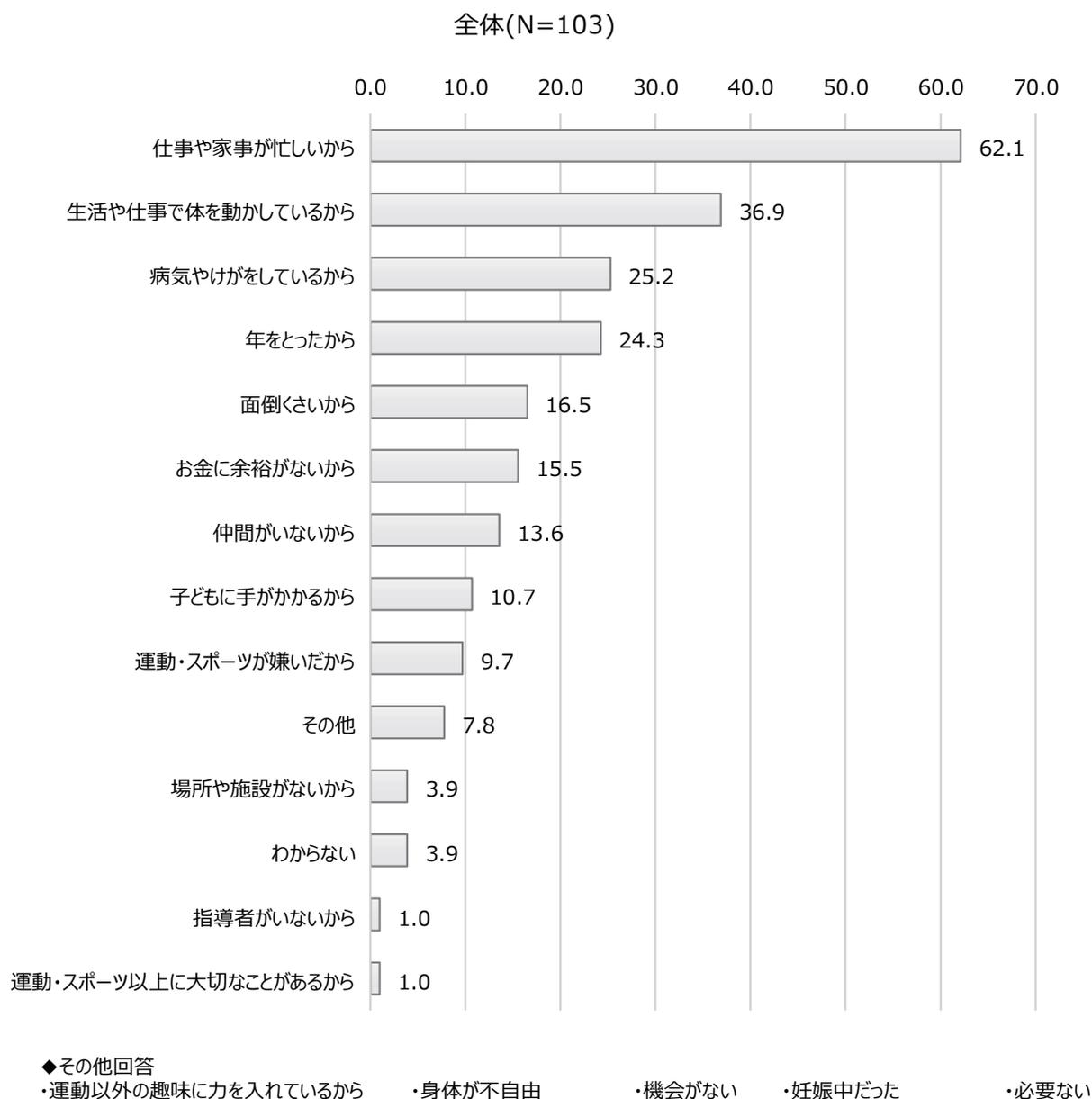
「もっとやりたいと思う」が49.7%と約半数を占める。問6の運動不足の答えを見ても運動不足と感じている人が多い。



運動・スポーツの実施状況と今後の意向について

問14 【問9で「運動やスポーツはしなかった」「わからない」と答えた方のみ】
この1年間に、運動やスポーツをしなかったのはどのような理由からですか[複数回答可]

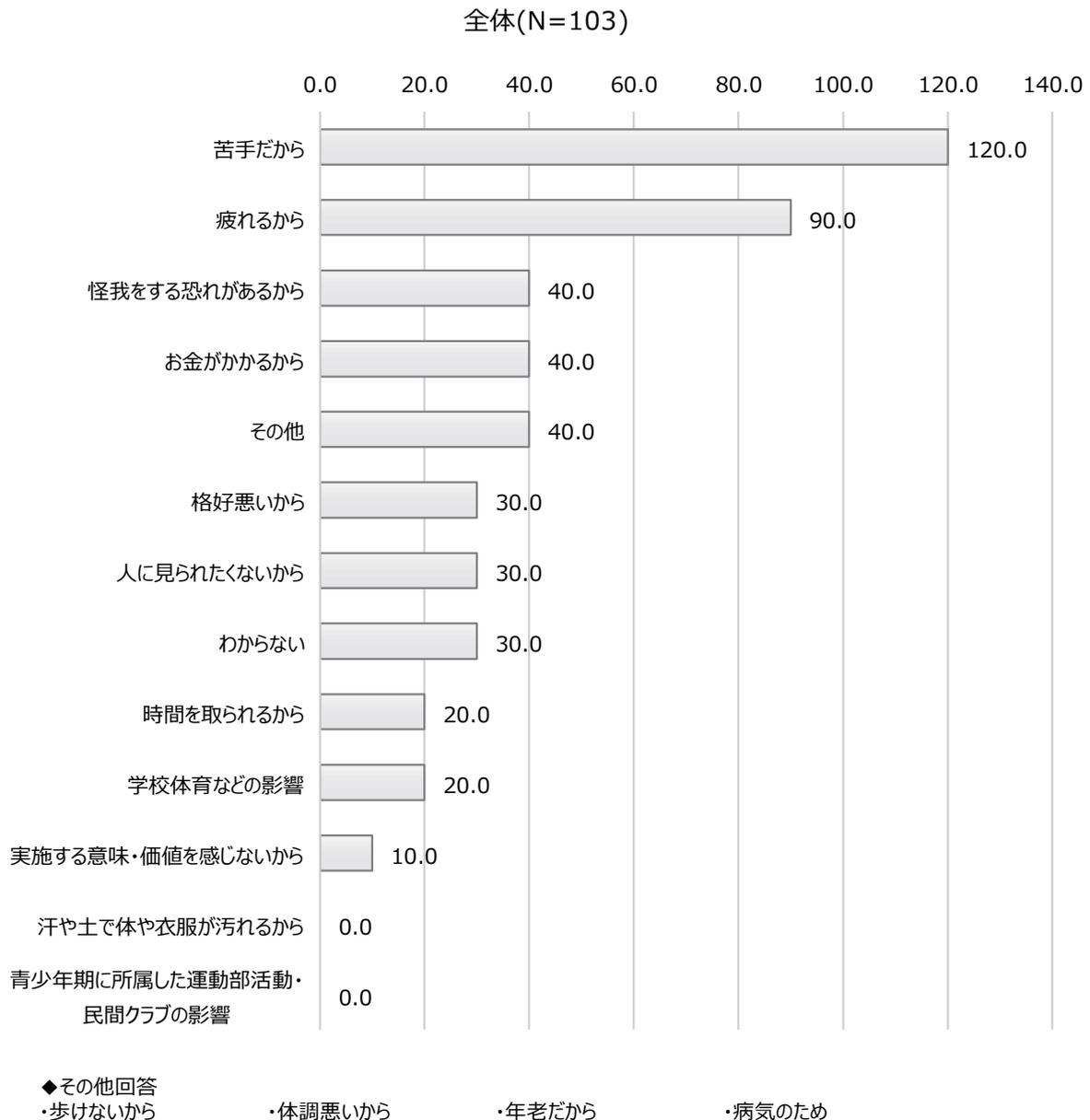
運動やスポーツをしなかった理由として「仕事や家事が忙しいから」が62.1%と一番多く、次いで「生活や仕事で体を動かしているから」の36.9%だった。



運動・スポーツの実施状況と今後の意向について

問15 【問14で「運動・スポーツが嫌いだから」と答えた方のみ】
運動・スポーツが嫌いな理由何ですか[複数回答可]

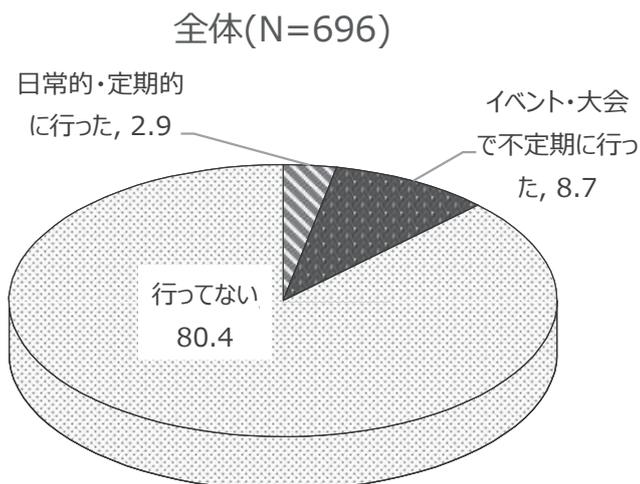
運動・スポーツが嫌いな理由として「苦手だから」が120%と一番多く、次いで「疲れるから」の90%だった。



運動・スポーツに関するボランティア活動について

問16 この1年間にスポーツの指導やスポーツ大会の運営、スポーツクラブのお手伝いなど、運動・スポーツに関するボランティア活動を行いましたか

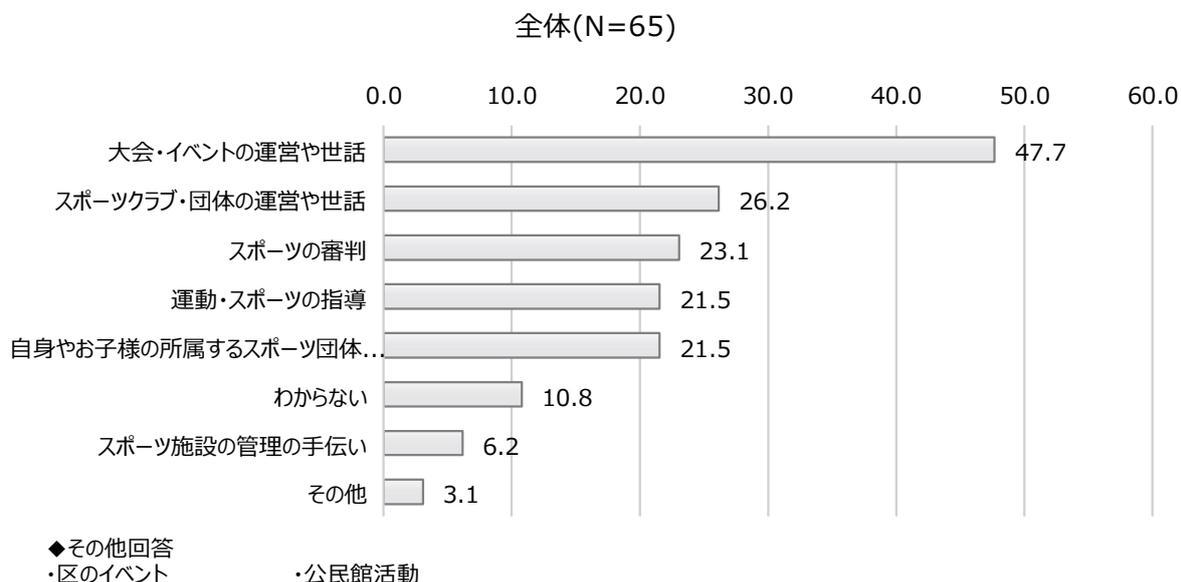
この1年間で運動・スポーツに関するボランティア活動を行ったかについて8割が「行っていない」と答えている。



問17 【これは問16で「日常的・定期的に行った」「イベント・大会で不定期に行った」と答えた方】

そのボランティア活動は具体的にどのような内容ですか[複数回答可]

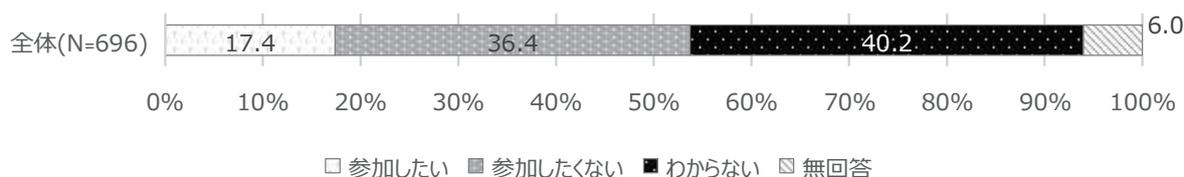
「大会・イベントの運営や世話」が47.7%と約半分を占める。次いで「スポーツクラブ・団体の運営や世話」が26.2%となった。



運動・スポーツに関するボランティア活動について

問18 あなたは、今後、運動・スポーツ、レクリエーションに関するボランティア活動に参加したいですか

ボランティア活動に参加したいかに対しては40.2%が「わからない」と答えている。次いで「参加したくない」が36.4%とあまり積極的に参加をしたいという方は少ない。



問19 どんなきっかけや動機づけ（モチベーション）があれば、スポーツに関するボランティア活動を行ったり続けたりすると思いますか[複数回答可]

「行っていない」と答えた方のボランティア活動参加のきっかけ・動機づけとして「どんなきっかけや動機づけがあってもしない・できない」が19.1%で最も高く、次いで「好きなスポーツの普及・支援」で16.1%、「地域での居場所、役割、生きがい」が15.2%、「出会い、交流の場」が13.4%だった。

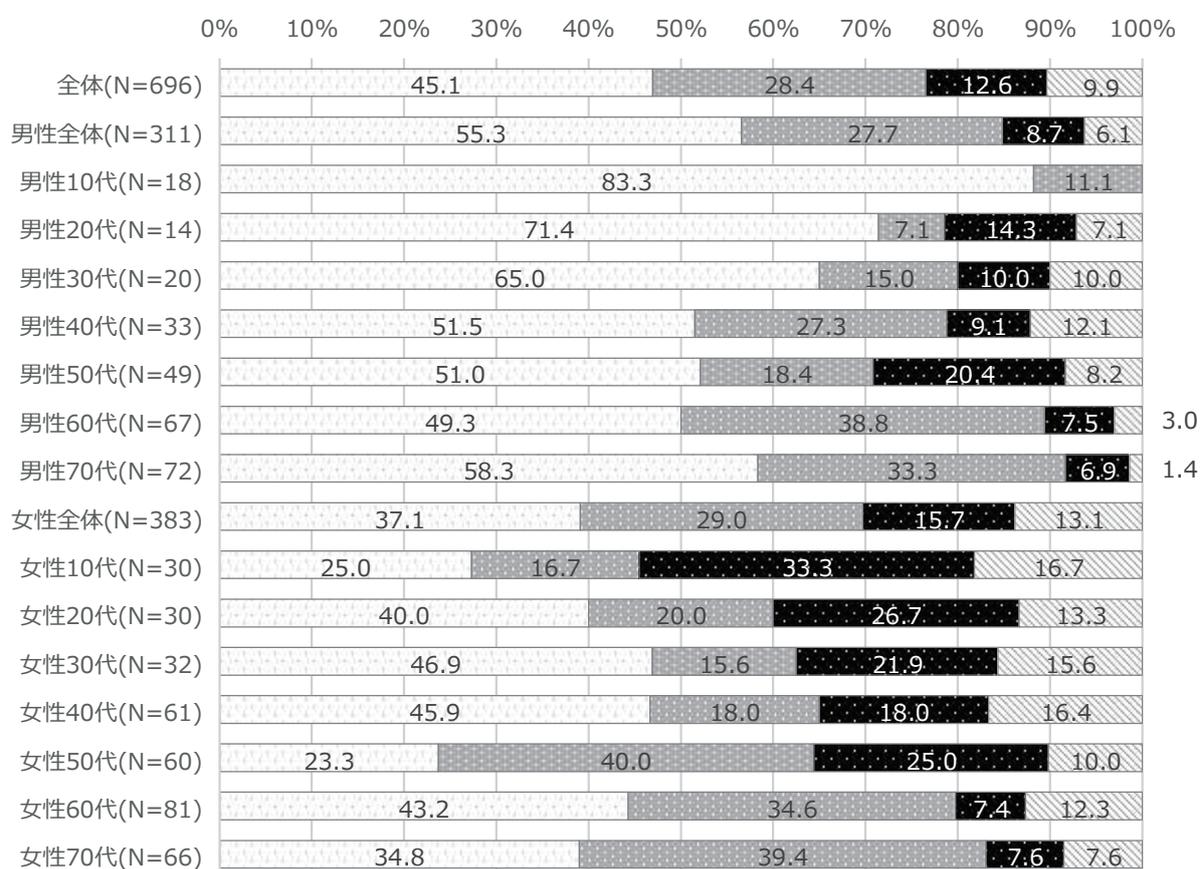
全体を見てもこの4項目が上位に上がった。

	日常的・定期的に行った	イベント・大会で不定期に行った	行っていない	わからない	計
好きなスポーツの普及・支援	1.4%	2.9%	16.1%	0.1%	20.5%
地域での居場所、役割、生きがい	0.6%	3.2%	15.2%	0.0%	19.0%
出会い、交流の場	0.7%	2.9%	13.4%	0.1%	17.1%
指導・大会運営スキルの取得・活用	0.6%	0.7%	1.6%	0.0%	2.9%
社会貢献	0.3%	1.1%	7.6%	0.0%	9.1%
顕彰や表彰	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%
その大会・クラブ等への家族・友人の参加	0.3%	1.1%	8.6%	0.0%	10.1%
実費程度の報酬	0.1%	0.7%	4.7%	0.0%	5.6%
特に動機づけは必要ない	0.0%	1.1%	7.0%	0.0%	8.2%
その他	0.0%	0.1%	1.4%	0.0%	1.6%
どんなきっかけや動機づけがあってもしない・できない	0.1%	0.0%	19.1%	0.0%	19.3%
わからない	0.0%	0.4%	12.2%	0.7%	13.4%

スポーツ観戦について

問20 スポーツ観戦（会場での観戦、テレビやインターネットでの観戦の両方）に関心がありますか

スポーツ観戦に関心があるかとたずねたところ、「スポーツをすることにも観戦にも関心がある」が45.1%、「スポーツをすることには関心がないが観戦することには関心がある」と合わせると7割が「関心がある」と答えた。性別で見ると「関心がある」と答えた男性が80.3%、女性が66.1%と男性の方が関心が高いと分かった。年代別では、男性の10代の94.4%が最も高いが、男女共に60～70代も7～8割と関心の強さが見られる。一方、「関心がない」と答えたのは10代女性で50%、次いで20代女性40.0%、30代女性が37.5%と比較的若い世代の女性は関心が弱いようだ。

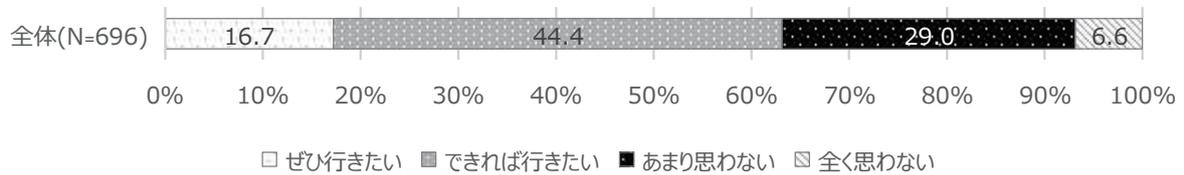


- スポーツをすることにも観戦にも関心がある
- スポーツをすることには関心がないが観戦することには関心がある
- スポーツをすることには関心はあるが観戦することには関心がない
- スポーツをすることにも観戦することにも関心がない

スポーツ観戦について

問21 会場でスポーツ観戦ができるチャンスがあれば行きたいですか

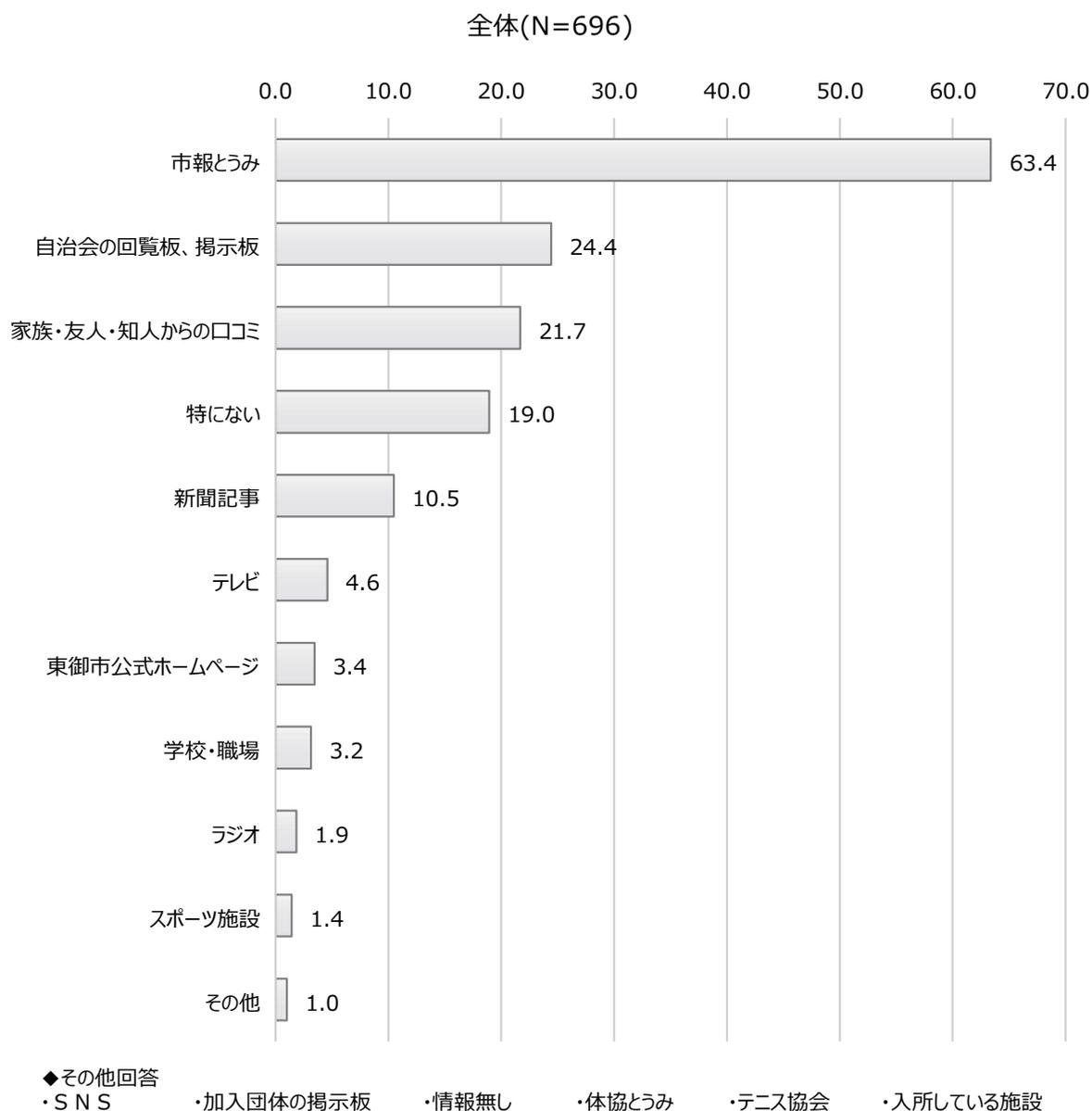
「ぜひ行きたい」「できれば行きたい」で61.1%となり、半数以上は行きたいという気持ちがある。



東御市のスポーツ環境について

問22 東御市内のスポーツに関する情報はどこから入手していますか
[複数回答可]

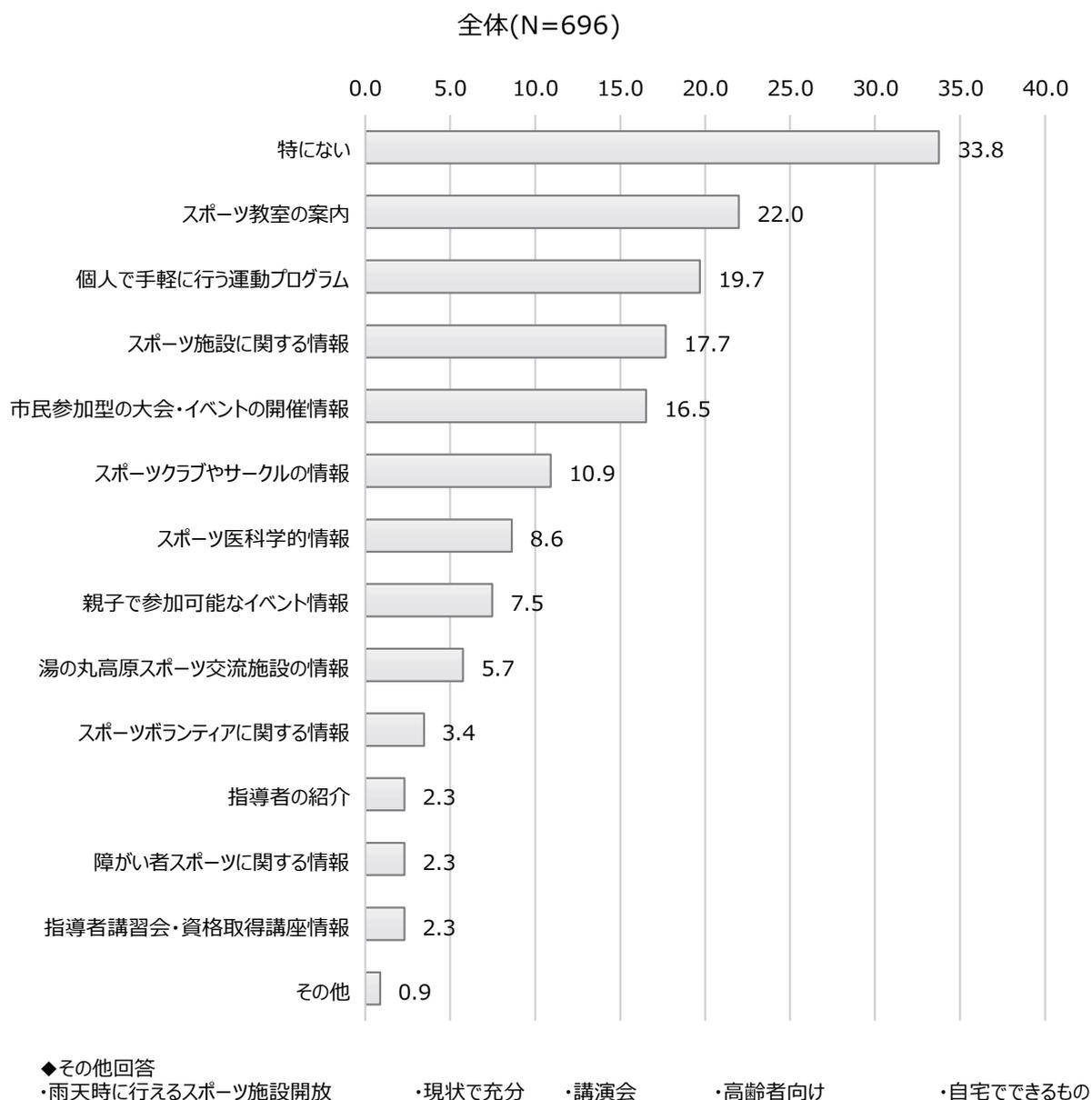
市報とうみが63.4%と一番多い。



東御市のスポーツ環境について

問23 どのようなスポーツ情報が欲しいですか[複数回答可]

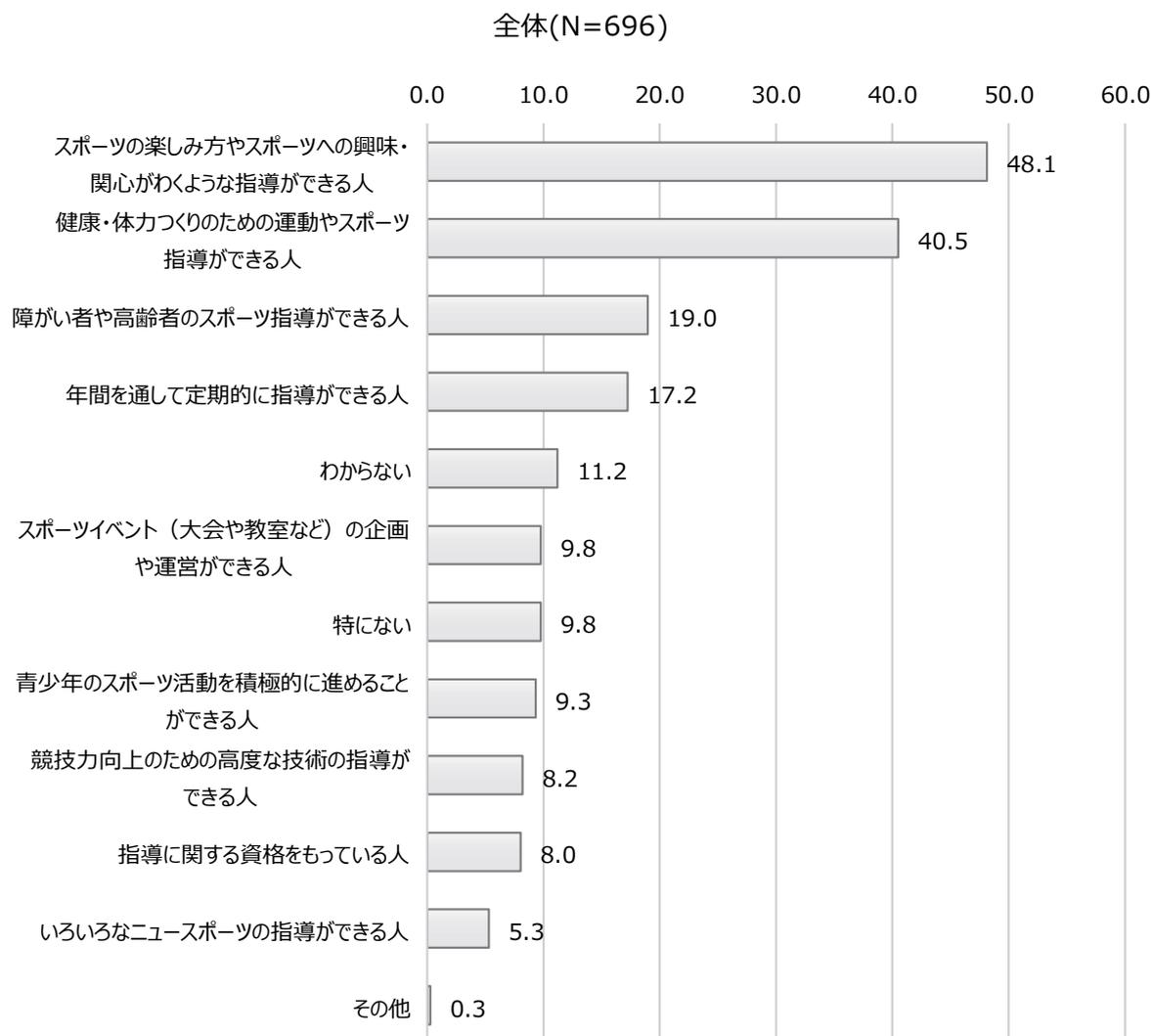
欲しいスポーツ情報は「特にない」が33.8%で一番多く、次いでは「スポーツ教室の案内」22.0%、「個人で手軽に行う運動プログラム」19.7%となった。



東御市のスポーツ環境について

問24 運動・スポーツを行うにあたって、どのようなスポーツ指導者が必要だと思いますか[複数回答可]

必要だと思うスポーツ指導者は「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」が48.1%で一番多く、次いで「健康・体力づくりのための運動やスポーツ指導ができる人」が40.5%、とこの2点で大半を占める



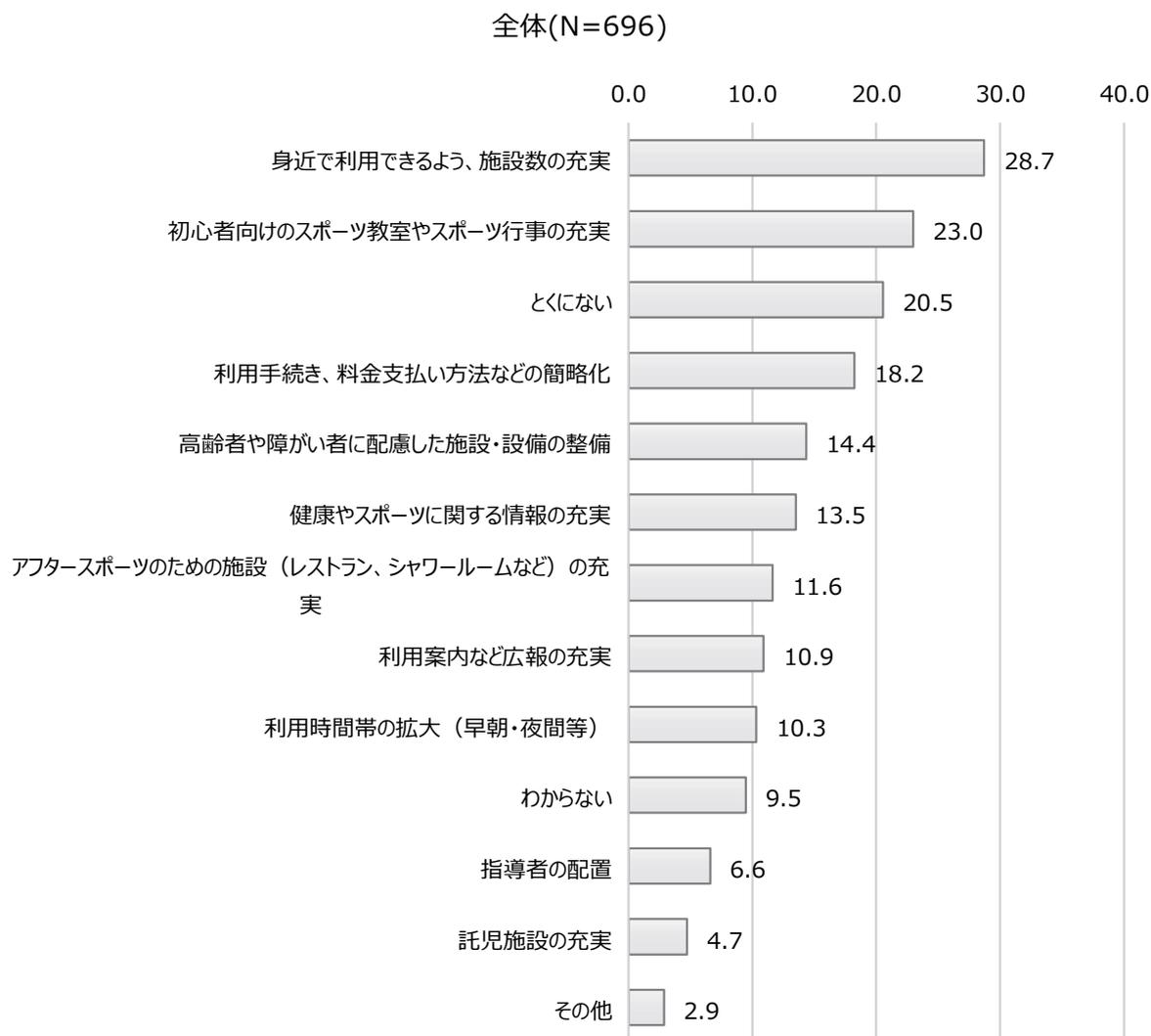
◆その他回答

- ・誰でも同じように指導できる人、区別無く
- ・腰椎狭窄症などを病むものの動きなどの指導

東御市のスポーツ環境について

問25 東御市のスポーツ施設に何か望むことがありますか[複数回答可]

望む事として「身近で利用できるよう、施設数の充実」が28.7%で一番多く、次いで「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」が23.0%だった。



◆その他回答

- ・インターネット予約への対応
- ・広大なマレットゴルフ場（無料で）
- ・施設（体育館など）が空いているのに利用できない
- ・全施設ネット予約できたらいい
- ・テニスコートにて中高の大会ありすぎ
- ・無料で利用できる施設の設置
- ・お金のかけ方に不満あり
- ・子供が自由に利用が出来る施設
- ・ジムが充実していたら使いたい
- ・デイサービスで見守ってもらい軽い運動をさせてもらっている
- ・古い器具類の取替え
- ・ゆうふるのプールはなくさないでほしい
- ・競技別専門施設の設置
- ・ボルダリング施設
- ・利用料金の見直し

東御市のスポーツ環境について

問26 身近に運動・スポーツを行う場所はどこですか。多い順に3つまで書いてください。

全てで「公園」が一番多く、次いで「家・家の周り」、「道路」で身近な場所が上位になった。それ以降は「体育館」「公民館」と施設があがってきた。

① 場所	件数	%	② 場所	件数	%	③ 場所	件数	%
公園 (内中央公園65件)	101	14.5	公園 (内中央公園37件)	68	9.8	公園 (内中央公園10件)	29	4.2
家・家の周り	63	9.1	家・家の周り	35	5.0	家・家の周り	23	3.3
道路	54	7.8	道路	29	4.2	体育館	12	1.7
体育館	34	4.9	体育館	28	4.0	公民館	9	1.3
公民館	25	3.6	公民館	21	3.0	自然環境	8	1.1
屋内プール	24	3.4	グラウンド	14	2.0	商業施設	7	1.0
マレット場	22	3.2	マレット場	13	1.9	マレット場	5	0.7
学校	22	3.2	学校	13	1.9	ゴルフ場	5	0.7
スポーツジム	20	2.9	自然環境	10	1.4	屋内プール	5	0.7
グラウンド	11	1.6	ゴルフ場	9	1.3	道路	4	0.6
ゴルフ場	10	1.4	商業施設	9	1.3	グラウンド	4	0.6
テニスコート	10	1.4	スポーツジム	7	1.0	学校	3	0.4
福祉施設	9	1.3	屋内プール	5	0.7	他地域施設	3	0.4
自然環境	8	1.1	会社・周り	5	0.7	スポーツジム	2	0.3
会社・周り	7	1.0	公共施設	5	0.7	会社・周り	2	0.3
公共施設	5	0.7	広場・屋外	5	0.7	公共施設	2	0.3
商業施設	5	0.7	テニスコート	3	0.4	テニスコート	2	0.3
他地域施設	5	0.7	福祉施設	3	0.4	福祉施設	2	0.3
ゲートボール場	3	0.4	他地域施設	3	0.4	広場・屋外・空地	1	0.1
空地・屋外	2	0.3	畑	1	0.1			
スポーツ教室	1	0.1						

(N=696)

東御市のスポーツ環境について

問27 東御市内のスポーツ施設に関するご意見・ご要望があればご記入ください

【新設】

- ・ サッカーなどができる芝生グラウンドが欲しい（10代男性、50代女性）
- ・ 公共の本格的なトレーニングジムが欲しい（30代・50代・70代男性、20代女性）
- ・ 平地のトラック、ランニングコース、全天候型トラックが身近に欲しい（40代、50代、60代男性）
- ・ 市営テニスコート、屋内テニスコート、ゴルフ場が欲しい（40代男性、女性）
- ・ 身近に室内プールがほしい（50代女性）
- ・ 水洗トイレ、ベンチ、水飲み場（手洗いできる）がグラウンドや公園、校庭に欲しい（80代男性）
- ・ 気軽に利用できる遊歩道などのウォーキングコースがあれば習慣化しやすくなると思う（60代女性）
- ・ サイクリングロードや広場があれば嬉しい（70代女性）

【整備】

- ・ ランニング場、歩道（ウォーキング、自転車）の整備・ウェイトトレーニング施設、ランニングマシンを増やしてほしい（20代、40代、50代、70代男性、40代、50代女性）
- ・ トイレの整備（ユニバーサルシートなど）（30代、60代男性）
- ・ 使用器具保管場所の充実（50代男性）
- ・ 中央公園マレットゴルフ場の整備、手軽に利用したい（70代男性、70代女性）
- ・ 芝公園の車の駐車場がもっとほしい（70代女性）
- ・ 第一体育館にもっと、ラウンドワンにあるようなボールとかラケットを貸し出してほしい（20代女性）
- ・ 屋内プールを整備してほしい（20代女性）
- ・ 第二体育館が古い、第一体育館は天井が高いので温まりにくい、高齢者には武道館の床のクッションが不安定で具合がわるい（50代、70代女性）
- ・ 中央公園内に自転車やボード持ち込み禁止の看板を設置してほしい（60代女性）
- ・ 明神館周辺の総合的活用をお願いしたい（80代女性）

【ソフト】

- ・ 冬の運動教室をやしてほしい（20代男性）
- ・ ICに近く、駐車場も多く、集まりやすい。施設もきれいで整備もとてもされている。ゆえに大会などが多く、市民として利用できない（30代男性）
- ・ 現状の施設を利用してスポーツ教室や運動プログラムの充実（50代男性）
- ・ ヨガ教室など主婦や大人向けのプログラムがあれば嬉しい（20代、30代、40代女性）
- ・ 退職者や老人が手軽に運動に参加できる公民館事業を増やしてほしい（50代女性）
- ・ スポーツ施設について考えるより先に東御市の学力を向上すべき（10代女性）

【システム】

- ・ 利用状況や利用方法など施設情報が分からない、年に何度か広報で紹介してほしい（30代男性、20代、30代、50代女性）
- ・ 施設の予約をネットを通じて行えるなど、気軽に使えるシステムを作っては？交通手段として巡回バスなど走らせてはどうか？（50代男性、60代女性）
- ・ 全体的に利用が複雑（60代男性）
- ・ 高地トレーニング施設は市民も使えるのか？情報が少なくて分からない（40代、50代女性）
- ・ スポーツ施設の受付担当の態度に問題がある、説明不足な上、上から目線（40代男性）
- ・ 料金の値下げ、利用しやすい料金設定を希望。家族割や時間割など選べるようにしてほしい（40代、60代、70代男性、30代、40代、50代女性）
- ・ 団体に属してなくても気軽に体育施設を利用できるようになるといい、自由に使える施設を増やしてほしい（20代、30代、40代、60代女性）

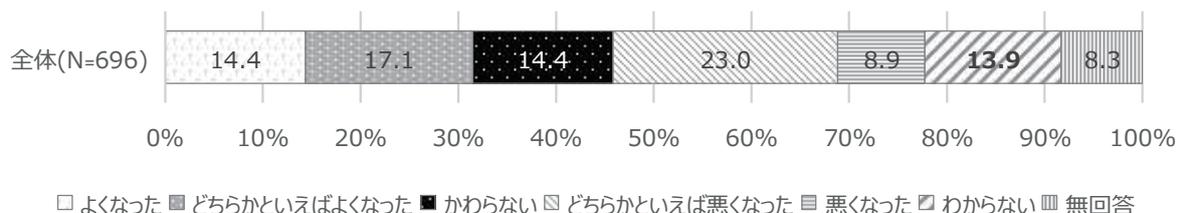
【その他】

- ・ スポーツ施設を設立するにしても市民のみから徴収してお金を工面するのではなく全国や海外の方からも支援され、市民の負担を軽減して頂きたいクラウドファンディングなどを活用し、市民の負担を軽減して頂きたい（20代男性）
- ・ 東御市にすればスポーツが出来る、スポーツといえば東御市と思わせられるようなインパクトのある施設作り、町づくりをして欲しい（30代男性）
- ・ 高齢者中心や限られた人々が使える高度な施設は少ない。行政で設置する予算のかかる施設は現有施設でよい（40代、50代、60代男性）
- ・ 湯の丸高原にスポーツ施設が出来ても、高齢者等一般の人は利用しにくい。身近に手軽に利用できる体育施設（サッカー場、草地広場など）を作してほしい（80代男性、60代女性）
- ・ 湯の丸の高地スポーツ施設は必要なのか？（？代男性、40代、70代女性）
- ・ 民間企業との連携による専門施設の設置運営、学校体育施設の有効活用、野球やサッカーができる環境がなく、クラブチームに入らなければならない（40代男性）
- ・ 施設がなくとも体操やウォーキングなどできるスポーツは沢山ある（40代男性）
- ・ 東御市スポーツ施設は体育館、プール、テニスコートなど充実してるため、それぞれの場所を有効利用することが大事と思う（60代、70代男性、40代、60代女性）
- ・ 施設が少なすぎる、有効利用されていない（10代、60代女性）
- ・ 身近に施設がほしい、旧東部町内に集合しており北御牧町内の人達は不便、一年を通じて利用できる場所があると嬉しい（70代男性、50代女性）
- ・ 料金の引き下げの努力、分不相応な設備は不安（70代男性）
- ・ 複数の団体が集中すると予約ができないので学校施設など利用可能な施設を増やしてほしい、施設は柔軟な対応をしてほしい（40代女性）

東御市のスポーツ環境について

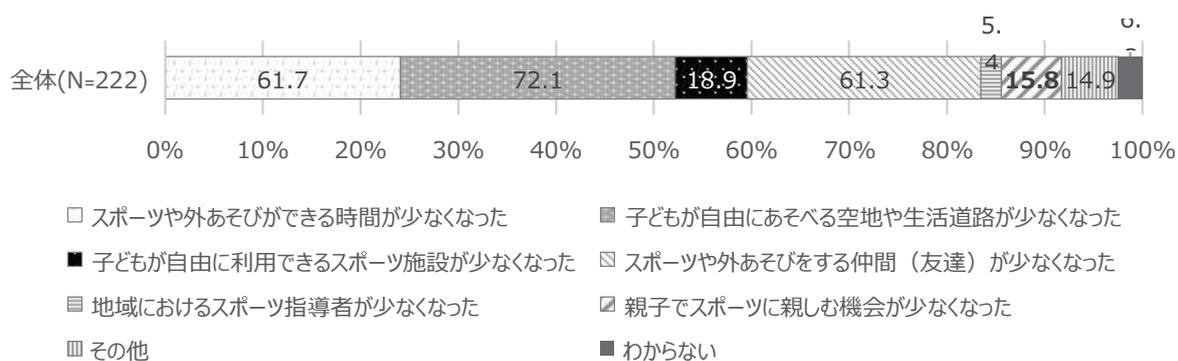
問28 ご自身の子どもの頃と比較して、今の子どものスポーツや外あそびの環境はどのようになったかと感じますか[1つだけ回答]

「どちらかといえば悪くなった」「悪くなった」で31.9%、「よくなった」「どちらかといえばよくなった」で31.5%だった。



問29 【問28で「どちらかといえば悪くなった」「悪くなった」と答えた方のみ】それはどのようなところですか[複数回答可]

「子どもが自由にあそべる空地や生活道路が少なくなった」が72.1%と一番多く、次いでは「時間が少なくなった」が61.7%、「仲間が少なくなった」が61.3%だった。空間・時間・仲間の「3間」がないという社会的問題とリンクした回答となっている。



◆その他回答

- ・遊びといえば自転車くらい
- ・今は自分の子だけが良ければいいという人が多い
- ・親の送迎がないとスポーツ教室等に通えない 仕事で送迎が難しいときもある
- ・ゲーム、ネットなど内遊びが出来るようになった
- ・公園が遠い、整備不良、紫外線が強い
- ・子供が遊びたいと思う遊具を増やす
- ・子どもが少なくなり、近所での異年齢交流の場がなくなった、子供だけで遊ばない、親がいないと遊ばない
- ・子供たちが通学以外、特に休日歩くのが少なくなった
- ・子供たちだけで行けない 中心ばかりで遠い
- ・施設がなくてもどこでも運動が身近にあったと思う
- ・自然の中での遊び環境が悪くなった
- ・すべての遊びが危険と言われ禁止される
- ・外（環境）があってもどう遊んだらいいかわからないかわからない子が多いと思う
- ・近くに大きな公園があるのにゲートボール場になった
- ・不審者などの心配

東御市のスポーツ環境について

問30 どうすれば子どものスポーツや外あそびの環境が良くなると思いますか

【保護者】

- ・ 家庭教育の充実 外あそびスポーツの必要性を認識する（10代、60代、70代男性）
- ・ 保護者の意識が変わること 子どもが外で遊ぶことへの理解とリスクに対するの覚悟が必要（40代、60代男性）
- ・ 家庭内の考え方の変革、協理理解が必要（70代、80代男性、10代、20代、30代女性）
- ・ 保護者も一緒に外あそび、スポーツを楽しむ（30代、80代男性、20代、50代、70代、80代女性）

【大人・指導者】

- ・ 外あそび、スポーツを楽しむことを教える指導者の育成、充実（10代、70代男性、20代、60代、70代女性）
- ・ 大人が子どもと一緒にスポーツ、外あそびをする（30代、70代男性、20代、40代、50代、60代女性）
- ・ 指導者、学校教師の質の向上（40代男性）
- ・ 子供たちを思う大人たちが忙しすぎると思う（60代男性）
- ・ 一緒に楽しめる仲間作り、安心して遊べる場の確保（30代女性）

【ゲーム環境】

- ・ スマホ、テレビがなくなればよい（10代、60代、70代男性、40代、50代、60代、80代女性）
- ・ テレビや漫画ゲームなどを通じて子どもたちにスポーツの楽しさを教えていけばよいと思う スマートフォンやパソコンの告知や掲示板を利用して広く知ってもらふ機会を増やす（20代男性）
- ・ 外に出て遊ぶのがゲームをやるより楽しく思えるような外遊びが良い（70代女性）
- ・ スマホ、ゲーム、テレビの時間制限（60代、70代男性、60代、70代女性）

【環境】

- ・ 運動・スポーツ、外あそびが出来る環境を整える、苦手な子が気軽に楽しめたり、色々な種目が体験できる環境を作る（10代、50代男性、60代、70代女性）
- ・ 遊具がなくても遊べる遊びや、自然を生かした昔あそびを教えたり、楽しいスポーツを作る（30代、50代男性、20代女性）
- ・ 近所など子どもだけで行動できる範囲にあそび場、近くに買い物ができる場所がある公園があればよい（50代、60代男性、20代、60代女性）
- ・ 子どもに与えるだけでなく、環境に慣れることも重要（50代男性）
- ・ 大人の制限を減らす、大人の意識改革（50代、70代男性、40代、60代女性）
- ・ 自由に遊べる時間、空間が必要、遊び仲間が必要（60代、70代男性、40代、60代、70代女性）
- ・ 環境は今で充分良い環境があると思う（30代女性）
- ・ 整備するだけでなく、自然の中で遊ぶ経験ができることも大切（40代女性）
- ・ 過干渉にならなくていい環境・社会を作ること（50代女性）
- ・ 安全安心できること（10代～70代男性、30代～70代女性）
- ・ 車、自転車の通らない場所、広場が必要（60代男性、50代、60代女性）

【施設】

- ・ 自宅の近くに狭くても公園があるとよい（20代、30代男性、10代、20代、40代、50代女性）
- ・ 子供たちが利用できる施設があればよい 親子でも遊べる施設も（50代、70代男性、20代、50代、60代、70代女性）
- ・ スポーツ施設としてのドームを造ってもらいたい（とうみドーム）（10代女性）
- ・ 駐車場、周辺道路を広くしてほしい（20代男性、40代女性）
- ・ 中央公園に平地のトラック施設（40代男性）
- ・ 学校活動外の学校施設、公民館、児童館、休遊地を有効活用、クラブ等の開設、人材を置く（40代、60代、70代、80代男性、40代女性）
- ・ 空地、空き家、使用していない施設の活用（80代男性、30代、50代女性）

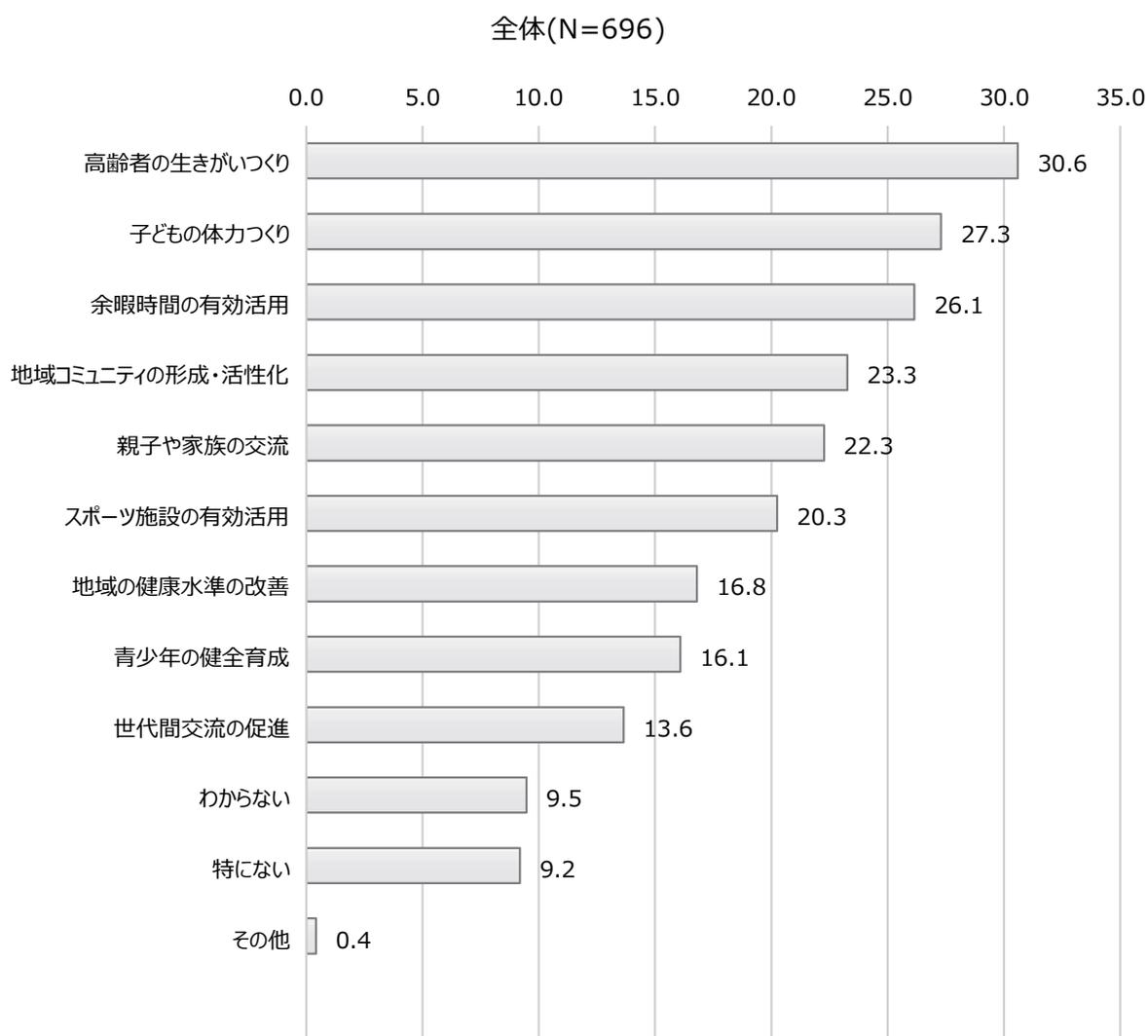
【仕組み】

- ・ 空間、時間に自由度がほしい（20代、30代、80代男性、20代女性）
- ・ 親子スポーツ、イベント、小学校対抗大会、公民館活動、スポーツ教室などのイベントを増やす（20代、30代、40代、50代男性、20代、30代、40代、50代、60代女性）
- ・ 行政の制限管理がなくなればよい、禁止事項が多い（40代男性）
- ・ まず楽しむ事、楽しい事をわかってもらう（40代男性）
- ・ 少子化対策、移住促進（40代、60代男性）
- ・ 地区毎に“外遊び”の場を設ける。運営は“地域づくり協議会”が関わったらよい（50代男性）
- ・ 休み時間に外遊びをさせる（60代男性）
- ・ 下校時間を遅くする。近所に外遊びの出来る場所の確保（60代男性）
- ・ 学校の授業で子どもの好きなスポーツを集中して行う、楽しさを教える（20代、30代女性）
- ・ 保育園、小、中でスポーツの場を親子でできるようにしたらいいのでは？（40代女性）
- ・ 学校と連携する。地図みたいな物を作って環境をアピールする（40代女性）
- ・ 体育の時間を昔くらいに戻したら良いのではないのでしょうか？（50代女性）
- ・ 各保育園、小学校、中学校内に生涯にわたり、運動することのできる共通の（狭い所でも簡単にとりこめる）設備や取り組みのシステムがあると東御市全体の健康増進につながると思う（50代女性）
- ・ スポーツクラブの充実（60代男性）
- ・ 受験競争があるから無理（70代男性）
- ・ 老人優先の政策をやめること（70代男性）
- ・ 子供でもできるスポーツ、出来る場を作り、宣伝する（10代、20代女性）
- ・ 土日は保護者に休みを保障する（20代女性）
- ・ 今は外はあぶないし、物騒だし、空き地もないし、あっても遊べばしかられるし、昔より外遊びの自由度は減ったかな（30代女性）
- ・ 送迎バスを運行させれば子供ももっとスポーツにふれる機会が増える（40代女性）
- ・ 子供たちの中での指導者がいればよい（子供ボランティア）（80代女性）

東御市のスポーツ振興について

問31 東御市におけるスポーツ振興にどのような効果を期待しますか[複数回答可]

「高齢者の生きがいつくり」が30.6%、「子どもの体力づくり」が27.3%、「余暇時間の有効活用」が26.1%の順となった。



◆その他回答

・一流選手との交流、講演会等

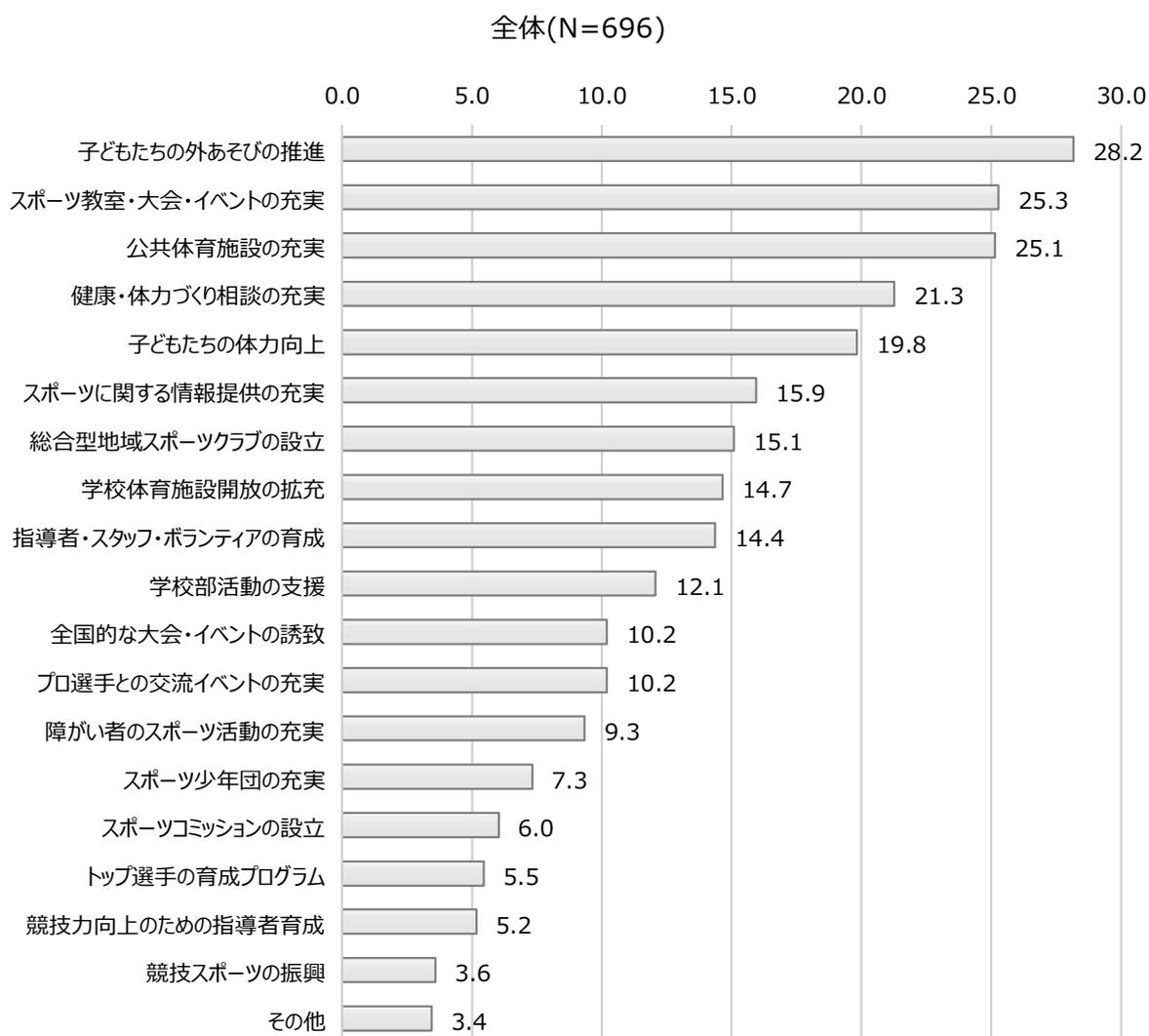
・市外からの集客

・ゆうふるのプールで孫と遊ぶのが楽しみ

東御市のスポーツ振興について

問32 スポーツをもっと振興させるために東御市に今後どのようなことに力を入れてもらいたいと思いますか[複数回答可]

「子どもたちの外あそびの推進」が28.2%と一番多く、次いで「スポーツ教室・大会・イベントの充実」で25.3%、「公共体育施設の充実」が25.1%の順となった。



◆その他回答

- ・安全な道路、自転車、歩道
- ・各施設の備品の充実
- ・現状でよい
- ・スポーツ教室の遠征などの送迎をしてほしい
- ・地区の子供広場などの環境をもっと充実させるべき。赤ちゃん子供連れで集まれるように
- ・広く、設備の整ったスポーツジムがゆうふる以外に欲しい
- ・湯の丸の施設を意識しすぎた質問に思う
- ・医療的見解やアドバイスする病院など
- ・学校施設の充実（小中）
- ・時間を気にせず気軽に1人でも参加できるプログラム
- ・スポーツではなく学習に勉めて欲しい
- ・大きい公園の充実
- ・健康体力づくりの出来る施設の充実
- ・子供をふやすべき
- ・大会をもっと増やして欲しい
- ・ゆうふるのプールをなくさないでほしい

東御市のスポーツ振興について

問33 運動・スポーツに関するご意見・ご要望があれば自由にご記入ください（自由意見）

【子ども】

- 小学生のマラソン（中・長距離）のレベルが低いから中学生もレベルが他の市町村より低い。小学生向けマラソン大会・駅伝大会などが少ないことが原因（40代男性）
- 中学校内部活動は、やりたい運動が出来るとても大切な教育の一つと考えている。子ども達には多くの選択が出来る環境を与えてほしい。湯の丸も菅平のように学校を通してスキー場券の配布してほしい（50代男性）
- 生きる力、育む力に繋げる幼少期の遊び。まずは「知」よりも「心」「体」の発達・発育を！（60代男性）
- ゲートボールを中学や高校の授業の体育でしてほしい（60代男性）
- 子どもたちの外遊び、体力向上、自然に親しむ為、湯の丸の施設の利用。スポーツと観光を結びつけたイベントを通年行う（60代男性）
- 部活指導で全員同一の練習をしているが、個々の体力・筋力合わせて、分けて指導ば短時間で指導ができる。中学生は長時間指導しても意味がない（70代男性）
- 子供たちのためにスポーツに力を入れ充実を期待します（20代女性）
- 子どもが大人になった時の為に色々な経験を！と思い、昔ながらの遊びをやっています（40代女性）
- こどもが外でのびのびと遊んだり、スポーツをしたりする場所があれば良いと思う（40代女性）
- 子供の時代から、自然とスポーツに親しめる環境作りが重要（40代女性）
- 子供たちにはスポーツを通しての体力向上はもちろん人間形成の上でも大切なものなので、環境、施設の充実を図って頂きたい（60代女性）
- ゲーム機の普及により子供達が外遊びをしなくなった。小学校の高学年の子供達が安全に遊べるような公共施設があればと思う（60代女性）
- 公園へ行っても子供たちの姿が少ない。学校の遊具も昔のように開放されれば良いと思う（60代女性）
- 子供たち同士の企画運用（80代女性）

【大人・高齢者】

- デイサービスの通所先で運動指導のおかげで自宅での運動の意欲にもなっている（60代男性）
- 高齢者が参加できる総合地域スポーツクラブが身近にあり、交通機関等がほしい。仲間との簡単スポーツがしたい（80代男性）
- デイサービスの人数を増やして気分のリフレッシュのためにも体を動かせる状況を作ってほしい（80代男性）
- 以前スポーツクラブに入っていたが、人間関係がうまくいかず途中でやめた。みんなで仲良く出来れば行きたいけれど、人見知りなので（40代女性）
- 人気のあるスポーツ教室は平日の7：00以降から始まる枠を作ってほしい（40代女性）
- 女性が気軽に出来るヨガなどのスポーツ教室を夜の時間帯に増やして欲しい。身近にきっかけ、機会があれば積極的に言うと思う（40代女性）
- 高齢者に公民館などで少し動けるような体操をしてみたらどうでしょうか。子供達も高齢者と一緒何かをするのもいいのでは（40代女性）
- 高齢者でも簡単なスポーツを楽しめる機会を身近で行える環境を整えて欲しい。散歩に行くにも近くの保育園、学校の様子を自由に見学できる。部活を見学できるなど運動に目的を持たせるなどでできれば楽しいかと思う（50代女性）
- 地元で集会所単位で、気軽に運動に参加したり、楽しむ習慣形成をつくっていくことが大切。老人のことを考えると労働可能な退職者をボランティア活用して、地元で「ずくせ運動」とか、「歩こう会」とか立ち上げるのはいかがですか（50代女性）
- 無理なく運動出来る事から始めることが大切ではないかと考えており食生活等も同時に見直しながら取り組んでいる（60代女性）
- 高年齢になると人との交流が少なくなるので、スポーツを活動交流の場となる様、又筋力維持レクリエーションスポーツ等の機会が多くなればと思う。夏場と冬はどうかならないでしょうか（70代女性）
- スポーツ、サークルに限らず子育て世代が参加出来ないのは、家庭第一的なこともあり、何かを企画しても参加するのは老人ばかり（70代女性）
- 高齢者ももって身近で体を動かしたり友達と話したりして健康に向けて努力し、医療費を使わないように心がける生活を目標したい（70代女性）
- 運動はしたいと思うが、肥満のためなかなか実行ができない（70代女性）

【体育施設・教室】

- クラブチームには入りやすく、体育施設も取りにくい（60代男性）
- グラウンドが少ない、自由に使用できる体育館がない、バスが少ない（10代女性）
- 市内の体育施設でどんな団体が活動しているのを知りたい（60代男性）
- 子供が以前、スポ少に属していたが、保護者の役員業務が多すぎてやめた。何かするために役員業務をつけてくるのはやめて欲しい（30代女性）
- 市内の教室の詳細を通知してほしい（ネットでも可）、スポーツと考えるのではなく、体を動かす事にも注目してみるのはいかがでしょうか？（40代男性）
- 一部のスポーツ教室は、仲間同士のサークル活動みたいになっており、初心者が入りにくくなっている。また、人数も多すぎてなかなかスムーズな運営ができていない（50代男性）
- 遠くへの試合参加など親の負担が多すぎ、やりすぎる。楽しく自由に参加できる運営にした方が参加しやすい（40代女性）
- 子供が市のスポーツ教室に入っていたが、送迎が大変。市の教室なのだから市バスを出してほしい（40代女性）
- 東御市としてのスポーツ団体で小中で連携してクラブ活動をして、指導者の負担が減らせるように市の方または、企業の社会貢献の一つとしてでも活動を連携しては（50代女性）
- スポーツ教室に参加してみたいと思うが、出来るのかと人間関係はうまく付き合えるかなど色々考えると一歩が踏み出せず、毎年悩んで結局申し込みできない（60代女性）
- 初心者、中級者、上級者等に分かれていれば参加しやすく継続出来るのではないかと思う（60代女性）
- 市の教室に参加していますが、回数を減らさせてしまっで残念。料金が発生しても良いので回数を増やして欲しい（60代女性）
- 筋トレ教室を始めて病院通いが減った事と血流が良くなることを実感している（60代女性）
- 実家が東御市にある上田市、小諸市など近くの子供たちは参加できるようにしてもらいたい（60代女性）
- 貯金体操が、昨年から月に2回になり、会場がかわったので来れない人もあり、有料になったのは残念。立派な体育施設が出来、国内外のイベントなどの誘致を期待している。広報力も！（70代女性）
- 新たなスポーツクラブ設立ではなく、地域のクラブ活動があるのかを明確化し情報を配信して欲しい（20代男性）

東御市のスポーツ振興について

問33 運動・スポーツに関するご意見・ご要望があれば自由にご記入ください（自由意見）

【施設】

- ・ 割安なスポーツジムの様な施設を希望。指導者、一緒に運動・スポーツできる仲間がほしい（30代、40代、50代男性、20代～50代女性）
- ・ まずは近い場所の用事は車を使わず歩くことから始めてはどうか（40代男性）
- ・ 施設は充実しているが、自身が積極的に参加しなければ意味がない。湯の丸の施設にも期待（40代男性）
- ・ ランニングできるコースが整備されればいいと思う（50代男性）
- ・ 税金が使われるスポーツ施設はいらない。民間で行い、民間を使えばよい（60代男性）
- ・ 国体にむけ誘致できる競技施設があればと思う（60代男性）
- ・ 夜間の走れるインドアの体育施設がほしい（60代男性）
- ・ 公的として商業の拠点設置や定期的な体力測定機器等を身近に置いて欲しい（60代男性）
- ・ 湯の丸高原を中心とする高地トレーニング事業の充実と田中駅から近い場所に大きな大会が出来る会場を作ってほしい（70代男性）
- ・ 市民のためのプール施設を充実させてほしい（70代男性）
- ・ 身近に出来る（特に冬季）運動施設は必要と思われるが、スポーツコミッションなど外部からの誘致については基本的に大反対（70代男性）
- ・ 費用対効果を考え、身の丈に合った設備や地道な活動を。子供が伸びやかに遊べる公園、遊具の設置を（70代男性）
- ・ 湯の丸高原にテニスコートは必要ない（70代男性）
- ・ 一部の人達だけの施設でなく、多くの人が気楽に楽しめるように（70代男性）
- ・ 市民や子供のための施設を充実させ、地元からトップ選手が出せるよう育成して欲しい（70代男性）
- ・ 湯の丸の水泳場不要（70代男性）
- ・ 用具置き場を第二体育館内から中央グラウンド内へ置き場を作ってほしい（80代男性）
- ・ 市内にはプロスポーツ施設がない、さびしい限りである（80代男性）
- ・ 気軽に使える卓球施設やバスケットゴール（屋外）などがあるといい（20代女性）
- ・ 誰でも手軽に利用できる施設の充実。今流行のスポーツをやりたい（20代女性）
- ・ 湯の丸の体育施設は十分活用してもらって黒字幅の確保。その分、市民プールの充実やみまきのプールも再開できるようにしてほしい（50代女性）
- ・ 室内（温水）プールを作ってほしい（50代女性）
- ・ 中学校のグラウンドが狭すぎる。校舎や体育館などすべての施設にエアコン（空調）は絶対必要。暑い時期（猛暑日）のスポーツ大会の見直しをお願いします（50代女性）
- ・ 東御市民が自由に使える施設を各地域ごとに置いて頂けたら嬉しい（60代女性）
- ・ プールのシューターはなくても流れるプールは再開していただきたい（70代女性）
- ・ 身近で楽しめる施設を考えるべきではないでしょうか（70代女性）
- ・ 芸術むら公園にランニングコース、プールも子供たちにとって楽しめる、遊べるプールがあると良い（70代女性）
- ・ 近くに気軽に歩ける遊歩道のようなものがあるといいと思う（70代女性）
- ・ 湯の丸のスポーツ施設はどんなものか、どれだけの利用者があるかわかりません（70代女性）
- ・ 幼児期から高齢期まで各段階で利用できる施設や広場を設けて欲しい（女性）

【企画・イベント】

- ・ 幅広い年代が参加できる企画、また地域住民が企画や運営にかかわれるような場があるとやりがいや新たなコミュニティが生まれるのではないかと（30代男性）
- ・ 湯の丸高原で小学生から大人まで参加できるトレイルランの地方大会実施（60代男性）
- ・ たまには気ばらしや、楽しみでスポーツに出掛けている。子供のハイキングや登山の同行や引率の要請があれば応募したい（70代男性）
- ・ 色々なスポーツを幅広く気軽に体験できるようにしてほしい（70代男性）
- ・ 地域振興のスポーツイベントで日本一過酷な湯の丸を含めたコースのマラソン大会の開催はできないか？（70代男性）
- ・ 市内に土俵を作り市内で年に1～2回位相撲大会を開催してほしい（70代男性）
- ・ 市一丸となって歩け歩け運動をしたらどうか（80代男性）
- ・ 合気道の教室を増やしてほしい（10代女性）
- ・ 子供向けのイベントを増やして情報が入ってくるように欲しい。子供に色々なスポーツをやらせてたいが、スポーツクラブは高そうだし施設もルールが厳しそう（20代女性）
- ・ 家族と小さい子供と一緒に楽しめるスポーツがあれば参加したい（20代女性）
- ・ スポーツをやりたい気持ちはあっても友達や知り合いがいないと教室や大会など参加しづらい。親子で参加できるイベントを健診時や支援センターなどで広めてほしい（20代女性）
- ・ お相撲のイベントが良かった。スノーボードの指導とかしてもらえたら子供を連れて行きたい（20代女性）
- ・ 子供と参加できるようなマラソン大会があったら良い。単発で参加できるような自然体験イベントを作ってほしい（30代女性）
- ・ 仕事終わりに行かれるスポーツ教室はありがたい。ウォーキングイベントなどが平日にもあれば参加したい（30代女性）
- ・ 食事や運動などを行ってほしい。申し込みをしなくても朝、公園に行くとか太極拳をやっていたり、そんな町になればいいなあ（40代女性）
- ・ 1人でも参加できるようになるのはとても難しい事だが求む（40代女性）
- ・ 海野マレットゴルフ場の使用料金の軽減や年間利用料の軽減を検討していただきたい（70代男性）
- ・ S U Pがしたい。S U Pヨガの指導者が欲しい（40代女性）
- ・ 家で出来るストレッチや運動を書いた本みたいなものがあれば嬉しい（40代女性）
- ・ 観戦する事は大好きだが、東御市には充実した施設が無いので残念。湯の丸で大会があったら見に行きたい（50代女性）
- ・ 毎朝、人々が集まってきてラジオ体操や太極拳などしている風景があればいい（50代女性）
- ・ 病院と一緒に相談が出来て健康で動ける体づくりをしてくれる場所があればいい（50代女性）
- ・ ヘルシーウォーキングの企画をお願いします（60代女性）
- ・ 東御の自然を活かした運動施設を作ってほしい。芸術むら公園の整備にも目を向けてほしい。健康運動指導士の育成に力を入れて公民館、高齢者施設などで幅広く指導しては。毎年参加しているチャレンジデーはとても良い取り組みだと思う（60代女性）
- ・ 身近な公民館で多世代で参加できるスポーツがあれば、指導者と多くの地域の人がより親しめ、スポーツに健康に関心もてるのでは。医療費がからなくなるのでは（60代女性）
- ・ 市民が好きな種目に応募して年一回の催しが出来ればいいと思う（70代女性）
- ・ 東御市のリズム体操のC Dを各地区へ配布して、この活動を広めるような取り組みを是非して欲しい（70代女性）
- ・ 公民館の月1回のバランスボールが楽しみ（80代女性）

東御市のスポーツ振興について

問33 運動・スポーツに関するご意見・ご要望があれば自由にご記入ください（自由意見）

【施策】

- ・ スポーツ人口が多くなれば住民に活気が出てくるのではと思う（70代男性）
- ・ 湯の丸にスポーツ施設は一般を対象にしたものでなく、利用する市民にいない。もっと身近にその金を使うべきである（70代男性）
- ・ 経済的に不十分な家庭でも楽しめるように配慮してほしい。スポーツは危険が伴うことを理解し、危険を予防することも大切です（80代男性）
- ・ 湯の丸高原にトップのアスリートが集うようになる事を希望。アスリートとの接触により地域の青少年のスポーツに関わる意識の向上に期待（80代男性）
- ・ スポーツを振興させるのであればもっと地元の子供から老人までが自由にお金を払わずに使えらる場を作ってほしい（80代男性）
- ・ 市民に体育館を無料で開放してほしい。見晴の里に運動器具をお願いします（90代男性）
- ・ スポーツ施設などにお金をかけるよりも市民のために他の事を考えてほしい（10代女性）
- ・ 市民が使用できる体育館の利用時間の拡大（20代女性）
- ・ 運動やスポーツの情報を知らない。プロの方が来るなどの機会が沢山あればいい（30代女性）
- ・ 本当に必要な所に税金を使ってください（30代女性）
- ・ 市民の活用できない山のプール施設はいらぬ。理想的なスポーツ施設はゆうふる田中みたいなプール、温泉、スポーツジム3種そろっている場所。外から誘う、アスリート育成など考えず、市民の健康を第一に考えるスポーツ施設を考えてほしい（40代女性）
- ・ 女性がスポーツを楽しむとしたら、子連れOKか、託児お願いできる所。長くは続けられないのが残念（50代女性）
- ・ 折角湯の丸にスポーツ施設ができるのでスポーツコミッションの設立をお願いします（60代女性）
- ・ 運動が苦手な私でもゆうふるのプールだけはすといけます。上がった後すぐに入浴できるのも宝です。是非ゆうふるのプールをなくさないでほしい（60代女性）
- ・ 施設や組織を作ることばかりでなく心も育てるような工夫を願っています（60代女性）
- ・ ケアポートみまきのプールを障がい児に時間の制限なく無料で提供してほしい（60代女性）
- ・ 健康や体力づくりなどに関する情報を提供し、市民各自が自ら健康生活を営めるプランを実施、提供してほしい（60代女性）
- ・ 将来の為に運動と食事が大切なので啓発活動をすべきと思う（60代女性）
- ・ 田中のゆうふるのプールを住民の為に存続をする方が住民益になると思う（60代女性）
- ・ 総合型地域スポーツクラブやスポーツコミッションの設立などは人口わずか3万人程の東御市に必要ですか？それよりも身近に入園前の小さな子供から小学生まで安心して遊べる場所をもっと作ってほしいと思う（60代女性）
- ・ 個人個人に合ったものを選択できるようにゆるやかな考えで進めてほしい（60代女性）
- ・ 今現在必要なのは、1総合型地域スポーツクラブ 近い将来は、2スポーツコミッション。まず、東御市体操みたいなものが市民全体に広がれば、子供の体力づくりや高齢者の健康も保つことができるのではないかと（70代女性）
- ・ 東御市のスポーツマンを多く作ってください（70代女性）
- ・ スポーツだけでなく学ぶよこびを応援してほしい。大人になってスポーツの不必要さともっと勉学に励むことの重要性を痛感している（女性）

【その他】

- ・ 自転車のことを考慮した道が非常に少なく残念。道が狭い、でこぼこな所ばかりで嫌（20代男性）
- ・ 一つの競技に集中する事ではなく、様々な競技、運動から身体能力を向上させられる様に運動、スポーツが行われる環境作りを期待します（30代男性）
- ・ 東部中の剣道部の先生を見直したらいいのでは？（40代男性）
- ・ スポーツをやりたい人は自分でスポーツを充実させていこうと思う。スポーツをする人もしない人も自己実現できる社会がいい（40代男性）
- ・ 自然環境の保全と共に登山道の整備や内外へ高原の知名度を上げるようお願いします（50代男性）
- ・ 芝生公園に散歩に行ったが、以前より木の数が少なくなったように思う（60代男性）
- ・ 運動するか、しないかは本人次第。ハードに金をかけてもやらない人はやらない（70代男性）
- ・ 高学歴社会のため、運動・スポーツよりも勉学・学力向上が第一となる。一流大学をめざしている者にとっては、運動・スポーツは縁遠い（70代男性）
- ・ 指導者の育成が大切（70代男性）
- ・ 経験者ならどうにかなるが素人は新しくスポーツをやるにはやりにくい（40代女性）
- ・ 運動、スポーツは個人的な楽しみだと思います（50代女性）
- ・ 生活の中でスポーツが自然にできる環境、特に競技に限らず、したい時にする（50代女性）
- ・ スポーツに関するイベント、ボランティアへの参加をしてみたいとは思いますが、仕事があるので、残念ながら無理（60代女性）
- ・ 夜、歩いても大丈夫のように道路の補正、修繕、街灯など確認してほしい（60代女性）
- ・ 身近で気軽に参加する機会が少ない、参加したいが、行く方法がない（送迎してほしい）、知らなかった（60代女性）
- ・ 芸術村公園にまとまりのある整備してほしい（60代女性）
- ・ スポーツは好きでしたが、今はテレビで色々な体力作りを見てまねをやってる（80代女性）
- ・ TVや新聞で若い人のすごい発展が見られうれしく思う。自発的な行動力を期待（90代女性）

東御市スポーツ振興意見交換会 報告書

平成 30 年 11 月

公益財団法人笹川スポーツ財団

1. 開催趣旨・経緯

東御市では、2019年3月に予定している「東御市スポーツ推進計画」の策定に向け、2018年8月、東御市スポーツ推進審議会を設置した。計画策定にあたり、東御市スポーツ推進審議会の委員以外の市民にも意見を聞きたいとの行政側の意向を受け、笹川スポーツ財団が主催している「スポーツ振興意見交換会」を開催することで、市民ニーズの把握、及び市民参画のきっかけになるのではないかと、との要望を受け、笹川スポーツ財団の主催で、スポーツ振興意見交換会を実施することになった。実施にあたっては、近年より広く住民の意向を集めることができる手法として注目されている「ワールド・カフェ」と呼ばれる方式で開催することとした。

※ワールド・カフェとは、知識や知恵は機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話することにより、自由にネットワークを築くことができる「カフェ」のような空間でこそ創発される、という考えに基づいた話し合いの手法。

2. 基本方針

スポーツ振興意見交換会の基本方針を「」として、以下の3点を重要とした運営を行った。

1. 何かを決定する場ではない。
2. 結論を出すことが目的ではない。
3. 良い話し合いで、気付きを得る

3. 実施内容

【共通テーマ】

東御市におけるスポーツ振興について～10年後のあるべき姿を目指して～

【主催】

東御市企画振興部 文化・スポーツ振興室

(1) 第1回スポーツ振興意見交換会

1) 日時

平成30年9月27日(木) 19:00～21:00

2) テーマ

現状の共有

(2) 第2回スポーツ振興意見交換会

1) 日時

平成30年10月30日(木) 19:00～21:00

2) テーマ

あるべき姿に向けた提案

4. 開催状況

(1) 第1回スポーツ振興意見交換会

① 開催

平成30年9月27日(木) 19:00～21:00

② 参加者数

16名(東御市内のスポーツ関係者)

コーディネーター:小淵和也(笹川スポーツ財団 主任研究員)

③ テーマ

現状の共有

④ タイムスケジュール

タイムスケジュール(19:00～21:00) 120分		
オリエンテーション	10分	コーディネーターのSSF小淵より、東御市スポーツ振興意見交換会の開催経緯と主旨の説明
4人ずつ4テーブルに分かれる		
ラウンド1	35分	○自己紹介 ○各々の活動についての共有 ○模造紙に考えをまとめる
テーブルに1人(ホスト)を残して、他3人は、残りのテーブルに移動		
ラウンド2	35分	○自己紹介 ○各々の活動についての共有 ○模造紙に考えをまとめる
テーブルに1人(ホスト)を残して、他3人は、別のテーブルに移動		
ラウンド3	35分	○自己紹介 ○各々の活動についての共有 ○模造紙に考えをまとめる
ラウンド1開始前のテーブルに全員が戻る		
まとめ	5分	○各々がテーブルで意見交換した内容を共有 ○模造紙に考えをまとめる

⑤ 開催状況



(2) 第2回スポーツ振興意見交換会

① 開催

平成30年10月30日(木) 19:00～21:00

② 参加者数

15名(東御市内で活動するスポーツ関係者)

コーディネーター:小淵和也(笹川スポーツ財団 主任研究員)

③ テーマ

現状の共有

④ タイムスケジュール

タイムスケジュール(19:00～21:00) 120分		
前回のまとめ	15分	コーディネーターのSSF小淵より、第1回東御市スポーツ振興意見交換会の内容を紹介
4人ずつ4テーブルに分かれる		
ラウンド1	30分	○「前回のまとめ」を受けての感想を、グループメンバーで共有する。 ○模造紙に考えをまとめる
テーブルに1人(ホスト)を残して、他3人は、残りのテーブルに移動		
ラウンド2	30分	○ホストより、そのテーブルのラウンド1でのディスカッション内容を共有 ○10年後の東御市のスポーツ振興を話し合う ・自分の組織、地域はどうあるべきか？ ・それは、どうすれば実現できるか？ ・実現に向けて明日からできることは何か？ ○模造紙に考えをまとめる
テーブルに1人(ホスト)を残して、他3人は、別のテーブルに移動		
ラウンド3	30分	○ホストより、そのテーブルのラウンド1、ラウンド2のディスカッション内容を共有 ○10年後の東御市のスポーツ振興を話し合う ・自分の組織、地域はどうあるべきか？ ・それは、どうすれば実現できるか？ ・実現に向けて明日からできることは何か？ ○模造紙に考えをまとめる
ラウンド1開始前のテーブルに全員が戻る		
まとめ	15分	○ホストより、そのテーブルであった議論を他のメンバーに共有する ○他のメンバーは、自分が回ったテーブルの議論を共有する ○それらをふまえて、10年後の東御市がどうあるべきかを話し合う ○模造紙に考えをまとめる

⑤ 開催状況



5. 内容まとめ

(1) 子ども

●現状の課題

- 子どものスポーツ人口減(インターネット、ゲーム等)
- 信州の子どもは外遊びをしてない
- 小学生での「やる」「やらない」のスポーツの二極化が大きい
- スポーツをするきっかけ、出会い、場所が少ない
- 遊具撤去などで、体を動かす場がなくなっている
→子どもを守っているのではなく、大人を守っている
- 子どものときのスポーツのイメージが、その後にも影響する
- 親の都合で子どもがスポーツできない
- 子どもが少ないので競技団体に奪い合いが起きる
- 放課後の子どもの居場所がない
- 低年齢期に多様なスポーツを体験する仕組みが欲しい
- 子どもの運動能力の低さによる障害が出ている
- 小学校ではスポーツを楽しんで、中学校に繋げて欲しい
- 部員が不足して活動ができない
- 小さいころに身体を動かす喜びを知ってほしい
- 児童クラブ終了後、体育館に集まって体を動かす場を創出してほしい
- 子どもが気軽に遊ばなくなった理由の追究が必要
- 2つの中学校をバスでつないで、様々な部活動に参加できるようにする
- 周辺の地区をバスでつないで、活動の場を広げる
- 親の都合で、すぐ家に帰ってしまう ふれあいが少ない
- 親が忙しいので、1人で外で遊ばせることができない
- 親以外の見守る目がほしい
- 親が遊ぶ余裕がない
- 親が関わらないでも済む運用可能な仕組みがあると良い
- 遊びができる環境の1つに親の理解が必要
- 中学入学前に1つのスポーツをやらせないといけない親同士の雰囲気がある
- 保護者、地域の方の協力ありがたい
- 競技スポーツに取り組む前段階に、あそびを加える
- 自主的に取り組める、あそびの入り口を作る
- 大人が制限しすぎて子どものあそび機会を減らしている。
- 大人の目(お年寄りの目)のある遊び場の創出があると良い。

●10年後に向けた提案

- 教育 学びの本質は興味関心→これをサポートすることが教育の役割
- 子供にとってのあそびが大人にとってのあそびになる
- 市内の5地区をバスでつないで活動の場を広げるのは実現させたい。
- 小さい子供が気軽に運動を楽しめる環境を作る必要がある。

- 子供の視点が重要。
- 子どもが選択できる環境を作りたい。
- 幼少期から様々な競技を経験して、どのライフステージでもスポーツを楽しめるように、生涯スポーツを楽しむ環境を作る。
- 親が忙しい、親と一緒に遊べないは、言い訳。現在の環境に合った接し方を考える。
- まずは、体力づくりに取り組む。その後スポーツへ。
- 子供がスポーツに気軽に取り組める環境を考えていく。
- 多様な種目を経験できる環境、雰囲気作りが必要
- 指導要領の変化に合わせて、活動時間を調整する
- 親の負担を少なくできる環境づくりが必要
- 教育の中でスポーツの時間を作る。そこには達成感を考えた教育が必要。
- スポーツに限らず文化、遊び、勉強など、子供が好きなものを選べるクラブを作る。



(2) 指導者

●現状の課題

- ・ 技術講習会の実施など、指導者を育成する環境をつくる
- ・ 子どもが興味を持つような指導方法を学んでほしい
- ・ 指導者の人材不足
- ・ 年齢等に応じた指導法を学べる機会が必要である
- ・ 指導者の資格取得、維持する費用はどうすべきか？
- ・ 指導者の思い
→子供の10年後、20年後を大切に。
- ・ 新しいスポーツの指導者育成や紹介
- ・ 指導した子供が指導者として戻ってきてくれる
- ・ 部活動の指導者(顧問)がいない
- ・ 小学生には楽しさを教え、中学生には勝つ充実感を味わってほしい
- ・ スポーツの楽しさを子どもに教えてほしい。
- ・ 仲間とやることの楽しさ、いろんなスポーツに触れる機会をつくってほしい

●10年後に向けた提案

- ・ 生涯スポーツの視点で指導できる人材を発掘・育成する。
- ・ 資格取得をサポートする制度の確立。
- ・ 自らがスポーツしている際にも、指導者としての関わり方を伝えることもあり。
- ・ 昔はこうだった、は不要。現代にあった提案をする指導者が必要。
- ・ 種目ごとに指導者が仕事として確立している
- ・ 同じスポーツでも目的にあった指導を考えないといけない



(3) 教育・部活動

●現状の課題

- ・ 部活動の時間が少ない
- ・ 北御牧小・中学校は部活数が少なく選択できない
- ・ 中学校の部活は外部に任せる
- ・ 学校では先生指導による部活は廃止された
- ・ 中学生の運動部への参加は減ってはいるものの70%の加入率
- ・ 部活、朝練の在り方、環境を、改めて考える必要がある
- ・ どうしたら怪我をしないかを学ぶ必要がある。
- ・ スポーツを通して、人の話を聞くなどを教える
- ・ 「達成感」や「乗り越える楽しみ」を教えることが大切
- ・ 失敗を経験することで学べることもある。
- ・ 人の前で自分の意見を言える、意思表示できるようになる。
- ・ 勝つ喜びも必要だが、仲間との助け合いや心の成長も必要

●10年後に向けた提案

- ・ 部活動は東御市だけの問題ではない。他自治体との連携が模索すべき。
- ・ 部活動をやめて、クラブチームで活動をするべき。活動は、地域でささえる。学校は授業に専念するべき。



(4) 生涯スポーツ

●現状の課題

- ・ 人材バンク制度が必要(ボランティア・指導者)
- ・ チャレンジデーを発展させて、もう少し長い期間やる(東御市チャレンジデー)
- ・ 30～40代のスポーツ人口が減っているので、もっと参加してもらいたい。
- ・ 時間、空間、仲間、余裕がない
- ・ スポーツができない、スポーツをやりたくない人はどうすべきか？
- ・ スポーツに魅力がないので、継続できない。
- ・ 一生涯、スポーツを継続するためには、どうすべきか？
- ・ 学校卒業後、スポーツから遠ざかってしまう。
- ・ 地域のかかわりが薄い
- ・ 仕事との両立が難しい
- ・ もえつき症候群。社会人になっても運動がやれる仕組みがあると良い。
- ・ どうすればスポーツを楽しめるのか？
- ・ 一つの種目に特化してしまつて他の運動ができない。
- ・ 大人になると結果に縛られずにスポーツできるので楽しい。
- ・ 自分の楽しみでスポーツをやっている(ストレス発散)
- ・ 体を動かす楽しさ、体づくり、達成感。
- ・ 活動人数が少ないので自主イベント(駅伝大会、陸上大会)で満足な体制にならない
- ・ 単発的なスポーツイベントやスポーツ教室など偏る傾向があるので、継続的なスポーツ活動に結びついていない

●10年後に向けた提案

- ・ 健康ポイントとの連動した取り組みがあつても面白い。
- ・ 月1回の東御チャレンジデーを策定する(毎月13日など)
- ・ (教育)小学校(遊び/楽しく)→中学校(充実感/勝つ喜び/心の成長)→10年後(親/指導者として)
- ・ 子どもだけでなく大人の10年後も健康でいきいきした東御市でありたい
- ・ 過去や現在にない。新しい仕組みを民間が主導して作る。
- ・ 行政が主導でスポーツプラットホームを作る。(場所機会等収集)
- ・ 子どもに選手以外に指導者の選択肢があることを普通に教えられるスポーツ環境を作っていく。
- ・ 指導者の確立が競技人口の増加につながる。
- ・ 総合型スポーツクラブと作つて、各種目が楽しめる環境を作る
- ・ 子供の親も巻き込む
- ・ スポーツ全体をコーディネートできる窓口機能を持った組織が必要
- ・ 練習の中で他競技を取り入れて体験させてあげておけば生涯スポーツの選択肢の一つになるのではないか
- ・ 市内の同競技団体をなくす
- ・ 競技スポーツだけの組織にしない
- ・ スポーツクラブで働くことを職業とすることで、子どもが将来、指導者として戻ってくるのが可能になる。

- ・ 個人の活動には限界がある。多くの団体が協力して、環境改善できたらよい。
- ・ 身体教育医学研究所の素晴らしい体制を今後も手本としてほしい



(5) 障害者スポーツ

●現状の課題

- ・ 障害者とは？の定義が知りたい。
- ・ 障害者への理解、啓発
- ・ 子どもたちへの障害スポーツへの理解、きっかけがあると良い。
- ・ 障害者スポーツに関心がある人と無い人の差が激しい
- ・ 障害者スポーツボランティアが不足している。
- ・ ボッチャの普及活動を行う。
- ・ ボッチャをやるようになって生きがい、楽しみ、日々の生活にはりが出た。
- ・ ボッチャで市民全員参加できるようになれば良い。
- ・ ボッチャボランティアの整備が必要。
- ・ 車イスバスケットを学校の授業でやって欲しい。
- ・ 体育協会主催で障害者スポーツにふれるイベントを開催する。
- ・ 東御市でユニバーサルイベント開催
- ・ 分館対抗大会で障害者スポーツをやる
- ・ きっかけ作りとして障害者、健常者との交流大会があってもいいのでは？
- ・ 障害者も積極的に参加可能な環境づくり

●10年後に向けた提案

- ・ 既存スポーツ大会に障害者スポーツを取り入れる
- ・ 車椅子バスケットボールを中学校の授業で取り入れたい
- ・ ボッチャを中心に取り組みをしていきたい中学校でも取り組みたい
- ・ 子どもに限らず、大人も障害者スポーツへの理解を深めるきっかけが必要。
- ・ ユニバーサルスポーツの体験会をやるのはどうか。多世代が集まれる
- ・ 障害者が会場に移動する方法の充実が必要。
- ・ 東御市のスポーツ「障害者スポーツ」のイメージになっているので、ブランド化して、他地域との差別化を図る
- ・ ボッチャは東御市が他市より長く取り組んでいるので、さらに力を入れて取り組んでほしい

(6) 場所・環境

●現状の課題

- ・ 東御市内の企業とのつながりを強化するべき。
- ・ 体育館やグラウンドをもう少し自由に使える仕組みがあると良い。
- ・ 児童館は、すでに利用者でいっぱい。
- ・ 田舎なのに外で遊べない。
- ・ 夜遅くまで遊んでいられない。帰る時間がきびしい。街灯が少ない。
- ・ スケボーなどをする場所が不足している。
- ・ 競技力向上を目的にした子どもがやれる場所がない。
- ・ 練習環境がなく他市へ行ってしまい空洞化(地元人がいなくなる)
- ・ ヒップホップする自由な場所が少ない。公民館が使いづらい。
- ・ 体育館やグラウンド、公民館等の開放日をつくる。
- ・ 種目によっては運動ができる場所が少ない
- ・ コートの常設をお願いしたい。
- ・ 生涯学習講座にぜひ入れてほしい
- ・ ボーダーレススポーツとしてポッチャを進めていきたい(コート不足)
- ・ いつでもできる場所。小中高と続けていく子が意外と続けていない子もいる。
- ・ 継続してスポーツできる環境づくりが必要。
- ・ いろいろな競技・スポーツが一堂に介するイベントを開催する
- ・ 地域の中での人との交流がない。
- ・ きっかけとなる場所づくりが必要。
- ・ 気軽に行ける(使える)場所(公民館、児童館等)をもっと増やしてほしい。
- ・ スポーツに出会う機会がとても少ない(社会的、家庭内、地域)
- ・ 気軽にできる環境か? 「場」と「機会」はある?
- ・ 東御市のスポーツ環境は?
- ・ 色々制限が多くなっている
- ・ 時間の制限がある
- ・ 多種競技の環境整備

●10年後に向けた提案

- ・ スポーツ施設の一元化してマッピング。
- ・ 施設稼働率を公表して市民がわかるようにする。
- ・ 遊具を増やして、公園で子供が遊ぶ環境をつくる
- ・ 施設利用料が無料になる施設開放イベントを開催して市民のきっかけ作りを行う

(7) 情報

●10年後に向けた提案

- ・ 情報提供の仕組みが必要。必要な人に必要な時に。スポーツの楽しさを知れる。
- ・ 東御市の世代別運動スポーツ実施の可視化
- ・ 著名人による講習会で情報提供。

(8) 企業

●10年後に向けた提案

- ・ 市内の企業でスポーツが盛んになれば良い。
- ・ 市内のスポーツ振興に貢献した企業を表彰や支援する施策があると良い。
- ・ 企業がお金を出しやすいように税の優遇や社員の健康づくり支援など
- ・ 勤務先がスポーツに理解がある社会ができると良い。
- ・ 企業(商店街)との連携は必須。理解してもらって駅伝大会やスポーツ大会のスポンサーの可能性も探る。

(9) 行政

●10年後に向けた提案

- ・ スポーツ環境は、大規模な予算措置が必要。
- ・ バス移動は現実的な課題として早急に取り組んでほしい。
- ・ 市民広報でスポーツ欄を作成してほしい
- ・ スポーツ団体のガイドラインを策定して徹底させてほしい。
- ・ スポーツへのモチベーションの方策を考えてほしい(特典など)
- ・ 中体連の大会に「東御スポーツクラブ」として参加可能とする
- ・ スポーツ振興に寄与するイベントや交流会には施設料金の優遇措置を。
- ・ 行政の縦割りを減らし、行政がまず部署間連携を積極的に進める。それぞれで良いことをやっているのは市民も分かっている。
- ・ 体育協会・福祉課などそれぞれいいことをしているのに連携がなく残念

東御市スポーツ推進計画（原案）に対する

パブリックコメントの結果について

1 募集の概要

件名	東御市スポーツ推進計画（原案）に関するパブリックコメント
意見の募集期間	平成31年1月9日（水）～平成31年2月5日（火）
意見の受付方法	電子メール、ファックス、郵送、担当窓口へ直接
意見の周知場所	市報とうみ、市ホームページ、市役所本館、北御牧庁舎、総合福祉センター、中央公民館、市民ラウンジ、滋野コミュニティーセンター、柵津公民館、和コミュニティーセンター
結果の公表場所	市ホームページ
提出状況	(1) 提出者数 3人 (2) 提出意見数 27件
実施機関	東御市企画振興部文化・スポーツ振興室文化・スポーツ振興係 電話：0268-75-1455 ファックス：0268-63-5431 電子メール：bunka-sports@city.tomi.nagano.jp

2 ご意見の提出状況と対応区分

区分	内容	提出者数	意見数
A	ご意見の趣旨が既に反映されているもの。		
B	ご意見を反映させるもの（または修正したもの）。	2	12
C	ご意見を反映することはできないが、今後の参考とするもの。	3	9
D	ご意見を反映できないもの。 ・法令等で規定されており、市として実施できないもの。 ・実施主体が市以外のもの。 ・市の方針に合わないもの。など	1	2
E	その他のご意見（質問、感想等）。	1	4
計			27

※表中の提出者数は、1人で複数の意見を提出している場合があるため、実際の提出者数（3人）と一致しません。

3 ご意見の内容と市の考え方について

番号	意見の内容・要旨	市の考え方	反映区分
1	<p>東御市スポーツ推進計画（原案）の策定に関わる情報公開について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本計画及びスポーツ推進審議会の経過について速やかな情報公開が適正である。 ・本計画の策定に関連する団体、会議等の位置付け・記録の公開が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開等に関して頂いたご指摘は、今後、参考にさせていただきます。 	E
2	<p>第2次東御市総合計画・後期基本計画（原案）パブリックコメントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化・スポーツ振興室が行う「文化・スポーツ振興」とは何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツが持つ限りない力を最大限に活かして地域の活性化を図ります。 	E
	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや芸術文化は、行政から勧められて参加するのではなく、市民の自発的活動のため、市が個別の施策を推進しなくてもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ基本法」の成立、スポーツ庁の創設等により、国、県、他自治体においても、スポーツを多様な観点から捉えたスポーツ政策を積極的に推進しています。 スポーツを取り巻く市民の多様なニーズに応え、よりスポーツに親しめる環境の整備、スポーツへの円滑な接続を行える体制整備を行うのは、現状においては、市であると考えています。 	E
	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツツーリズムの推進が何故スポーツ振興になるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国は、スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現を掲げています。当市の強みである高地トレーニング環境を活かしたスポーツ合宿の誘致、観光と連携したスポーツツーリズムを推進することで、知名度の向上、交流人口の拡大が図られます。スポーツ振興は、地域経済の活性化も含むものと考えています。 	E
3	<p>東御市スポーツ推進計画の策定に関する運動・スポーツに関するアンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題の認識の根拠は、アンケート調査結果であると考えますが、アンケート結果の引用（例示）がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画本文の簡潔さを最優先した結果、アンケート結果を資料編としました。アンケート調査結果における回答者等の構成については、追記します。 	B
4	<p>第3章 スポーツ推進のための具体的施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの力（重要性・有効性）、スポーツ 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂いたご意見は、今後の参考とさせていただきます。 	C

	に対する認識改善等が急務となっており、スポーツ行政においては、教育委員会、体育協会及び身体教育医学研究所等との情報共有をし、新施策（事業）の開発に取り組んで欲しい。		
5	<p>「1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰がどの様に行うかが明確ではない。任務分掌・責任を明示して具体的な計画であるべき。（「施策1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり」、「施策1-2 小学校期のスポーツへの円滑な接続」、「施策1-3 中学生期のスポーツニーズへの対応」、「施策1-4 子どもたちの育ちを支え、応援するための環境づくり」） 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進計画において示した施策の具体的な取組み内容等については、今後、頂いたご意見を参考に行動計画で明らかにしていきます。 	C
6	<p>「施策1-2 小学生期のスポーツへの円滑な接続」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいのある児童への取組みを加えてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 追記します。 	B
7	<p>「施策1-3 中学生期のスポーツニーズへの対応」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいのある生徒への取組みを加えてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 追記します。 	B
8	<p>「2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画は評価に基づいて具体的に記載するべきである。（「施策2-1 スポーツ参加のきっかけとなる機会（イベント）の充実」、「施策2-2 青壮年期のスポーツ活動の促進」） 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ推進計画において示した施策の具体的な取組み内容等については、今後、頂いたご意見を参考に行動計画で明らかにしていきます。 	C
9	<p>「施策2-3 スポーツ施設等（ハード）の整備と活用」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スポーツ施設長寿命化計画（仮称）」の策定にあたっては、「東御市公共施設等総合管理計画」及び「東御市立小学校長寿命化基本計画」との関連の記載が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 頂いたご意見を参考に再考します。 	B
10	<p>「施策2-4 ③総合型地域スポーツクラブや人材バンクの創設」について</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材バンクの創設についても明示願いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 追記します。 	B

11	<p>民間委託することとコスト削減の位置づけ。 設立・創設には検証が伴うべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「施策 2-4 地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実 ③総合型地域スポーツクラブの創設」、「施策 3-1 スポーツツーリズムの推進 ①地域スポーツコミッションの設立」 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂いたご意見を参考にさせていただきます。 	C
12	<p>「施策 2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①スポーツだけで高齢者の日々の楽しみとなり生活に潤いを与えられる地域は実現できない。②誰もが身近に運動・スポーツに親しめることだけでユニバーサルな地域は実現しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂いたご意見は理解しておりますが、本計画は、スポーツ分野で取り組む事項を記載していますので、実現に向けては、当然、他分野とも連携します。 	D
	<p>「施策 2-5 ①身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を中心にしているが、障がい者スポーツの充実も図ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変更します。 	B
	<p>「施策 2-5 ③小中学校における障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達がスポーツする障がい者と触れ合うことで障がい者の存在に理解を示すことを明言してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・追記します。 	B
15	<p>「施策 3-1 ②湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や宿泊受入」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の責務、市民の最低限の生活環境の維持と比較してスポーツ推進計画としてほしい。市民生活を悪化させて地域経済の活性化の好循環は創出できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの持つ多様な力に着目し、地域特有の資源、施設を有効活用した新たな取組み及び積極的なプロモーションによる知名度向上、交流人口の拡大等の地方創生を図ってまいります。 	D
16	<p>「施策 3-2 スポーツを活かした地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積」において、スポーツツーリズムの経済波及効果等の検証、分析は適正なK P Iで公表されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な機関等と連携した検証・分析において行います。 	C

17	<p>「施策 3-2 スポーツを活かした地域の活性化」について</p> <p>・施策に関する取組みは、具体的に記載すべきである。（「②専門機関等とのサポート連携協定の推進」、「③スポーツを活かした起業を支援する環境整備」、「④スポーツ医科学スポーツ参加のきっかけとなる機会（イベント）の充実」、「施策 2-2 青壮年期のスポーツ活動の促進」）</p>	<p>・頂いたご意見を参考に行動計画で明らかにしていきます。</p>	C
18	<p>「4 競技スポーツ人口の拡大と競技力の向上 施策 4-1 スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続」について</p> <p>・現状と課題の①から③が施策に関する取組みの①から③では対処できていない。</p>	<p>・頂いたご意見を参考に一部表現を変更します。</p>	B
19	<p>「施策 4-2 高みを目指す人々への支援」について</p> <p>・「①強化選手や一流指導者等への奨励・表彰制度の充実」は、現状と課題から導き出されない。</p>	<p>・一部を変更します。</p>	B
	<p>・「②競技レベルに応じた練習環境に移行するための支援」における、新たな地域スポーツ体制の創造が本計画の中心であるので具体的に記載すべきである。</p>	<p>・頂いたご意見を参考に行動計画で明らかにしていきます。</p>	C
	<p>・「③高地トレーニング環境整備と連動したトップアスリートや指導者等の招聘」、「④東御市、湯の丸高原へスポーツ合宿に訪れた選手やチームへの応援」の具体化が求められるが、行政の責務、市民の最低限の生活環境の維持と比較してスポーツ推進計画としてほしい。</p>	<p>・頂いたご意見を参考にスポーツコミッションを中心としたスポーツツーリズムにより、地域の魅力を最大限に活かした取組み及び積極的なプロモーション活動で知名度向上、交流人口の拡大を図ってまいります。</p>	C
20	<p>第4章 スポーツ推進のための具体的施策</p> <p>2 施策の推進体制と役割</p> <p>(2) 計画の実施を担う皆さんへの期待</p> <p>・「⑦企業等」において、企業内のスポーツ振興、トップレベル選手の育成、市民スポーツへの資金的支援もお願いしたい。</p>	<p>・頂いたご意見を参考に追記します。</p>	B

21	<p>(3) 各分野における市役所関係部局間の連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「①教育分野」において、教育委員会教育課、生涯学習課との任務分掌を明確にすることが必要である。「②経済・観光分野」において、商工観光課、農林課との任務分掌を明確にすることが必要である。「③保健・福祉分野」において、保育・幼児教育、健康保健課、生涯学習課(公民館含む)、福祉課との任務分掌を明確にすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂いたご意見を参考に行動計画で明らかにしていきます。 	C
	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所内の連携はもちろんだが、各種機関・団体を含めた連携体制を構築することが大切なので、組織の設置を計画中に位置付けてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂いたご意見のとおり、スポーツ振興は、市のみならず各種関係団体の連携無くして達成できるものではありません。については、各取組みの精査、関係者の抽出等を行動計画作成時には明らかにしていきます。 	C
22	<p>スポーツを取り巻く不祥事への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者に対する教育啓発、各スポーツ団体におけるガイドラインの作成、倫理委員会や相談窓口の設置などの対策を計画に反映させるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・頂いたご意見は今後の参考にさせていただきます。 	C

東御市スポーツ推進審議会条例

平成 30 年 6 月 26 日

東御市条例第 22 号

企画振興部文化・スポーツ振興室

(設置)

第 1 条 スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議するため、スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 31 条の規定により、東御市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(任務)

第 2 条 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査し、及び審議する。

- (1) スポーツ推進計画に関すること。
- (2) スポーツの推進によるまちづくりに関すること。
- (3) その他スポーツの推進のため市長が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 15 人以内をもって組織する。

2 委員は、スポーツの推進に関し識見を有する者のうちから市長が委嘱する。

(任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長)

第 5 条 審議会に会長を置き、委員が互選する。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第 6 条 審議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 審議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

4 審議会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(委員会)

第7条 審議会は、専門事項その他会長が必要と認める事項を調査審議させるため、必要に応じて委員会を置くことができる。

2 委員会の組織、運営その他必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

(幹事)

第8条 審議会に、必要があるときは、幹事を置くことができる。

2 幹事は、市職員のうちから市長が任命する。

3 幹事は、審議会の所掌事務について委員を補佐する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成30年7月1日から施行する。

(東御市特別職の職員の給与に関する条例の一部改正)

2 東御市特別職の職員の給与に関する条例（平成16年東御市条例第45号）の一部を次のように改正する。

別表第3の文化会館運営協議会の委員の項の次に次のように加える。

スポーツ推進審議会の委員	月額 6,300円
--------------	-----------

東御市 企画振興部 文化・スポーツ振興課

TEL : 0268-75-1455 FAX : 0268-63-5431

Email : bunka-sports@city.tomi.nagano.jp